

リード文はなぜ繰り返すのか？

－「反復」から読み解く放送ニュースの談話構造－

メディア研究部 井上 裕之

要約

放送ニュースはラジオ・テレビで広く親しまれ、近年はネットでも読まれるが、その談話構造についての言語学的な研究は少ない。本稿では、リード文の本文での「反復」を調べることで、それらの対応関係や、文と文とのつながりを探った。調査対象として、2012年のNHKニュース125本を抽出し、リード文の述部と、その反復箇所を本文から選んだ。反復は、同語だけでなく類義表現についても、事実性を重視しつつ選び、その分布（位置・順序）や表現の種類などを調べ、分析した。その結果、以下のことが明らかになった。

- ニュース125本中、110本（88%）の本文に、合計285例の反復が現れた。関連原稿を除けば、反復はほぼすべてのニュースに現れた。
- 反復の出現位置は、本文第2文が最も多く、次いで第1文、第3文の順だった。
- 典型的なニュースは、リード文述部とそれに対応する本文反復が同じ順序で現れる「相似型」のものであった。
- その順序が逆転するものには、▷反復が本文第1文の主題部で現れて本文への「流れ」を作る、「逮捕原稿」に代表される「本文冒頭承前型」や、▷本文末尾で現れて談話に「書き納め」を与える「本文末尾反復型」などがあったが、いずれも典型的でないものに含まれた。
- 反復は、リード文の内容を表現する映像と呼応関係にあり、スタジオ画面のあとにVTR映像が来るというテレビニュースの演出そのものとの関係が深いと考えられた。
- 典型的なニュース談話は、その主内容を、「リード文」「リード文に添えられる字幕」「本文の反復」「反復に呼応する映像」という複数の部分で伝える。その理解過程は、▷受け手はリード文とその字幕で主な伝達内容を理解し、▷次いで本文第1文で主な内容からはいったん離れるが、▷第2文で再度、伝達内容が反復として現れ、受け手は冒頭での情報理解の確実性を高める。▷そこに呼応する映像が現れ、受け手は伝達内容が現実のものであるとの確証を深める、というものになる。

目次

1 はじめに～ニュースの談話構造とは	240	4.5 小括	
2 先行研究と本稿のニュース談話モデル	240	5 分析	266
2.1 談話構造一般に関する先行研究		5.1 全体的な傾向	
2.2 ニュースの談話構造に関する先行研究		5.2 【調査A】反復の位置・数・順序から	
2.3 反復に関する先行研究		5.3 【調査B】反復の表現から	
2.4 文章理解についての先行研究		5.4 【調査C】反復どうしの関係から	
2.5 報道文に関する先行研究		6 考察	281
2.6 ニュース談話の構成の先行研究		6.1 相似型が多い理由は	
2.7 本稿のニュース談話モデル		6.2 ラジオ時代の反復は	
3 調査	246	6.3 テレビの登場とリード文	
3.1 リード文の述部とその反復を見る		6.4 映像と談話の関係	
3.2 調査対象の準備		6.5 逮捕原稿から見える映像との関係	
3.3 リード文述部の抽出方法		6.6 本文冒頭承前型や本文末尾反復型が少ない理由	
3.4 本文反復の抽出方法		6.7 ニュース頻出の指示語表現との関係	
4 調査結果	260	6.8 談話の理解過程の視点から	
4.1 リード文述部の数について		7 まとめ・今後に向けて	291
4.2 【調査A】反復の位置・数・順序		7.1 本稿のまとめ	
4.3 【調査B】反復表現の分類		7.2 残された課題	
4.4 【調査C】反復どうしの関係		7.3 ネット時代に向けて	

1 はじめに～ニュースの 談話構造とは

放送ニュース¹⁾(以下、ニュース)は、ラジオやテレビで広く伝えられる報道文で、主に耳から聞くものであったが、近年はネットにも上がり、目で読む機会も増えている。文字になっているため、ネット上では新聞記事などと混在して読まれているが、ニュースはもともと音声という放送媒体で発展してきたものなので、活字媒体で発展してきた新聞記事などとは異なる姿をしていると考えられる。

ニュース談話²⁾は、冒頭に要旨を示す「リード文」³⁾が置かれ、続く本文は詳細な「本文」が来るという構成については比較的よく知られている。これは、「結論の部分を先に予告」(井上鎮雄1988)する、「わかりやすく正確に伝える」(星野祐子2011)などの理由で説明されることが多い。しかし、新聞記事などと同様、最も重要なことから書き始める「逆三角形」(井上鎮雄1988)型であるという説明については、現在のニュースで確認されているとは言いがたい。ニュース談話の言語学的な研究は、文体⁴⁾や構成などの視点からは進んでいるが、リード文と本文がどう対応しているのか、どのようなつながりで展開しているのかは、必ずしも明らかになっているとは言えない。

ニュースは、その主たる媒体をラジオからテレビに移しながら発展し、日常的に多くの人々が接する極めて身近なものとなった。しかし、その言語学的な研究は、特にテレビ時代を迎えてからは、進んでいるとは言いがたい。音声がすぐに消えゆく媒体であることや、テレビが映像を伴うことなど、対象がやや捉えづらいという要因もあろうが、何よりテレビがあまりに日常に普及し、研究対象として興味を持ってないという点

があるかもしれない。

本稿は、ニュースの冒頭にリード文があることを起点とし、そこに本文がどのようなかわりを持って連なるのかという視点から、その談話構造を明らかにすることを目指す。ニュースは、ラジオからテレビにその“主戦場”を移すにあたり、媒体に合わせて姿を変えている。テレビというゆりかごの中でどのような構造を培ってきたのかを把握することは、今後のネット時代を見据える上でも、役立つことと考える。

2 先行研究と本稿の ニュース談話モデル

2.1 談話構造一般に関する 先行研究

本稿の前提となる、文章・談話の構造についての体系的な先行研究を挙げる。

文章中の文と文のつながりを明らかにする研究としては、まず、林四郎(1973)が挙げられる。文章は「流れ」(つながろうとする力)と、「構え」(離れようとする力)からなるとした上で、文章中の1つの文を言い起こす型を、始発型(「流れ」を作る原動力を担いそれを表すもの)、承前型(いったん起こされた流れを受けつぐ姿勢を持つもの)、転換型(流れに少しストップをかけて新たな「構え」を示すもの)の3つに分け、これらの分類に入りきらないものを自由型とした。そして、承前型を形づくる因子を「記号」(symbol)と「要素」(agent)、それに「位置」に分け、「承前記号」として接続詞や指示語を、「承前要素」として先行文中の語の反復や文の成分の省略などを、また「位置による承前」として先行文との相対関係を挙げた。承前要素の反復については、承前型の中でのその多さを指

摘し「他のどの承前要素よりも、また承前記号よりも、さらに位置による承前のすべてを合わせたものよりも、断然大きな一類である。」(p.215)とした。

市川孝(1978)は、「統括」(なんらかの意味で、文章の内容を支配し、または、文章の内容に関与することによって、文章全体をくくりまとめること)という機能を通じて、次のように文章を分類している。

- (a) 全体を統括する(大)段落をもつもの(統括型)
 - (ア) 冒頭で統括するもの(頭括式)
 - (イ) 結尾で統括するもの(尾括式)
 - (ウ) 冒頭と結尾で統括するもの(双括式)
 - (エ) 中ほどで統括するもの(中括式)
- (b) 全体を統括する(大)段落をもたないもの(非統括型)

また、文章の冒頭の型については次のように3類9種に分けている。

[叙述内容の集約としての冒頭]

- (a) 主題・要旨・結論・提案などを述べる
- (b) 主要な題材・話題について述べる
- (c) あら筋・筋書きを述べる

[本題に対する前置き・導入としての冒頭]

- (a) 筆者の立場・意向・執筆態度などを述べる
- (b) 本題の内容を規定し、本題に枠をはめる
- (c) 導入として、時・所・登場人物を紹介する
- (d) 本題に入る前に「まくら」を置く
- (e) 本題に対して対比的な内容を述べる

[本題を構成する一部としての冒頭]

(前置きや導入を置かないもの。会話などの場面から始まるものなど)

この中の「頭括式」や、「叙述内容の集約としての冒頭」の「(a) 主題・要旨・結論・提案などを述べる」などは、ニュースのリード文を捉える上で重要と考えられる。

2.2 ニュースの談話構造に関する先行研究

ニュースの談話構造に関する研究には、1961年のラジオニュース約40本を調査・分類した、林四郎(1963)と南不二男(1963)の一連の研究がある。ここではニュースを「伝達要素」(「ダレ」「ナニ」「ドコ」「イツ」「イクラ」「ドウ」という抽象的な6つの軸と、述語)に細かく分けるとともに、それらが集まってできる「情報単位」という、より大きなブロックとに分割した。そして、文章表現を成立させる「流れ」(近接情報への無抵抗な移行)と「構え」(意図的に離れること)の2つの概念を踏まえて、1つのニュースの中でこれらの情報単位がどのような関係に位置づけられるのかを(樹形図的な図として)示した上で、ニュースの文章を「事実展開型」「補足展開型」「題目詳説型」「題述詳説型」「題述解説型」「題述詳説解説型」の6類型に分類した。ここで扱われているのはテレビ普及前のニュースであるが、伝達要素を広範に捉えた総合的な視点からのニュース談話の構造研究で、現在のニュースにも適用可能な部分が多い。

菅野謙・石野博史(1968, 1969)は、上記「伝達要素」と「情報単位」の視点をを用いて、1965, 1967年度のラジオ・テレビのニュース文章の分類をしている。「伝達要素」を用いた分類では、「題目」「時間」「場所」などの出現する順番の違いで類型化を試みている。「情報単位」を用いた分類では、ニュース文章が、「主題提示部」「事実叙述部」「接続部」「情報源明

示部]「解説部]「補足部」という部分からなることを示し、部分ごとに類型化を試みている。これらは、ニュースの特徴をよく捉えた上で、類型化・分類に成功していると考えられる。この中の主題提示部は、現在のリード文とほぼ同じ概念のもと考えられるが、「この主題を示す『主題提示部』には、いわゆる『見出し』としてつけられたものと、そうではないものがある。」(菅野謙・石野博史1969)とし、最初から冒頭部分に主題が提示されていたニュースと、それが冒頭にないため、あとから「見出し」として冒頭に1文を加えていたものがあることを示している。この研究は、本稿と視点や手法が似ており、本論でも触れていく。

川村よし子・金庭久美子(1998)は、1997年のNHKのテレビニュースを対象に、リード文と本文の関係を調べたもので、ニュースをリード文と本文に分けた上で、本文の各文が、リード文の主題より時間的に前か後かという時系列の点から区分を試みている。その結果、テレビニュースは、「リード文」「詳細」「背景(リード文より過去にあたる)」「展望・付加(リード文より未来にあたる)」の4種類の文からなるとした。そしてその組み合わせから、ニュース談話を①「リード文」+「詳細」、②「リード文」+「背景」+「詳細」、③「リード文」+「詳細」+「展望・付加」、④「リード文」+「背景」+「詳細」+「展望・付加」、の4類型に分け、総合的に見て④がニュースの基本構造だと述べた。また、リード文の各要素が、第2文以降にそのままの順番で現れ、リード文とほぼ同一の表現が本文に見つかる事例を見だし、日本語学習者の聞き取りの視点で有用な発見であると述べている。これは、現代のテレビニュース談話を扱って、時間という視点を使うことで整理・分類に成功した一例と言えるだろう(金庭久美子・川村よし子

(1999)もほぼ同内容である)。

井上裕之(2016)では、放送ニュース草創期のリード文を調べた。戦前のニュース原稿を調査し、当初は通信社からの配信原稿の見出しを、本文から語句を引用しながら冒頭文(リード文)に書き換えていたため、リード文と本文とは語句が反復するようになったとし、反復であることには伝達内容の強調、理解促進の機能があり、これは同時に重複感が高くなる要素でもあったとした。また、こうしたリード文が実際につけられていたのかどうか、1937年、1941年、1943年の3つの原稿群(一部音声)について、特に述部の反復に注目して量的な調査をした結果、1937年のものはすべての原稿にリード文があったが、1943年のものには4分の1強しかなく、代わりに、原稿の全体像を示しつつも本文とで反復が起きない冒頭文(準リード文)が見られるようになったとした。

井上裕之(2017)では、2012年のNHKのニュースと毎日新聞の記事を約1,000本ずつ抽出して、(リード文に続く)本文の文頭の指示語の出現状況を比較した。その結果、新聞記事では第1文冒頭が0.7%、第2文冒頭が3.9%なのに対し、ニュースでは第1文冒頭18.9%、第2文冒頭32.9%と、ニュースでの出現が新聞のそれを大きく上回ることを示した。また、これらの指示語が本文でどのように使われることで、主要な内容(=リード文で示された内容)が本文に導入されるのかを明らかにした。

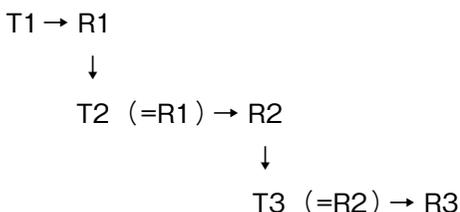
2.3 反復に関する先行研究

反復に関しては、それを基礎的に位置づけている市川孝(1978)が挙げられる。ここでは、反復語句を「繰り返し語句」と呼び、「前後の文脈を関係づけている同一語句、同義・類義の

語句」と位置づけ、文章全体での反復の出現の仕方について分類している。

馬場俊臣(2006)では、文章に完結性と統一性を与えるものを「表現(言語形式)の面」と「意味内容の面」という両面から考えたとき、この両面は「一篇の文章を成立させるために強く結びつき分離しがたく融合したものであるが、仮にこの2面を区別するならば、『反復語句』は『意味内容の面』を強く担った『表現(言語形式)』であると考えられ、それゆえに文章の具体性を比較的より強く保持した形で取り出せる『表現(言語形式)』であると考えられる」としている。本稿では、ニュースの意味内容にかかわる部分を論じるため、こうした視点で語句の反復に着目する。

文を情報構造として捉える、すなわち、文をテーマ(旧情報)とレーマ(新情報)の構成体と考えるプラグ学派のDaneš, F(1974)は、主な談話の主題展開について、(1)新たに導入された指示対象が次々と後続の文の主題となっていく「レーマの線条的主題化による主題展開」、(2)同一の指示対象が持続して文の主題となり、それに新たな情報が付け加えられていく「持続的主題による主題展開」、(3)上位のテーマからいくつかの下位テーマが派生される「派生的なテーマによる主題展開」を挙げた。このうち(1)は次のように示される(T=テーマ, R=レーマ)。



こうした捉え方は、特に(リード文の)述部の

反復によるつながりを調べる上では重要で、反復に関する先行研究として重視する。

熊谷智子(1997)では、「くりかえす」ことのコミュニケーション上の役割についてまとめ、繰り返したものを「強調する」という役割があると述べている。また、「言いかえや要約によるくりかえしは、話を整理して読み手の理解を助ける」ことに役立つとも述べている。後述するが、リード文述部は当該ニュースの中核的内容になると考えられるのであり、それが反復によって繰り返されるなどするということは、当該述部を強調し、話を整理して理解を助ける機能を果たしているものと考えられるだろう。

2.4 文章理解についての先行研究

放送媒体のニュースは「(耳で)聞く談話」であり、受け手(理解主体)は前から順々に談話を受け入れ、かつ、さかのぼって聞き返すことができないという特徴を持つ。こうした点にかかわる先行研究としては、文章理解に関するものがある。

1つは、認知心理学の分野の「先行オーガナイザー」の研究である。これは文章の本文を読む前に示される要旨のことで、例えば大村彰道(2001)では、先行オーガナイザーとは、本文の内容を読み手の頭の中に組織化しやすくする、本文を読む前に提示される前置きの文章だとしている。この視点からは、リード文は先行オーガナイザーとして、聞き手の本文理解を助けるものと言える。重要なのは、「リード文は本文を要約したもの」などといった説明ではなく、放送媒体ではリード文のほうが本文より必ず先に受け手の理解対象になる点である。

もう1つは、時枝誠記(1951)以降の文章論

の中に見られる「たどり読み」に関する先行研究である。森田良行(1969)では、「たどり読み」を「冒頭から順次展開に順行して読み進める」ものであるとして、「文章分析はあくまでたどり読みの過程としてなされるべきであり、文脈に逆行した読みはタブーとなる。あとの叙述を了解した結果、さかのぼってそこに文章構造上ある種の意味を認めるなどということは許されない」と述べている。このように、文脈展開に逆行せずに談話を見る姿勢が、本稿の前提になっている。

石黒圭(2002)は、たどり読みの実践的な方法を提示し、説明文を読み進める際には、序論の「話題表示文」と「論点表示文」、そして本論のあとの結論における「結論表示文」に注目することが重要であると述べる。また、これら各文には形態的指標があり、このうち論点表示文には何らかの意味で意味的な空白があり、それを結論表示文で埋めることになるとしている。この空白は、説明文を読み進める動機になっており、これがニュースの場合は何であるかを論じる必要があるだろう。

2.5 報道文に関する先行研究

稲垣吉彦(1987)では、新聞記事もニュースもともに報道文章であり、共通する性格として「第一に、速報性の制約から、早く書かなければならないこと」「第二に、新聞なら紙面、放送なら放送時間の制約から、伝達量が限定されること」「第三に、読者ないし視聴者が不特定多数の一般人であることから、わかりやすい文章でなければならないこと」を挙げている。さらに、「標準新聞文体」を「時・場所・人・原因・行為などの、いわゆる五W一Hを漏れなく語る仕組み」とした上で、後発のニュースがこれらを取

り入れたと述べている。速報性や情報量についての制限や、わかりやすさ、それに5W1Hといった前提条件は、ニュースにも同じく課されたものと言えるだろう。

ラジオとテレビのニュース談話の違いについては、庵功雄(2007)の概念が重要になる。ここでは、指示詞の研究の前提となる諸概念を規定する際、有文脈は「閉文脈」と「開文脈」に分けられ、前者が書きことばに代表される「自己充足型テキスト」で、後者が話しことばに代表される「非自己充足型テキスト」であるとした。また、後者は状況依存的であることが特徴的だと述べている。これに従えば、ラジオニュースの談話は前者でなければならず、映像を伴うテレビニュースの談話は、前者でもよいが後者であっても可となる。

2.6 ニュース談話の構成の先行研究

ニュース談話の構成については、先述した諸研究以外に、事典類で整理されたものがある。井上鎮雄(1988)は、ニュース文について「ニュースの項目ごとに、冒頭でこれから伝える内容と結論を手短に要約して知らせる。(中略)これがリード文(lead)で、視聴者にまずニュースの結論の部分を先に予告しておいたうえで、(中略)詳細な情報の部分に入っていく」「以下、いつ・どこで・何が(だれが)・どうした・それはどのように、なぜ、という5W1Hの要素を配列していく本文(body)が続く」とし、ニュース談話は、リード文と本文とからなると位置づける。

星野祐子(2011)では、テレビ・ラジオに認められる共通の型として「[[リード]→[詳細]→[補足]]」という3つの要素に分けて整理した上で、テレビのストレートニュース⁵⁾については、

「[アナウンサーの上半身映像]と[ニュース内容にかかわる映像]の二つの映像によって成り立って」いると述べ、2つのまとまりに分けている。

2.7 本稿のニュース談話モデル

上記の先行研究から、本稿ではニュース談話を次のようなモデルとして捉える。

(本稿でのニュース談話のモデル)

リード文
本文

本稿では、上図のように、ニュース談話(ストレートニュース)には、冒頭にリード文があり、そこに続いて本文があると捉える。リード文は、一般にはニュース現場で使われていることばでもあり、厳密な定義があるわけではないが、「ニュース項目ごとに、冒頭でこれから伝える内容と結論を手短かに要約して知らせる」(井上鎮雄1988)、「以下に扱うニュース内容を端的に言い表したもの」(星野祐子2011)などとされる。前者はやや送り手寄り、後者はやや受け手寄りの視点からの説明だと言える。

また、リード文の機能については、「結論の部分を先に予告」(井上鎮雄1988)しておく、または「わかりやすく正確に伝える」(星野祐子2011)などと説明される。一方、先行オーガナイザーの研究からは、受け手にとっては本文の理解を助けるために最初に示される文と位置づけることもできる。これらもやはり、その立つ位置によって、説明の仕方に違いが現れる。一方、本文については、井上鎮雄(1988)では「詳細

な情報」、星野祐子(2011)では「詳細」と「補足」からなると位置づけられている。

これらを踏まえ、本稿ではニュース談話を、先行研究で述べた市川孝(1978)の区分でいう「頭括式」として捉える。統括とは「なんらかの意味で、文章の内容を支配し、または、文章の内容に関与することによって、文章全体をくくりまとめる機能」である⁶⁾。その冒頭にある、統括の機能を持つ文をリード文と捉える。

その上で、本稿では、リード文は「ニュース談話冒頭にあり、多くの場合当該ニュースの要旨⁷⁾を示す」ものとする。「冒頭にはあるが要旨を示さない文」の場合、典型的なリード文とは言えないだろうが、本稿の調査対象にはそれらも含め、リード文の中の質的な差は個別に論じる。また、リード文は1文のことが多いが、複数になることがある。リード文と本文は、特にテレビでは画面演出的に区切られているが、談話としてはつながりを持ち、両者はまとまりを持っているため、このモデルでは点線で区切っている。

なお、本稿では、放送媒体のニュースは、受け手があとからさかのぼって聞き返すことができないことを、送り手もあらかじめ織り込んで制作に臨んでいるものと捉える。聞き手が途中で理解できなくなる事態を最小限に抑えるように、談話の展開やその速度を無理のないものにするのが、放送を成り立たせる前提になっていると考えるからである。

3 調査

3.1 リード文の述部と その反復を見る

本稿では、リード文の反復が、続く本文にどのように現れるか、そのつながりを見る。その際には、リード文の「述部」に着目し、それが本文でどのように反復するか、その対応関係を中心に見ていく。また、それがどのような理由によるものか、一部、テレビ普及前のニュース談話や、映像にも触れながら、質的な考察を試みる。

3.1.1 リード文と本文の対応を見る

本稿では、[2.7]でリード文は「ニュース談話冒頭にあり、多くの場合当該ニュースの要旨を示す」とした。ここから、リード文と本文には「要約と元の原文」といった言語上の対応があることが予想される。そこで、両者の間で類義表現を見ることで、対応関係の有無と、対応があるのならどのようなものを明らかにしたい。ここで、「要約」ではなく「反復」としたのは、(仮に送り手が本文を書いたあとにそれを要約してリード文を書いていたとしても)受け手にはリード文の次に本文が来るため、反復と捉えられるからである⁸⁾。

3.1.2 反復は放送に特徴的なもの

本文の反復を見るもう1つの大きな理由は、こうした反復が新聞などの報道文には通常見られず、放送に特徴的なものではないかという見立てがある点にある。これは、新聞記事の冒頭の文(「見出し」ではない)は、必ずしも本文の要約とは限らないからである。

小宮千鶴子(2011)によれば、新聞では「見

出しには、リードや本文から客観的に抽出された句が多用されるため、見出しと本文との間には、反復が現れることが考えられる。一方、新聞記事の本文については、「長い記事には、リード文(前文)が付く」「リードはニュースの要約」だとしている。これに基づけば、長い記事には冒頭に要約がつくが、短い記事などには冒頭に要約は置かれないことになる。

加えて、「新聞なら紙面、放送なら放送時間の制約から、伝達量が限定されること」(稲垣吉彦1987)とあるように、紙面では、全体の字数制限もあって、冗長さが避けられる。その結果、新聞では、特段長い記事でない限り、反復は現れにくくなると考えられる(「考察」で事例を検討する)。

一方、ニュースでは、リード文がある限り反復があることが想定され、本稿ではそれを明らかにしていくが、ニュースに反復があるとすれば、なぜ活字媒体には通常は現れず、放送媒体には(放送時間の制約があるにもかかわらず)現れるのが問題になる。これも考察で検討したい。

3.1.3 なぜリード文の述部か

談話研究では、一般的に、一對の「提題表現(トピック)」と「叙述表現(コメント)」からなる題述関係によって、文や節の構成を説明する。本稿で述部とは、この叙述表現とほぼ同義である。また、提題表現に対応する部分は「主題部」という語を用いることにする。述部は、具体的には叙述内容から提題表現や主語、補語⁹⁾、修飾語などを除いた部分とし、動詞などと、それに続く文末のモダリティー¹⁰⁾表現までを含めた部分とするが、詳しい調査方法は後述する。

リード文述部に着目する理由は、情報構造の側面から見た場合、文の述部が「新情報」を表すことと関係が深い。機能主義言語学(プラー

グ学派)では、1つの文を、発話の基礎である「テーマ」と、発話の核である「レーマ」という2つの要素に分けて考える。通常は主題部がテーマ、述部がレーマにあたる。テーマは「主題」「既知の情報、旧情報」、レーマは「叙述」「未知の情報、新情報」を表し、話の流れは「知られているもの＝テーマ(主題)に始まり、新しいもの＝レーマ(叙述)に向かう」(保川亜矢子2014)とされる。つまり、述部を見るということは、新情報として提示されたレーマ部分を見ることである。

ニュースは、社会的に新しい出来事や情報を伝える役割を持つ。その結果、その要旨を表すリード文述部には、「当該ニュースとしての社会的な新しさ」と、「文の情報構造上のレーマ(新情報)としての新しさ」という、次元の異なる2つの新しさが備わる。リード文述部は、社会的な新しさを表す文の中で、特に新情報を表す部分となり、おのずと当該ニュースの中核的な内容になる。これが本文でどのように引き継がれ、再配置されるのか(あるいはされないのか)に絞って調べ、対応関係を見るのが本稿のねらいである。

そして、反復が本文に出現する/しない、出現するならどこでどのように、といった、いわば分布を見ていくため、後述する【調査A】で「反復の位置・数・順序」を調べる。

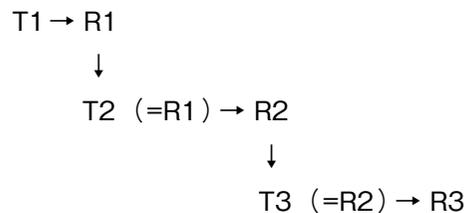
3.1.4 文脈展開の側面

反復の調査は、対応関係だけでなく、文脈展開の面からも見る。

[2.7]にも記したが、ニュースは、リード文と本文は、完全には独立せず、1つの談話としてのまとまりを持つ。これは井上裕之(2017)で、本文の第1文冒頭に前文脈を指す指示語が多いことから明らかである。加えて、主に音声であ

るがゆえに、「情報が時間の流れに沿って追加される線条的文脈」(星野祐子2011)を持ち、リード文の次に本文が来るという順序が、受け手によって逆転することもない。つまり、リード文と本文は、一方で「要旨と本文」という関係を保ちながら、他方では『始発の文』と『承前の文』(林四郎1973)のような関係で結ばれる。こうした場面での反復は、「文と文はどんな語句で関係づけられるか」(佐久間まゆみ2011)という文脈展開を示し、談話構造を見る1つの要素と捉えることができる。

リード文述部は、次に来る本文第1文に引き継がれた場合、そこでは旧情報(＝テーマ)になる。こうしたケースを、Daneš, F (1974)は、談話の主題展開の主なものの1つとして、新たに導入された指示対象が次々と後続の文の主題となっていく「レーマの線条的主题化による主題展開(TP with linear thematization of rhemes)」だとし、次のように図示した(再掲)。



これについて、砂川有里子(2005)は、小学校の国語の教科書から次の例を引用して説明する。ここでは、補語が対象になっているが、上の図式のようにレーマが次の文のテーマに引き継がれている。

はとがありを見つけました。

↓

ありは木の葉につかまりました。

↓

木の葉は船になりました。

このような文脈展開は、リード文のレーマと、本文第1文のテーマで、反復として現れる。これは、リード文とその次に来る本文第1文との「流れ」(林四郎1973)を表す。リード文と本文が一連の談話を作っているから起きることで、リード文が本文から独立した要約文であれば起きないことである。述部を見るのには、このような典型的な文脈展開を見る側面もある¹¹⁾。述部に着目することは、ニュースの中核的な情報内容が、談話内でどう展開するのかという視点で談話構造を見ることにつながる。

「レーマの線条的主題化による主題展開」が見られた場合、リード文の述部は本文では主題部に現れるため、両者の表現形式には違いが見られる。こうした点を視野に入れつつ、後述する【調査B】(反復表現の分類)で見えていく。

3.1.5 テレビ普及前のニュースや映像との関係について

本稿では、NHKの「汎用原稿」を対象にする。汎用原稿は、ラジオ、テレビ、ネットではほぼそのまま使われる、いわば“マルチ”な原稿¹²⁾であるが、ラジオのように映像という補助情報がない媒体でも理解可能になっているため「閉文脈」(庵功雄2007)の談話と言える。しかし、ラジオ・テレビ併存の時代が半世紀以上も続いたため、閉文脈であっても、テレビ演出の影響を受けた談話に変容している可能性がある。

このため、映像のついたテレビニュースの事例や、テレビ普及前の“ラジオ時代”のニュース

の事例も見ながら、「考察」で質的に検討する。ラジオ時代のニュース談話は、NHKではまともな形では残っていないので、断片的な形で残っている記録を用いて、質的な側面から検討を加える。

3.2 調査対象の準備

3.2.1 ニュースの抽出

本稿での調査対象は、2012年のNHKニュースの汎用原稿100本余りとした。先述したが、NHKでは、出稿担当者(放送記者とニュースデスク)が完成させた最も基本的なニュース原稿を汎用原稿と呼ぶ。ほぼそのまま各媒体で放送・配信できるものとして作成されていることから、本稿の調査対象として最も適当である。NHKのデータベース「NHKニュースアーカイブス」¹³⁾を利用し、2012年の汎用原稿5万2,884本から、400本に1本を抽出し、137本を抽出した¹⁴⁾。

ここから、1文構成のもの(7本)を除いた(リード文と本文があるニュースは必然的に2つ以上の文から構成されることになるため)。さらにここから、極端に長いニュースとして本文が9文以上のもの(5本)を除いた¹⁵⁾。その結果、125本のニュースを抽出した。

抽出したニュースの中には、独立した1つのニュースではなく、別のニュースに連なることを前提に書かれたものもある(放送局では「関連原稿」などと呼ばれる)。こうしたものも区別せず、調査対象に含めた。

3.2.2 リード文と本文の分離

次に、これをリード文と本文に分ける。先行研究から見て、放送ニュースのリード文には、以下の3つの特徴が挙げられる。

- (1) 当該ニュースの冒頭部分にある
- (2) 当該ニュースの要旨を表す
- (3) テレビではアナウンサーがスタジオで顔を出して読む¹⁶⁾

特徴(3)は映像とセットでなければわからないため、調査対象としてテキストデータを扱う本稿では、リード文の第1文(「第1リード文」と呼ぶことがある)の抽出には(1)を用いる。このため、ニュース冒頭の1番目の文はすべてリード文(第1リード文)とした。中には(2)を満たさないものも含まれ得るが、それについては調査を通して論じていく。

続く2番目の文は、通常は本文の冒頭文となる。ただし、第2リード文の可能性も一定程度ある。この判定は、本文の始まりを特定する意味で重要であるが、テキストデータのため(3)は使えない。そこで本稿では筆者が本文を参照し、(2)を満たすかどうか意味的な検討を行い、満たせば第2リード文とした¹⁷⁾(その場合、第3リード文の有無の可能性も同様の手順で確認した)。本稿でリード文は「ニュース談話冒頭にあり、多くの場合当該ニュースの要旨を示す」としており、要旨を示さないものも含まれる可能性があるが、第2リード文の特定は調査に必要不可欠であるため、この特定に限って(2)を用いる。なお、リード文・本文を通して、文の単位は句点を基準とするが、「」(かぎっこ)内の直接引用の中の句点はこれに含めない。

3.3 リード文述部の抽出方法

3.3.1 述部は複数の場合も

リード文の述部は、単文の場合は1か所だが、複文の場合は複数になる。その場合、基本的には、文の中核を担う主節の述部を調査の対象

とする。ただし、いわゆる重文やそれに準じる場合は従属節の述部も調査対象とする。具体的には、以下の5種類とする。

- (1) 「(従属節)，(主節)。」¹⁸⁾
- (2) 「(従属節)て，(主節)。」
- (3) 「(従属節)ほか，(主節)。」
- (4) 「(従属節)上で，(主節)。」
- (5) 「(従属節)一方(で)，(主節)。」

(1) 従属節の述語が連用中止法をとる場合と、(2) テ形で終わる場合の2つは、いわゆる重文の典型的なものと言える¹⁹⁾。これらは、従属節が主節と対等の資格で結合していると考えられ、従属節も重視した。ただし(2)の「～て」は、付帯状況を表すことが明らかな「～を受けて」、確定条件を表す「～として」は、扱わない。

(3)(4)(5)も重文に準じた扱いで調査対象にする²⁰⁾。(3)は、例えば事故のニュースで「…○人が死亡したほか、○人がけがをしています。」といった文はよく現れ²¹⁾、従属節の述部(ここでは「死亡した」)のほうが、主節の述部(ここでは「けがをしています」)よりも中核的な内容を担うことはよくあるためである。(4)は、時間的な前後関係を表し、一般には従属節が主節の準備と位置づけられる表現だが、ニュースでは「主節の準備」という意味が明瞭でなくても、時間の前後関係があれば使用されている²²⁾。(5)の「一方(で)」は対比を表す表現だが、これも放送では、従属節が(主節と比べて)中核的な内容を負うことがある²³⁾。これらの表現は、内容を並列に述べるときに使われる表現と考えられ、本調査では、ニュースというジャンルを踏まえ、これらも調査対象とする。なお、リード文が2文からなる場合は、第2リード文についても同様の手法で調査対象を抽出した。

3.3.2 述部調査対象には補語なども

リード文の述部は、どこからどこまでを対象の範囲とすべきか。先述のとおり、本調査で述部とは、基本的にはその文の叙述内容から提題表現や主語、補語、修飾語などを除いた部分とし、動詞などと、それに続く文末のモダリティー表現までを含めた部分と捉える。

補語は、特段の理由がなければ、対象範囲を選ぶ際の参考にはするが、範囲そのものには入れない。しかし、「する」²⁴⁾や「なる」など、実質的な動作性が希薄であったり、抽象的で、補語があったほうが意味をとりやすかったりする動詞等もある。また、本文の反復が類義語や類義表現として出現する場合は、より意味的な側面が重要になる。このため、こうした場合は補語も含めることにする²⁵⁾。

例えば、リード文述部が「優勝を決めました。」で、本文に「優勝しました。」が現れた場合、類義表現の反復と考えてよさそうであるが、補語を完全に除くと前者の「優勝」はウ格をとる補語なので、述部は「決めました。」のみとなり、本文での反復を捉えにくくなる。「サ変動詞²⁶⁾の語幹²⁷⁾+助詞+動詞」の場合などは、ひとまとまりの述部と捉えるのが妥当であると考ええる。

また、例えば以下のような場合は、「50人以上」というガ格の主語までを対象範囲としたほうがよいだろう。

例(リード文述部)「50人以上が死亡し…」—
(本文反復)「死者の数は女性や子どもを中心に50人以上に上ったということです。」

※以下、上記のようにダッシュ(—)を使用した場合、特段の断りがない限り、前部が「リード文述部の表現」、後部が「本文反復の表現」を表すことにする。

3.3.3 形式名詞等ではその前部も

ニュースに頻出する述部表現²⁸⁾がある。例えば「～こと」²⁹⁾「～もの」などの形式名詞がよく用いられる。「～したことがわかりました」という表現の場合、述部は、狭くは「わかりました」で、ガ格をとる「こと」は主語(主格)となるが、ニュースではこの表現全体が頻出表現で、その前の連体修飾部(ここでは「～した」の部分)のほうに、ニュースの主な内容が含まれることが多い³⁰⁾。また、「わかりました」の部分は、本文では他の類義の表現に変化して(反復として)現れることも予想される。

これは、「方針」「案」「措置」「報告書」「声明」「考え」「姿勢」「予定」などの「情報源」(情報が集約されたもの。それに準じるものを含む)を示す名詞でも、同様の傾向を有する。「～報告書がまとめられました」「～考えを示しました」などはニュース頻出の表現で、それゆえに、こうした名詞の前の連体修飾部にニュースの主な内容が含まれることが多い³¹⁾。

さらに、これらと似た役割を果たす以下のような語もある。これらも、その前部に主な内容が含まれることが多い、ニュース頻出表現と言える。

- ◆「～としています」「『～』と述べました」などの表現にある格助詞「と」
- ◆「～しているのが見つかりました」のように、連体修飾語を作る準体助詞「の」
- ◆「～よう求めました」などの助動詞「よう」

これらの語が現れる述部では、「明らかになりました」「わかりました」「示しました」「まとめました」などといった表現が共通して続くことが認められ、広く捉えれば、いずれも「情報の顕現に

かかわる表現」と言える。これは、ニュースという最新の情報を伝える談話に特徴的な表現と言えるだろう。

そこで、①形式名詞、②情報源を示す名詞、③「と(という, とした)」「の」「よう」といった語を、合わせて「形式名詞等」と呼び、それらが述部に登場した場合は、その前部に現れる述部も対象範囲に含めることにする。また、そこにも形式名詞等が出現した場合は、さらにその前部も見ることにする(前部に述部がなければ、そこは対象とはしない)。

例えば、「…(昼食の時間が)短くなったという調査結果がまとまりました。」というリード文は、情報源を示す「調査結果」や、「という」を含む。こうした場合は、「短くなった」から「まとまりました」までを1つの述部と捉える。そして、本文で「…をとりまとめました。」と「(時間が)短くなりました。」の2か所に分かれて反復が現れたと捉えられる場合は、述部は1つだが、反復は2つと捉える(反復対象部分の詳細は後述する)。

例えば「～し、～したことがわかりました」などといった形で、形式名詞等の前に述部が複数(ここでは「～し」と「～した」)現れることもある。その場合も述部は複数になり、調査対象部分が複数になる。なお、こうした場合、本稿中では、その表現を見やすくするために、前者について「し(たことがわかりました)」のように丸かっこ内を補うなどして表示することがある。

なお、形式名詞等の前部や後部は対象とするが、そこに含まれる情報源を示す名詞部分が本文で単独で現れる場合(例えば「報告書では…」などの形で出現)は、それだけでは反復として捉えず、前部や後部を伴って現れたときに対象部分とする。

3.3.4 述部抽出のマークづけ

第1リード文の述部は、当該部分に下線を引いて、K, L, M, Nなどとマークをつけるが、文末(句点のあるところ)に最も近い述部はすべてNにそろえる。そして、文末から前にさかのぼる形で、順番にM, L, Kとつける。つまり、第1リード文にNが1つ存在し、述部が2つある場合は前から順にMとNとなる。3つある場合は前からL, M, N, 4つの場合はK, L, M, Nとなる。同様に、第2リード文では、文末に最も近い述部をZにそろえ、前にさかのぼる形でY, X…とつける。これら大文字のアルファベットを、ここでは「述部マーク」とする。

文末を同じN(ないしZ)にそろえたのは、主節の述部(句点の直前の述部)をすべてN(ないしZ)でそろえられる点を重視したためである。

3.4 本文反復の抽出方法

3.4.1 反復をどう捉えるか

○反復の基本的な捉え方

次に本文の反復の抽出である。談話で反復を研究対象とする際、通常は頻出語を対象としない。馬場俊臣(2011)では、反復表現について「助詞・助動詞類、感動詞・接続詞等や無性格語(「する」「こと」などのような文章・談話にも頻出する語)は含めないのが普通である」としている³²⁾。本稿でも反復を見るときは、述部が動詞文であれば動詞、形容詞文であれば形容詞、名詞文であれば名詞を中核的部分と捉えて抽出を行う。

○類義表現を選ぶ

立川和美(2011)は説明的文章における反復について「読み手の理解を促すために類義の

内容の言い換えが多出し、これらが読解の手がかりとなることが多い」としている。本調査では、リード文述部の調査対象部分の同語、同義語・類義語に加えて、類義表現も、反復として捉える。

同語は意味も語形も同じ語で、同義語は「単語Aの意味と単語Bの意味とが完全に一致する」(宮島達夫1994)もの、「同一の言語において、同じ意味を持つ、語形の異なる二つ以上の語」(石井正彦2014a)とされる。類義語は「(意味領域の)大部分がかさなるもの」(宮島達夫1994)、「同一の言語において、意味を部分的に共有する、語形の異なる二つ以上の語」(石井正彦2014b)とされる³³⁾。

類義表現については特に定義があるわけではないが、先述の立川和美(2011)からは、さまざまな表現が予想され、意味的に同じ、あるいは重なっていれば、その表現は広く反復と捉えることになる。なお、ここで出てきた同語、同義語・類義語、類義表現をまとめて呼ぶ場合は、「類義表現」とすることにす。

○事実性を重視

本調査では、本文中にある、リード文述部の類義表現が反復であるかどうかを判定する際には、それがリード文述部の「事実性」を備えているかどうかを重視する。これは、形式的な面だけでなく、意味的な面で反復であるかどうかを重視することを意図している。

前田直子(2009)は、「リアリティー」という概念を「言語に表された事態と現実との事実関係」と定義し導入して、論理文と呼ばれる複文の整理に用いている。現実のことがらと文との関係は、これまでも言語研究を進める上で対象とされてきた。

これを踏まえて本調査における「事実性」と

は、ニュース本文の類義表現に表された事態と、(リード文述部で表される)現実との事実関係、とする。本文の類義表現が、リード文の表す現実と事実関係を結んでいれば反復と捉える。一方、類義表現があっても、リード文述部の表す現実と事実関係を結んでいるとは言いがたいものは、事実性が低いので、反復と捉えない。反復の認定については、筆者以外にチェック担当者を設けて作業を進めた。詳しくは「【調査A】について」で後述する。

○言語形式と言語サイズの視点をを用いる

川原裕美(1989)は、要約文中の「パラフレーズ」は、要約の対象となる原文の「文や段落を越えた意味関係」を、「ある一定の字数制限の範囲で書こうとする時に、起こる」もので、「要約文における原文の言語形式の変化を指す」ものとしている。そして、その分析では、以下の2項目を検討対象とした。

(ア)「言語形式」(助詞の変化、動詞のモード³⁴⁾・テンス³⁵⁾・アスペクト³⁶⁾などの変化、自立語³⁷⁾の類義語などへの変化)だけが変化して、「言語サイズ(語、句、節などの統語³⁸⁾的単位)」が変わらない場合

(イ)「言語形式」と「言語サイズ」の両方が変化する場合

「両方が変化する」という(イ)は、具体的には、①自立語化、②フレーズ化(格助詞を伴う節などに変化)、③従属節化³⁹⁾、④センテンス化、が挙げられている。

後述するが、今回の調査では、こうした視点を参考にし、助詞の違いや動詞のモダリティー、テンス、アスペクトなどの違いである場合と、それよりも大きな変化がある場合とを分けて分類をしていく⁴⁰⁾。

なお、本文での反復の対象部分の範囲は、リード文と同様、必要に応じて補語を含め、形式名詞等の前に来る部分も指して論じる。リード文の形式名詞等の前部と後部に対応する反復が、両方現れることもあれば、一方しか現れないこともある。また、反復は、本文で述部に現れることも、述部以外に現れることもある。1つの述部が複数の箇所にあたって現れれば、それぞれを検討対象とする。

3.4.2 反復の抽出方法とマークづけ

本文反復について次の3つの調査を行う具体的な進め方を述べる。

【調査A】(反復の位置・数・順序)

【調査B】(反復表現の分類)

【調査C】(反復どうしの関係)

(1) 【調査A】について

【調査A】では、反復が本文の何文目で出現するか等を調べ、その位置や順序などを明らかにし、リード文との対応関係の分析に活用する。リード文述部に振った述部マークK, L, M, NやV, W, X, Y, Zに対応させて、本文で現れた反復を、「反復マーク」と呼び、それぞれ小文字のk, l, m, nやv, w, x, y, zを振ることにする。複数現れた場合は番号を振る(例えば述部Kについて本文の2か所で反復があった場合は、現れた順番にk1, k2…などとする)。反復マークがアルファベットの順序で現れれば、対応するリード文述部と同じ順序で現れていることになる。

○チェック作業

この作業は、まず筆者が、抽出した汎用原稿をリード文と本文に分けた上で、述部と反復の当

該箇所を抽出して下線を引き、述部・反復マークのアルファベットを振った。その上で、チェック担当者2名⁴¹⁾に、今回の作業手順も示しつつ、抽出した下線部が妥当かどうかのチェックを依頼した。

その結果、リード文述部については、補語を加えたほうがわかりやすいなどの箇所があるとの指摘があった。本文反復については、「事実性」をめぐる筆者とチェック担当者らとは当該箇所を選ぶ傾向がやや異なり、筆者が下線を引かなかったものの、2名とも「反復である」と指摘をした箇所が複数あった。そのため、次のように考えることにした。

例えば、リード文述部で「(○○と××が) 会談し, …」とあり、本文で「会談しました。」「会談の詳しい内容は…」「また、会談で○○は…」「会談を終えた××は…」などと、「会談」という語が4回出てくるニュースがある。ここでは、筆者もチェック担当者も、本文最初の「会談しました」だけが反復であると捉えた。これらは、単にサ変動詞語幹の「会談」が出てくるだけでなく、語の形式が同じく動詞で、動作主が明示されていることなども加わって、事実性があると判断されたと考えられた。

しかし、次のような例では、筆者は、本文下線部の「政権交代」は条件節での出現なので、事実性はやや薄いと判断したが、チェック担当者は反復にあたりと判断した。

(リード文)

「…フランス大統領選挙は、野党・社会党のオランド氏が、現職のサルコジ大統領を破って(L)、政権交代を果たし(M)、…」

(本文第7文)

「ヨーロッパでは信用不安による影響で、去年、イタリアやスペインなど各国で政権が退陣に

追い込まれており、フランスでも、政権交代が起きた (m1) ことで、今後のヨーロッパの信用不安対策の行方が注目されています。」

この例では、「政権交代」という語はリード文に現れたあと、本文では第6文まで出てこず、第7文で初めて出てくる。ここから、リード文述部に含まれるキーワードとも言える語 (の類義表現) が本文で初出するとき、そこには (リード文述部と本文との) 意図的な呼応があると、受け手には感じられることがあり、事実性も伴うと感じられるのではないかと考えられた。こうしたことから、本文の類義表現の事実性の有無を判断する際には、当該の類義表現が本文で初出であるかどうかなども踏まえて行うことにした。

(2) 【調査B】について

反復の表現は、言語形式と言語サイズの視点から以下のように分類することにした。

- a) リード文述部の表現が、本文に全く同じ形で現れるもの
- b) リード文述部の類義表現が、本文でも述部として現れ、その表現の違いが言語形式や形式名詞等にかかわる違いにとどまるもの
- c) リード文述部の類義表現が、本文では述部以外で現れたり、ボイス⁴²⁾などが異なる形で現れたりするもの
- d) リード文述部の類義表現が、a, b, cに当てはまらない別の表現で本文に現れるもの

(反復の分類の説明)

- a) リード文述部の表現が、本文に全く同じ形で現れるもの

リード文述部と反復 (この場合は同じく述部

で現れるものとする) が全く同じ形で現れる類義表現をaとする。これは助詞、活用、モダリティ表現などもすべて同じであることを条件とする。先述したようにリード文述部は形式名詞等が含まれる場合はその前部も見ることになっているが、その前部も後部も含めて同じ形式のものとする。

- b) リード文述部の類義表現が、本文でも述部として現れ、その表現の違いが言語形式や形式名詞等にかかわる違いにとどまるもの

ここでの類義表現は、「言語形式にかかわる違いにとどまるもの」とした。これは、川原裕美 (1989) の「『言語形式』だけが変化して『言語サイズ』が変わらない」ものと同義で (ここでの「変化」は、本調査では「違い」に相当する)、言語サイズに違いがないものとは、リード文述部の類義表現がフレーズや従属節になっていないことでもあり、すなわち本文でも基本的には述部として現れることが条件となる。箇条書きで示すと、「bの条件」は▶活用、助詞、モダリティ、アスペクトなどの違いにとどまるもの、▶「自立語とその類義 (と認められる) 語」の違いにとどまるもの、▶形式名詞等にかかわる違いにとどまるもの、となる。以下、説明する。

- 活用、助詞、モダリティ、アスペクトなどの違いにとどまるもの
これには、以下のようなものがある。

例「広がり」―「広がっていて」(アスペクトの違い)

「会談し」―「会談しました」(助動詞の有無の違いはbとする)

○「自立語とその類義（と認められる）語」の違いにとどまるもの

これについては、本文の類義表現が、上記の「類義語」や「類義と認められる語」にあたるかどうかは、言語サイズが変わらない範囲であり、置き換えても、文法的に妥当で意味的に同じことを指せばbとする。

例「(○○区域に) 立ち入り」—「(○○区域に) 入りました」(置き換え可能で、かつ助動詞の有無の違いなのでb)

置き換えられない場合は後述するdとする。言語サイズに違いがあるものも、ここには含めない。以下の例は、類義表現と認められるが、反復に「成田空港に」という「名詞+助詞」の表現が加わっているので、bではなく、後述するdとする。

例「帰国しました」—「成田空港に到着しました」

○形式名詞等にかかわる違いにとどまるもの

これについては、リード文述部に形式名詞等がある場合は、前部が条件を満たせばbとする。つまり、本文で現れた類義表現が、bの条件である▶活用、助詞、モダリティ、アスペクトなどの違いや、▶自立語と、その類義（と認められる）語との違い、にとどまる場合は、後部が違う形をとっていてもbとする（ただしその場合は、前部が全く同じ形でも、後部は違う形なので、aとはせずbとする）。これは、逆に本文反復の側に形式名詞等がある場合も同様に考える。

リード文述部が形式名詞等を含む場合、本文の反復との対応関係はさまざまなケースが出てくるが、基本的には、前部を見ることを重視する

(後部が本文に見つからなくてもよい。これは逆に本文側に形式名詞等があってリード文側にない場合も同様)。述部の前部と後部の類義表現が本文の別々の場所に離れて現れる場合は、双方を反復として見ることもある。その場合は、仮に前部（または後部）だけは全く同じ形で反復されていても、全体としては全く同じ形とは言えないので、当該箇所はaとせずbとする。以下、形式名詞等の部分を太字とした。

例「見込まれるということです」—「見込まれるとしています」

例「活用されることになります」—「活用される見通しです」

例「退ける判決を言い渡しました」—「(判決では…) 退けました」(後者の「判決では」は対象としない)

例「切りつけられたと警察に通報がありました」—「切られたと話していると通報がありました」

例「けがをして (います)」—「けがをしているということです」

例「始まる予定です」—「行う予定です」(前部を類義語と見た場合)

例「『…措置をとると約束する』とした首脳宣言を発表しました。」—「首脳宣言を発表しました。…『…政策措置をとる』と明記し…」(述部が本文では分かれて現れている。この場合「首脳宣言を発表しました。」はbで、「政策措置をとる』と明記し」はdと捉えられる)

また、上記3つ以外に、以下の場合については、検討の上でbにするかどうかを決めた。

○引用形式の違いの場合

例えば、リード文では間接引用の表現が、本文では直接引用の表現になっているなど、引用形式が違う場合がある。例えば以下の例はbとする。放送で後者は引用符が音声化されず「…売り注文が出たと話しています」のように聞こえるため、「出て」と「出た（と話しています）」の違いとなり、bと考えられる。「と」の前に「など」が入る例がある場合もここに含めることがある。述部と反復の当該の部分が全く同じ形でも、一方のみが直接引用の中にある場合は、aとせずbとする。

例「売り注文が出て（…ました）」—「『売り注文が出た』と話しています」

○「など」が入る場合

次のように、動詞のあとに「など」が入る場合がある。前者の「など（して）」は、後者の「（500万円～に）振り込んだ」と対応すると考えられるため、「手渡した」はb、「振り込んだ」は、後述するdとした。

例「手渡すなどして…」—「手渡したほか、500万円を男の指定する銀行口座に振り込んだということです」

○動詞表現と名詞表現の違いの場合

同じ語を含み、動詞表現と名詞表現の違いと捉えられる場合はbとする。

例「20位にとどまりました」—「20位で（した）」

○サ変動詞の場合

どちらか一方にサ変動詞を含む場合、語幹部分が同じで、もう一方に「語幹+格助詞+動詞」とあって、意味も類義表現の範囲と考えられればbとする。また、述部サ変動詞の語幹が本文では単独で使われたり、別の語を作ったりしている場合は、事実性を残しているかどうかを（当該の文の主語なども含めて）検討した上、ケースごとに判断する。

例「注目され」—「注目を集めています」

→bとする。

例「運行されることになり」—「運行開始を祝っていました」

→「運行される（こと）」という動詞表現と「運行開始」という名詞表現との違いで、後者はヲ格の補語になっていると捉えられ、後述するc1とした。

例「〇〇と□□は、きょう、2回にわたって会談し」—「〇〇と□□の会談は、…で2回にわたって行われました。」

→サ変動詞「会談する」の語幹が本文では主題部で反復として現れた形であるが、実質的には「行われました」が反復であるともとれる。このため後述するdとした。

サ変動詞ではないが、補語に動作性があり、サ変動詞と似た形で現れるものに、以下の例があった（反復は本文第1文）。リード文述部は「行っています」よりも「検索」という動作性のある語に実質的な意味がある。本文で初出の「検索」には事実性が認められ、リード文述部を名詞表現で伝えるものと考えられ、反復と捉えて後述するc1とした。

例「検索を行っています。」—「検索には、警察と海上保安部から90人が参加し、…」

○「ものだ」が入る場合

例「公表する異例の措置に踏み切りました。」—「これは、ギリシャ財務省が22日、公表したもので、…」

リード文の「異例の措置」は情報源を表す名詞のため、「公表する」と、その類義表現である、本文の「公表した (もので)」の違いを見ることになるが、いわゆる「報道文の『ものだ』」をどう捉えるかが問題になる。「～もので (す)」と続く文や節は、述部と捉えられることも、「もの」に続く連体修飾と捉えられることもある⁴³⁾。本調査では「ものだ」が省略可能かどうかで事例ごとに判断する。上記例は、「これは、ギリシャ財務省が22日、公表し (ました)」というように省略可能なのでbとする。省略不可能であれば、言語サイズにかかわる違いと捉え、後述するc2とする。

c) リード文述部の類義表現が、本文では述部以外で現れたり、ボイスなどが異なる形で現れたりするもの

bに収まらない違いのうちのいくつかをcとする。cは、リード文述部の類義表現が、本文では主題部など述部以外の要素となって現れるもの(=「c1」)や、動詞のボイスなどが異なる形で現れるもの(「c2」「c3」)とする。bよりcの変化のほうが大きいので、「bかつc」の場合はcに分類する。

○主題部や修飾節などで現れるもの(c1)

川原裕美(1989)の「言語サイズ」の変化は、

本稿で言えば、リード文の(述部を含む)主節等が、本文では自立語やフレーズなどになって現れる場合を指す。例えば、「…男が逮捕されました。」—「逮捕されたのは…」という例では、リード文述部「逮捕されました」が、本文では準体助詞「の」によって体言となり(=フレーズ化)、言語サイズが変化した上で(この場合は)主題部に収まっている。これは先述のとおり、テーマ/レマの視点で談話の展開を見たときによく見られる例であるが、こうしたものをc1とする。

例「…が逮捕されました。」—「逮捕されたのは…」

→述部の類義表現が主題部に現れる。

例「徹底するよう求めました。」—「要請したのは…」

→リード文述部の「よう」の後部「求めました」が、本文で「要請する」という類義表現になるためbの要素を有するが、本文では主題部に現れる。bよりもcが大きな違いなので、c1とする。

例「…の事件から、きょうで8年となり…。」—「…事件から8年となるきょう、…」

→述部が連体修飾節となって現れる。

例「…20位にとどまりました。」—「日本が20位にとどまった理由について…」

→述部が連体修飾節となって現れる。

例「注意処分にしました。」—「処分を受けたのは…」

→述部の動詞「する」に実質的な動作性が低いので補語を含めて捉え、かつ、その受身形

「注意処分にされる」と「処分を受ける」は類義表現と捉えられる。それが主題部に来ているのでc1とする。

例「立ち入り検査しました。」—「立ち入り検査を受けたのは…」

→リード文述部は「立ち入り検査」を語幹とするサ変動詞で、その受身表現「立ち入り検査される」の類義表現が本文に現れる。反復は主題部に現れるため、c1とする。

○受動形と能動形の違いがあり、かつc1に含まれないもの(c2)

c2は、言語形式の違いが、(動詞のムード・テンス・アスペクトなどの違いを越えて)ボイス(能動と受動)の違いに及ぶものである。リード文では受動形だったものが、本文では能動形になっているもの、あるいはその逆のもの、動作主が同じでも文の主格が違うものが含まれる(ただし、c1とc2を兼ねる場合は、c1に分類する)。

例「逮捕しました。」—「逮捕されました。」

→受身形になりc2となる。c1を兼ねる場合はc1とする。

例「(…予備会合が…) 開催されることが決まりました。」—「(…予備会合を…) 開催することを決めました。」

→c2に該当する。「開催する/される」の動作主は本文中にのみ(「日本政府と台湾当局」として)示されるが、リード文には受身形が使われるため示されない。

例「…シンポジウムが都内で開かれました。」—「シンポジウムは…が開いたもので、…」

→リード文では受動形、本文では能動形。本文反復は、形式名詞「もの」に連なる連体修飾節の形で述部に現れているが、先述の「報道文の『ものだ』」の考えを適用すると、「…が開き(ました)」と言い換えられるため、述部として扱い、c1とはせず、c2とする。

○違いが使役や自他の関係にあり、かつc1に含まれないもの(c3)

c3は、言語形式の違いが、(動詞のムード・テンス・アスペクトなどの違いを越えて)ボイスの使役や動詞の自他の関係の違いに及んでいるものである(ただし、c1とc3を兼ねる場合は、c1に分類する)。

例「始まりました。」—「始め(ました)。」

例「出発させました。」—「出発しました。」

例「開くことになりました。」—「開くことにしたものです。」

→「こと」の前部は同じだが、後部の違いが大きい。本文には「もの(です)」があるが、「開くことにしました」とも言い換えられbにも見える。しかし、自動詞文の「なる」と他動詞文の「する」の違いのほうが大きいので、c3とする。

d) リード文述部の類義表現が、a, b, cに当てはまらない別の表現で本文に現れるもの

aやb, cに収まらない形で反復を表す場合をdとする。例えば、リード文の内容が本文で詳細に述べられる場合は、同じことがらでも、語句や表現が具体性を帯びて大幅に違いを見せる。その違いが「自立語とその類義語等」といった範囲にあればbやcに含まれるが、それを越え

る類義表現の場合はdとする。次のようなものが含まれる。

例「帰国しました」—「成田空港に到着しました」
→類義表現の違いが言語サイズの違いに及んでいる。

例「報告書では、今回の事故の教訓を生かすため、7つの提言を行っています。」—「この中では…だとしています。そのうえで…を求めています。さらに…としています。…」
→類義表現の違いが、概要と個別〈詳細〉という関係にある。

また、同じ内容を違う立場から表したものの場合もdに含める。

例「意見が出されました」—「要望を聞きました」

例「交付されました」—「受け取りました」

(3) 【調査C】について

本稿で調査対象の主眼に置いている「リード文と本文との間にある反復」という対応関係と似たような関係が、本文内にもあることが予想される。これは、本文内の反復が複数ある場合に、その反復どうしの間に見られるもので、【調査A・B】を補足するものとして【調査C】として行う。

音声で読み上げられるニュース談話は、時間的に展開する「線条的文脈」がリード文冒頭から本文末尾まで続く。一連の談話内では、リード文述部と本文反復に現れる対応関係が、本文の文と文との間でも起こりうる。

今回、抽出するのは、▷本文中の同じ反復マークを持つ反復どうしで、▷そのうちの前の反

復（Ⅰとする）が「概要」、後の反復（Ⅱとする）が「詳細・具体・個別」といった関係を持つものとした（前者は、後者に比べて、対応するリード文述部により近い形式であると推測されるが、aやbとは限らない）。受け手にとっては、Ⅰの出現はリード文述部の反復と受け止められるが、Ⅱの出現はリード文述部の反復というよりⅠの反復と認識される可能性がある。

なお、ここでは、「概要」→「詳細・具体・個別」の順で現れるものとし、その逆の「詳細・具体・個別」→「概要」で現れるものは扱わない。このようなものも見受けられるが、これらは「詳細・具体・個別」にリード文の別の述部がすでに対応し、同じ反復マークにならないものが多く混在することが予想されるためである。

以上を踏まえ、【調査A～C】の分類等の作業は、筆者自身が行った。なお【調査A】までの全ニュースの結果は、論文末の「資料」（298-312p）にまとめた。

4 調査結果

4.1 リード文述部の数について

リード文の数とその述部について調べたところ、表1-1、表1-2のようになった。

リード文の数は、第1リード文は125文（全ニュースに1文ずつ）、第2リード文は11文（全体の8.8%）あった。リード文の合計は136文であった。

述部が複数あるリード文は多数あった。第1リード文を、1文中にいくつの述部があるかで分けると、1例（Nのみ）が54文、2例（MとNのみ）が54文、3例（Lまでであるもの）が13文、4例（Kまでであるもの）が4文となった。第2リード文は同様に、5例が1文、2例が4文、1例が6文となった。

述部の合計は、第1が217例、第2が19例で

あった。合計すると、リード文は136文、述部は236例になった。述部の数は、ニュース数125本の2倍近くになった。

4.2 【調査A】反復の位置・数・順序

4.2.1 反復文の位置と数

次に、本文での反復を見ていく。【調査A】（本文反復の現れる位置・数・順序）について、表2「反復出現文の位置と数」にまとめた。まず本文の構成だが、1文構成（本文が1文のみで構成）から8文構成のものまでであるが、最も多いのは5文構成（32本）で、次いで4文構成（30本）、6文構成（22本）、3文構成（17本）などとなっている。

本文に反復の現れたニュースは、125本中110本（88%）、全く現れなかったものは15本（12%）で、大半のニュースに反復が現れた。

表1-1 第1リード文の述部の数

第1リード文 (125文)	述部K (文末から4番目)	述部L (文末から3番目)	述部M (文末から2番目)	述部N (最文末)	述部数 合計
述部が4例(4文)	4	4	4	4	16
述部が3例(13文)	—	13	13	13	39
述部が2例(54文)	—	—	54	54	108
述部が1例(54文)	—	—	—	54	54
述部数合計	4	17	71	125	217

表1-2 第2リード文の述部の数

第2リード文 (11文)	述部V (文末から5番目)	述部W (文末から4番目)	述部X (文末から3番目)	述部Y (文末から2番目)	述部Z (最文末)	述部数 合計
述部が5例(1文)	1	1	1	1	1	5
述部が4例(0文)	—	—	—	—	—	0
述部が3例(0文)	—	—	—	—	—	0
述部が2例(4文)	—	—	—	4	4	8
述部が1例(6文)	—	—	—	—	6	6
述部の数の合計	1	1	1	5	11	19

表2 反復出現文の位置と数

本文の構成文数	ニュースの数	出現文の位置（反復のある文=● 反復のない文=○ 左が本文第1文で、右に第2文、第3文と増える。数字=ニュース数の内訳）	反復が皆無のもの	
1文構成	8	○ 7	● 1	7
2文構成	3	○○ 2	○● 1	2
3文構成	17	○●○ 4 ●○○ 4 ●○○ 3 ○○○ 3	○○● 1 ●●○ 1 ●●● 1	3
4文構成	30	○●●○ 8 ○●○○ 7 ●○○○ 4 ○○○● 2 ●●○○ 2 ○○●○ 1	○●○● 1 ○●●● 1 ●○○● 1 ●○●● 1 ●●○● 1 ●●●○ 1	0
5文構成	32	○○●○○ 4 ○●●○○ 4 ○●○○○ 3 ●●○○○ 3 ●●●○○ 3 ○○○●○ 2 ○●○●○ 2 ●○○○● 2 ○○●○● 1	○●○○○● 1 ○●●●● 1 ●○○○●○ 1 ●○●○○○ 1 ●○●○●● 1 ●○●●●● 1 ●●○○○● 1 ●●●●○ 1	0
6文構成	22	●○○○○○ 4 ○●●○○○ 2 ●○○○●● 2 ●○○●○○ 2 ●●●○○○ 2 ○○○○●○ 1 ○○○●●● 1 ○○○●●● 1	○○●○○○ 1 ○●○○○● 1 ●○○○●● 1 ●●○○●○ 1 ●●○●○○ 1 ●●●●○ 1 ●●●●○ 1	0
7文構成	11	○○○○○○○ 2 ○○●○○○● 1 ○○●○○●○ 1 ○●○○○○○ 1 ○●○○○●● 1	○●○○○●● 1 ○●●●●○ 1 ●○○○●○○ 1 ●○○●○○● 1 ●●●●●○ 1	2
8文構成	2	○○○○○○○○ 1	○○○○○●●● 1	1
合計	125	反復（=●）が1回でも現れたもの=110（88%）		15（12%）

表2には反復のある文（これを「反復出現文」「反復文」と言うことにする）を「●」、反復のない文を「○」という記号で、本文での反復出現文の位置をタイプ別にまとめた。最も多いのが「○●●○」（第2文と第3文に反復が現れたもの）で8本、次いで「○」（7本）、「○●○○」（7本）などとなった。

本文に全く反復が現れない（すべて「○」で構成される）ものは15本、逆にすべての本文に反復が現れる（すべて「●」で構成される）ものは、「●」（1本）、「●●●」（1本）の計2本のみであった。ただし、「●●●●●●○」（1本）、「●●●●○」（1本）などのように、全体にわたって反復が現れるものは見られた。

4.2.2 反復マークの位置と数

続いて、反復マークが本文の何番目の文に出てきたかについて、表3「反復マークの位置と数」に示した。これは、文構成にかかわらず、ニュース全125本の本文①から⑧までのどこで出てきたかを見たものである（①は本文第1文の意。以下同様に、丸数字は本文何文目かを示す）。なお、反復は1文に複数現れるものもあり、表2とは扱う数字が異なる。

ニュース全125本の本文総数は合計570文で、1ニュースあたりの平均の本文数は4.6文となる。そのうち38.4%の219文に反復が見られ、4割近い文に反復が現れている。

反復の現れた文は②が61文と最も多くなり、割合も、全②（117文）の52.1%と、他の文より

表3 反復マークの位置と数

	本文の数	反復のある文 (%は「本文の数」が分母)	反復のない文 (%は「本文の数」が分母)	反復数	第1リード文述部 (KLMN) 反復数				第2リード文述部 (VWXYZ) 反復数				
					反復k (Kに対応)	反復l (Lに対応)	反復m (Mに対応)	反復n (Nに対応)	反復v (Vに対応)	反復w (Wに対応)	反復x (Xに対応)	反復y (Yに対応)	反復z (Zに対応)
本文①	125	52 (41.6%)	73 (58.4%)	62	4	4	18	36	0	0	0	0	0
本文②	117	61 (52.1%)	56 (47.9%)	85	0	11	31	41	0	0	0	1	1
本文③	114	46 (40.4%)	68 (59.6%)	60	0	2	13	39	1	1	1	1	2
本文④	97	24 (24.7%)	73 (75.3%)	33	0	1	6	20	0	0	0	2	4
本文⑤	67	19 (28.4%)	48 (71.6%)	24	0	0	6	15	0	0	0	0	3
本文⑥	35	11 (31.4%)	24 (68.6%)	14	0	1	4	8	0	0	0	0	1
本文⑦	13	5 (38.5%)	8 (61.5%)	6	0	0	1	3	0	0	0	1	1
本文⑧	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
合計	570	219 (38.4%)	351 (61.6%)	285	4	19	79	163	1	1	1	5	12

※リード文述部を句点に近いものから順にN, M, L, K, (第2リード文はV, W, X, Y, Z,)とした。リード文は必ず述部N(文最後の述部)が1つあることになる。

※本文は丸数字で示した。①=第1文, ②=第2文などの意。

※各リード文述部反復数は縦列で最多となった数字を太字で示した。

り高くなった。次いで、①が52文(全①中41.6%)、③が46文(全③中40.4%)となった。④で反復が現れた文は24文で、数にして①～③の半分程度に下がった。全④中の割合も24.7%と、他の文と比べ最も低くなった。⑤⑥⑦⑧と後段に行くにつれて、割合で見ると再び徐々に上がるが、このように本文の文の数が増えると事例数が減り、統計学的な妥当性については慎重に論じる必要がある。

続いて、反復マークの位置を見る。まず、反復の総数は合計285例であった。これは本文全文数570文のちょうど半分の数(2文に1例出現する数)で、反復の現れた219文中には、1文中に平均1.3例が現れることになる。また、出現数を文別に見ると、②(85例)がやはり最多で、全反復285例の29.8%と、約3割を占めた。次いで①(62例)、③(60例)となり、④では33例と下がる。

反復マーク別に見ると(表3の太字を参照)、

kが最も多く現れたのは①(4例)で、同様にlが②(11例)、mが②(31例)、nが②(41例)、第2リード文についてはv、w、xがいずれも③(各1例)で、yが④(2例)、zが④(4例)となった。第2リード文は例(特にv、w、xなど)がやや少ないものの、全体的には、リード文の最初のほうで現れた述部に対応する反復は、本文でも最初のほうに現れ、述部が後ろに行くに従って、その対応する反復も徐々に後ろにずれて(②③④などで)現れる傾向を示した。

4.2.3 反復マークの順序

次に、反復マークの出現順序を、タイプ別に示す(表4「反復マークの順序」参照)。ここでは、マークをつけた反復を、出現順に並べ、同じタイプのはまとめた。

ニュース125本のうち、最も多かったのは、nが1例のみの「n」タイプ(nが1つだけなので順序はない)で23例あった。次が、mとnの2

表4 反復マークの順序

種類「順」=リード文と同じ順序、「逆」=順序がリード文と逆転、「単」=種類が1種類

No.	順序タイプ	数	種類	No.	順序タイプ	数	種類	No.	順序タイプ	数	種類
1	n	23	単	14	nnm	2	逆	27	nnnnm	1	逆
2	mn	21	順	15	mmnm	1	逆	28	mnm	1	逆
3	(反復なし)	15	—	16	mmnn	1	順	29	nnnnn	1	単
4	nn	10	単	17	mlmn	1	逆	30	nnnnnz	1	順
5	mnn	6	順	18	nmm	1	逆	31	lmmmn	1	順
6	nm	5	逆	19	llnm	1	逆	32	nnvwxyz	1	順
7	nnn	5	単	20	nllm	1	逆	33	nnz	1	順
8	mmn	3	順	21	mm	1	単	34	mnyz	1	順
9	nz	2	順	22	nmmn	1	逆	35	nzy	1	逆
10	lmnyz	2	順	23	nnnnnnn	1	単	36	nzz	1	順
11	llmn	2	順	24	nmnn	1	逆	37	klmmmn	1	逆
12	lmn	2	順	25	mmmmn	1	順	38	mnz	1	順
13	klmn	2	順	26	m	1	単	39	klmn	1	順
合計	125	内訳:「順」50(40%),「逆」18(14%),「単」42(34%),「反復なし」15(12%)									

つからなり、mの次にnが現れる「mn」タイプで21例、その次は反復のないタイプで15例、次いで「nn」タイプ（リード文述部Nに対応する反復が2か所に分かれて現れたもの）で10例あった。「nm」タイプのようにリード文の順序とは逆転して反復が現れるものが5例あった。

表4では、リード文と同じ順序のものを「順」、順序が（一部ないし全部）逆転したものを「逆」、反復マークが1種類しか現れないものを「単」と示した。それぞれを合計すると「順」50例（40%）、「単」42例（34%）、「逆」18例（14%）、「反復なし」15例（12%）となった。リード文での述部の順序と同じ順序で反復マークが現れる「順」が最も多くなり、種類が1種類で順序のつかないものが次いで多くなった。順序が逆転したものは14%にとどまった。

4.3 【調査B】反復表現の分類

次に、【調査B】の反復表現の分類とその出現位置について表5に記す。本文の反復の合計は285例で、このうち最も多かったのはb（101

例）で、次にd（78例）、a（65例）と続き、最も少なかったのがc（41例）であった。cの内訳はc1（24例）が最も多く、次いでc2（13例）、c3（4例）であった。

反復が本文の何番目の文で多く現れたかは、表3でも記したが、②（85例）、①（62例）、③（60例）などとなっている。各表現については、aは②で最も多く現れ（19例）、続いて③（16例）、④（14例）、⑤（7例）などとなった。bも②が最多（34例）で、続いて③（24例）、①（21例）などとなった。cは①で突出して多く現れ（19例）、次いで②（10例）、⑤（4例）などとなった。dは②（22例）が最多で、次いで①（19例）、③（17例）などとなった。cの内訳は、c1は①（15例）、c2は②（4例）、c3は①（2例）が最多となった。

4.4 【調査C】反復どうしの関係

IとIIの関係が見られたものは9のニュースで10例あった（ニュースNo.2, 34, 58, 59, 62, 74, 104, 110, 122）。現れた文の組み合わせ

表5 反復表現の分類と位置

	文の数	反復のある文の数	反復のない文の数	反復合計	反復a	反復b	反復c	反復c内訳			反復d
								c1	c2	c3	
本文①	125	52	73	62	3	21	19	15	2	2	19
本文②	117	61	56	85	19	34	10	5	4	1	22
本文③	114	46	68	60	16	24	3	0	3	0	17
本文④	97	24	73	33	14	10	3	1	2	0	6
本文⑤	67	19	48	24	7	7	4	1	2	1	6
本文⑥	35	11	24	14	5	3	1	1	0	0	5
本文⑦	13	5	8	6	1	2	1	1	0	0	2
本文⑧	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1
計	570	219	351	285 (100%)	65 (22.8%)	101 (35.4%)	41 (14.4%)	24 (8.4%)	13 (4.6%)	4 (1.4%)	78 (27.4%)

※反復a～dおよび合計は、縦列で最多となった数字を太字で示した。

を「Ⅰ－Ⅱ」の形で示すと、「①－③」および「②－③」がいずれも2例ずつ、このほかは「①－②③」「①－④」「②－②」「②－③④」「②－④」「③－③」はいずれも1例ずつであった。反復表現の種類は多様なものが現れた。

4.5 小括

各調査で得られた結果を以下にまとめる。

- (1) 125本のニュース中、リード文は合計136文で、このうち11本が第2リード文となり、全体の1割に満たなかった。第1リード文で見ると、述部は1つのものが54本、2つが54本となり、これらで大半を占めた。リード文述部数は合計236例あった。
- (2) 本文に反復の現れたニュースは125本中110本で、全体の88%に上った。
- (3) 本文総数は570文で、1ニュースあたりの平均本文数は4.6文となった。反復出現文は219文で、すべての本文の38.4%にあたった。
- (4) 反復の総数は合計285例であった。反復の現れる文は、本文の第2文が最多、次いで第1文、第3文となり、第4文は第1～3文の半分程度に下がる。後段に行くにつれて割合ではまた上がるが、本文の文数が増えると事例数が減る傾向にある。
- (5) 反復の現れる位置は、リード文の最初のほうに現れた述部に対応する反復は、本文でも最初のほうに現れ、述部が後ろに行くに従って対応する反復も徐々に後ろに現れる傾向がある。
- (6) 反復の現れる順序は、対応するリード文述部と同じ順序のものが最多で、順序のつかないものが次いで多く、順序が逆転したものは14%にとどまる。
- (7) 反復表現は、リード文述部の表現が(a)本文に全く同じ形で現れるもの、(b)本文でも述部として現れ、その表現の違いが言語形式や形式名詞等にかかわる違いにとどまるもの、(c)本文では述部以外で現れたり、ボイスなどが異なる形で現れたりするもの、(d) a, b, cに当てはまらない別の表現で本文に現れるもの、の4種類に分類することにしたが、調査の結果、反復表現はbが最多で、d, aと続き、最少がcであった。cの内訳としては(c1)類義表現が主題部や修飾節などで現れるもの、(c2)受動形と能動形の違いがあり、かつc1に含まれないもの、(c3)違いが使役や自他の関係にありかつc1に含まれないもの、の3種類があるが、このうちc1が最も多かった。
- (8) 反復が最も多く現れた文は全体では本文第2文だが、表現別ではa, b, dが第2文、cが第1文となった。cの内訳は、c1が第1文、c2が第2文、c3が第1文であった。
- (9) 本文中の同じ反復マークを持つ反復どうしで、前にあって「概要」を示すものをⅠ、後にあって「詳細・具体・個別」を示すものをⅡとしたが、これらの関係が見られたものは9ニュースに10例あった。現れた文の組み合わせを「Ⅰ－Ⅱ」の形で示すと、「第1文－第3文」および「第2文－第3文」がいずれも2例ずつとなった。

5 分析

5.1 全体的な傾向

5.1.1 リード文の述部の数から

小括(1)のとおり、第1リード文だけで見ると、述部が1つだけのものが54本(43.2%)、複数あるものが残る71本(56.8%)で、単文よりも重文やそれに準じるリード文のほうが多い(【例1】など)。また、第2リード文を持つニュースは11本あり、これらは第1と第2で複数の述部を持つニュースとなる(【例2】など)。ここからも、1つのニュースには複数の述部があることが多いと言えるだろう。複数の述部があれば、そこには順序が現れる。これによって、本文の反復の順序と対応関係を見ることができるようになる。

以下、ニュースNo.は論文末(pp.298-312)「資料」に対応する。

【例1】

①国の出先機関改革をめぐり、全国のおよそ500人の市町村長で作る組織がきょう、会合を開き(M)、政府が検討している国の出先機関の改革案では地域主権が進んだことにはならないなどとして、反対する決議を採択しました(N)。

(本文略)

(No.74)

【例2】

①国が直轄で除染を行う福島県の避難区域で、環境省が100メートル四方ごとに行った詳細な放射線量の調査の中間報告が公表されました(N)。

①② 今後、除染計画の策定や避難区域の

見直しに活用されることとなります(Z)。
(本文略)

(No.21)

5.1.2 リード文と反復出現文の対応関係

リード文と、本文の反復出現文との関係を詳しく見る。小括(1)(3)のとおり、リード文は文の合計が136文であるのに対し、反復出現文の数は219文であった。これは1.6倍に増えた計算であり、例えば重文だったリード文が本文では複数の文に分割されて現れる、などのことが予想される。また、小括(1)(4)のとおり、リード文述部合計が236例なのに対し、本文反復の合計は285例で1.2倍に増えた。つまり、リード文述部は、数を増やして反復する。ただ、それよりも反復出現文の数の増え方のほうが顕著である。この対応関係については、「典型的なニュース」の中で詳しく後述したい。

5.1.3 典型的なニュース談話は「相似型」

典型的なニュースとはどのようなものかを整理すると、小括(1)(3)のとおり、リード文は1文が大半で、1ニュースあたりの本文数は平均4.6文である。小括(4)にあるとおり、反復の多くは①～③で現れた。

小括(5)のとおり、「リード文の最初のほうに現れた述部に対応する反復は、本文でも最初のほうに現れ、述部が後ろに行くに従って対応する反復も徐々に後ろに現れる傾向」を持つ。また小括(6)のように、反復の順序が逆転するものは少ない。特にこの(5)(6)を合わせて、リード文と本文が“相似形”をなす「相似型」と呼びたい。

これらから、本調査による典型的なニュースとは、▷リード文は1文、▷本文は4～5文構成、▷反復は②を中心に主に①～③で出現、▷リー

ド文と本文はいわば相似型、とまとめられる。

5.2 【調査 A】反復の位置・数・順序から

ここでは、本文で反復が現れないもの・現れるもの、順序が逆転するもの・しないものという視点で分けて事例を見ていきたい。

5.2.1 反復の現れないもの

小括(2)に記したが、調査では88%と、9割近いニュースの本文に反復があった。大半のニュースには反復があると言える。

また、反復のなかったニュースは、ニュース No.24, 30, 33, 48, 51, 53, 57, 69, 72, 75, 97, 101, 107, 121, 125の15本である。これらは、ニュース冒頭部分が「火事が起きた商業施設は…」(No.51), 「再び、再審を認める決定が出たことについて…」(No.72)などのように、その前に別のニュース談話があると推察されるものが15本中14本であった(No.48を除く)。こうしたニュースを放送局では関連原稿と呼んでいることは先述したが、別のニュースに連なることが前提のため、汎用原稿として独立はしていても、その冒頭文は実際の放送ではニュースの冒頭には来ない。

ただし、いわゆる関連原稿のすべてに反復が存在しないわけではない。No.1, 54, 64, 79などは、その前に別のニュースの存在が推察されるが、反復は認められる。つまり、関連原稿でも、反復があるものもあればないものもある。ただし、反復が見られなかったものは、関連原稿がほとんどである。

ここから、「いわゆる関連原稿でないものには、ほぼ反復が存在する」ということが言える。関連原稿は、ニュース全体の冒頭には来ないこ

とから「典型的なニュースではない」と考えるなら、典型的なニュースにはほぼすべてに反復が存在する、と言うことができる。

逆に、いわゆる関連原稿の中にも反復を有するものがあることから、(関連原稿が現れる)ニュース全体の中ほどで、統括機能を表す文が現れる「中括式」(市川孝1978)があることが予想される。

5.2.2 反復が現れる順序が順列のもの

反復の順序が順列で現れ、逆転をしないものは、相似型をした典型的なニュースに含まれる。例えば【例3】は、本文は5文構成で、L, M, Nの対応が、本文②③でl1, m1, n1の順で現れ、典型的なニュース談話と言える。

【例3】(l1m1n1 ○●●○○)

①田中 文部科学大臣が愛知県岡崎市の岡崎女子大学の認可を見送ったことについて、開学を目指している学校法人の理事長らが愛知県の大村知事を訪ね(L), 「大臣の判断で一瞬にして認可がくつがえされ、ゆゆしき事態だ」と述べ(M), 撤回に向けて協力を求めました(N)。

②「岡崎女子大学」は、愛知県岡崎市の学校法人「清光学園」が、岡崎女子短期大学に加えて、4年制の大学として来年4月の開学を目指していますが、今月2日、田中 文部科学大臣が認可を見送ったことを明らかにしました。

③これを受けて、「清光学園」の長柄孝彦理事長らが、きょう午前、愛知県の大村知事を訪ねました(II)。

④長柄理事長は、「短期大学の実績を積み重ね、2～3年をかけて準備を進めてきた。審議会の答申までいただいた話が大臣の判断で一瞬にしてくつがえされてしまうの

は、あつてはならないゆゆしき事態だ」と述べ(m1)、撤回に向けて協力を求めました(n1)。

- ④大村知事は、「言語道断の話で、断固撤回を求めていくとともに、田中大臣には関係者に謝罪してもらいたい」と述べ、全面的に協力する考えを伝えました。
- ⑤長柄理事長らは、同じく認可が見送られた秋田市と、札幌市の大学の関係者とともに、あす、文部科学省を訪れて、撤回を求める方針を伝え、大村知事も同席する考えを示しました。

(No.108)

【例3】では、リード文前半の「田中文部科学大臣が愛知県岡崎市の岡崎女子大学の認可を見送ったことについて」とほぼ同じ内容が、①に現れる。②③ではリード文の反復が現れる。つまり①～③は、リード文をなぞるように(ただし内容がやや詳しくなって)現れている。一方で、④や⑤で反復が現れる割合は①～③ほど高くない。この例でも、④には、反復された内容に対する反応、⑤には今後の展開が示されている。

①で新たに加わるのは、学校法人の固有名、開学予定の時期、大臣が認可を見送った日付などの詳細である。②でも理事長の固有名と、訪れた時間帯(「きょう午前」)、③では、理事長のより詳しい発言内容が新たに加わる。大筋ではリード文で示された内容がより具体的になり、固有名や日時に関する数字が盛り込まれ、談話に信ぴょう性が与えられている。

典型的なニュース談話は、①～③でリード文と“相似形”をした本文が現れ、④以降でリード文述べ部の内容からやや離れた、リード文にない新たな付加的内容が現れる可能性が高いと言えそうである。また、“相似形”をなす①～③の内容は、固有名などが追加されてリード文より詳

しくなることがうかがえる。

ここで現れる付加的内容は、「展望・付加」(川村よし子・金庭久美子1998)、「補足」(星野祐子2011)などと呼ばれる、談話の構成部分と言えるだろう。

次に、相似型について、[5.1.2]で論じた、リード文と本文の反復出現文との対応関係という視点から詳しく見てみたい。

○「反復文増加型」

【例4】(反復文増加型 m1m2n1

●●●○○)

- ①首都圏を中心に裁判員を経験した人たちが、交流を深めようと団体を作り(M)、今後、自分たちの経験を地域で伝える活動にも取り組むことになりました(N)。
- ①発足した(m1)のは「裁判員」を意味する英語から名付けられた「Lay Judge Community Club(レイジャッジコミュニティクラブ)」という団体で、東京や千葉など首都圏の裁判員経験者を中心に10人ほどが参加しています。
- ②メンバーはこれまで裁判員制度の改革案を提言するなどの活動を行ってきましたが、各地の裁判員経験者から交流を希望する意見があったため、窓口となる団体を作りました(m2)。
- ③今後は、全国の裁判員経験者に参加を呼びかけて、各地で交流会を開くだけでなく、裁判員を務めた自分たちの経験を地域で伝える活動にも取り組むことにしています(n1)。
- ④裁判員制度はスタートから3年が経過し、これまでにおよそ3万人が裁判員や補充裁判員となりましたが、経験者だけで活動する団体は全国で初めてだということです。
- ⑤会見したメンバーの田口真義さん(36)は

「団体が窓口となることで各地から1人でも多くの裁判員経験者が声を上げて交流を広げていきたい」と話しています。

(No.73)

まず、反復出現文が増える「反復文増加型」である。【例4】は、述部Mが2つの反復に分かれ、M部分が①と②、N部分が③に引き継がれたものである。詳しく見ると、①はリード文の「首都圏を中心に裁判員を経験した人たち」を受けた文で、今回の動きの主体が、会の固有名、参加人数、在住県などとともに詳しく紹介される。②では、このニュースの枠組みを作る述部M「作り」の内容が経緯も含めて詳しく伝えられる。③ではその内容となるN「取り組むことになりました」が、より具体化して伝えられている。④は事案の背景と位置づけ、⑤はメンバーのコメントである。①②③にはリード文の主な内容が、固有名も盛り込まれながら、同じ順序で詳しく、かつ文を分けて丁寧に述べられていることがわかる。

次の【例文5】も反復文増加型だが、事件の経緯を時系列で伝えているものである。

【例5】(反復文増加型 k1l1l2m1n1

●○○●●●)

①東京・立川市の70代の男性が、信託会社の社員を装った男から「通信設備会社の社債を購入すれば3～4倍で買い取る」と電話でうその話をもちかけられ(K)、自宅を訪れた男に手渡すなどして(L)現金6500万円を騙し取られていたことがわかり(M)、警視庁は、詐欺事件として捜査しています(N)。

①警視庁によりますと、ことし1月、立川市に住む70代の男性の自宅に信託会社の

社員を装う男から架空の通信設備会社の社債の購入を勧める電話があり、「立川に通信基地を作る計画がある。社債を購入すれば3～4倍で買い取る」などと持ちかけられました(k1)。

②その後、男性の自宅に通信設備会社のパンフレットが届き、さらに「5000万円分の社債を購入する権利が認められた」などと電話がありました。

③このため男性は、後日、自宅を訪れた通信設備会社の社員を装う男に4回にわたって6000万円を手渡したほか(11)、500万円を男の指定する銀行口座に振り込んだということです(12)。

④男性が購入した社債を売ろうとしたところ、男らと連絡が取れなくなり、不審に感じて警察に届け出たため発覚しました(m1)。

⑤警視庁は詐欺事件として捜査しています(n1)。

(No.25)

リード文は、4つの述部が時間経過を追って連用中止形で表されたもので、本文もこれと同様に時間経過で展開される。①は、リード文の内容と重なるところも多いが、K「持ちかけられ」たときの犯人側の発言内容が詳しく伝えられる。②は、Kの内容について、追加的に詳しく述べている。③はL「手渡すなどして」の詳細な経緯、④はM「騙し取られていたことがわかり」の詳細な経緯、⑤はN「捜査しています」の繰り返しである。複数の述部は、本文で複数の文に分かれ、詳細とともに反復されている。

○「反復文非増加型」

【例6】(反復文非増加型 l1m1n1

○○●○○○)

①A社のB前会長がグループ企業から引き

出した巨額の資金を海外のカジノで使っていた事件の初公判が開かれ(L), B前会長は起訴された内容を認めた上で(M), 「関係者のみなさまにおわびします」と謝罪しました(N)。

- ① A社の前の会長, B被告(47)は, 去年, グループ企業7社からあわせて55億円余りを不正に引き出して海外のカジノで使っていたとして, 特別背任の罪に問われています。
- ② 東京地方裁判所で開かれた(II)きょうの初公判で, B前会長は「間違いありません」と述べて起訴された内容を認め(m1), 「関係者のみなさまにおわびします」と謝罪しました(n1)。
- ③ このあと検察は, 事件のきっかけについて「B前会長は国内のとばくで負け続けたため海外なら勝てると思い込み, 平成18年ごろから海外のカジノに出入りするようになった」と述べました。
- ④⑤ (略)

(No.23)

【例6】は, リード文とほぼ同じ内容が本文の1つの文にまとめて現れる, 「反復文非増加型」の例である。リード文では, 事件の初公判が開かれ, 被告が起訴内容を認め謝罪したという内容が伝えられる。本文は, ①で事件の経緯が, 被害金額などとともに詳しく伝えられる。②では, 「間違いありません」という具体的な発言内容も盛り込まれるが, リード文の述部3つがすべて反復される。③以降は, その後の裁判の経過などが記される。②に反復がすべて, 順列で現れるので, リード文と同じような文が再度現れた印象を受ける。リード文の内容は, 前後の関係(ここでは裁判)の中に置かれることで, その状況が明確にされた形と言えるだろう。

ここまで, 典型的な例について, リード文と反復出現文の対応関係を詳しく見た。いずれも

リード文の内容が, リード文述部の順序のとおり本文でも反復されながら, より詳しく丁寧に伝えられている。

5.2.3 反復が現れるが順序が逆転するもの

反復マークの順序が逆転するものは典型的なニュースとは言えない。合計18本あり, 全体の14%にとどまる。これは, 逆転の仕方によっていくつかのタイプが見られた。

○「情報源前出型」の逆転

【例7】(情報源前出型 m1l1m2n1

○●●○)

- ① IAEA=国際原子力機関の天野事務局長は, イランを訪れていた調査団が, 核兵器開発の疑いが持たれている軍事施設への立ち入りを拒否されたことを明らかにしたうえで(L), 「失望している」との声明を発表し(M), イランの対応を強く批判しました(N)。
- ① IAEAはイランの核兵器開発の疑いを検証するため, 査察部門トップのナカーツ事務次長ら調査団を, 先月に続いて, 首都, テヘランへ派遣し, 22日までの2日間, 調査を行いました。
- ② IAEAの天野事務局長は, 調査の終了を受けて声明を発表し(m1), 焦点となっていた核兵器の起爆に必要な爆薬の実験を行っていたとされるテヘラン郊外にある軍事施設への立ち入りを改めて要請したものの, イラン側に再度拒否されたことを明らかにしました(II)。
- ③ 天野事務局長は「イランが我々の要請を受け入れなかったことに失望している」と述べ(m2), イランの対応を強く批判しました(n1)。
- ④ (略)

(No.20)

最初に、情報源の名詞が前に出ることで逆転が起きる「情報源前出型」を見る。【例7】の、本文①「IAEAは…テヘランへ派遣し…」はリード文の「イランを訪れていた調査団が…」を詳述したものと見える。続く②では、リード文述部M「『失望している』との声明を発表し」の後段「声明を発表し」だけがm1として先に現れる。そして「声明」の内容がl1, m2として後述される。情報源の名詞部分が前に出ることで順序が逆転するが、理由は、リード文ではそれに連なる連体修飾部分（「失望している」）が、本文では「イランが…ことに失望している」などと情報量が増えるため、連体修飾部分にすると“重く”なるので、それを避けるためだと考えられる。

この例では、m1が前に出た点以外はリード文と同じ順序であり、反復タイプも【例3】に似て、本文冒頭と本文末尾が「○」で、その間に挟まれた部分が「●」である。また、情報源の名詞が前に出るニュースはほかにも見られた（ニュースNo.91）。

○「本文冒頭承前型」の逆転

【例8】（本文冒頭承前型 n1m1 ●○○）

- ①きょうの東京株式市場は、外国為替市場で円が値上がりしていることから、輸出関連の銘柄を中心に売り注文が出て（M）、株価は値下がりしました（N）。
- ①日経平均株価、きょうの終値はきのうより、59円48銭安い、1万50円39銭（n1）、東証株価指数=トピックスは、5.03下がって、851.02でした。
- ②1日の出来高は、16億8176万株でした。
- ③市場関係者は、「円の値上がりを受けて自動車など輸出関連の銘柄に売り注文が出た（m1）。ただ、アメリカ経済の先行

きや、円相場の今後の動向を見極めたいとする投資家も多く、全体として取り引きは低調だった」と話しています。（No.35）

続いて、本文冒頭①で順序の逆転する反復が現れ、冒頭に「●」が来る「本文冒頭承前型」を見る。その典型の1つが、いわゆる「株価原稿」で、本調査では2本見られた。【例8】はそのうちの1つで、①でn1が現れ、③でm1が現れるため、反復は「●○○」のように本文冒頭と本文末尾に現れる。リード文では、株価下落について、原因（M）、結果（N）の順で説明されるが、本文では①で結果の詳細（n1）が先に現れ、最後に③の市場関係者のコメントで原因（m1）の詳細を伝える。このM → N → n1 → m1の流れは、本調査に現れた他の株価原稿も同様で、定型化したものと言える。文脈展開としてはNとn1が「要旨と詳細」という関係を有し、①はリード文を受けた「承前の文」（林四郎1973）と言える⁴⁴。また、反復ではあるが、リード文の「値下がり」の同語や類義語がなく（反復表現の分類でn1はdである）、重複感が少ない。

同様に、リード文から本文①でN → n1の本文冒頭承前型の文脈展開をするニュースに、順序の逆転を含むものが見られる。次の【例9】もn1の次にm1が来て逆転がある（本文冒頭に「●」が来る）。①n1の反復表現はc1に分類されるが、こうした例は【調査B】反復表現の分析で、詳しく後述したい。

【例9】（本文冒頭承前型 n1m1n2n3 ●●○○○）

- ①拉致被害者の家族や拉致された可能性がある」とされる、いわゆる「特定失踪者」の

家族などが、きょう、神奈川県警察本部を訪れ (M)、北朝鮮が新しい体制になったことを受けて、改めて特定失踪者の調査を徹底するよう求めました (N)。

①要請をしたのは (n1)、33年前の昭和54年に横浜市戸塚区で帰宅途中に行方がわからなくなった寺島佐津子さん (当時19) の両親の寺島六郎さん (83) とイツ子さん (79)、それに拉致被害者の横田めぐみさんの父親の横田滋さん (79) などあわせて7人です。

②7人はきょう午前、横浜市中区の神奈川県警察本部を訪れて (m1) 警備部長と面会し、北朝鮮が新しい体制になったことを受けて、拉致の可能性が否定できないすべてのケースについて、改めて調査を徹底し (n2)、外交交渉での解決に道筋をつけるよう求めました (n3)。

③④ (略)

(No.56)

○「本文末尾反復型」の逆転

【例10】(本文末尾反復型 11l2n1m1

○●○○○●●)

①6日に決選投票が行われたフランス大統領選挙は、野党・社会党のオランド氏が、現職のサルコジ大統領を破って (L)、政権交代を果たし (M)、フランスで17年ぶりに、社会党の大統領が誕生することになりました (N)。

①フランス大統領選挙は、6日、決選投票が行われ、日本時間の午前3時までに、すべての投票が締め切られました。

②フランス内務省の発表によりますと、開票がほぼ終わった時点で、オランド氏の得票率が51.7%、サルコジ大統領が48.3%となり (11)、オランド氏が当選しました (12)。

③④⑤ (略)

⑥オランド氏の当選によって、フランスでは、1995年に退任したミッテラン大統領以来、17年ぶりに社会党の大統領が誕生することになりました (n1)。

⑦ヨーロッパでは信用不安による影響で、去年、イタリアやスペインなど各国で政権が退陣に追い込まれており、フランスでも、政権交代が起きた (m1) ことで、今後のヨーロッパの信用不安対策の行方が注目されています。

(No.44)

【例11】(本文末尾反復型 n1n2m1

●○○○●●)

①インターネット上で動画などを共有するファイル交換ソフトを使ってわいせつな動画を流出させていたとして、警視庁と4つの府県の警察本部が一斉に摘発を行い (M)、あわせて8人を逮捕しました (N)。

①このうち警視庁に逮捕されたのは (n1)、群馬県藤岡市の会社員、A容疑者 (47) らあわせて3人の男です。

②③④ (略)

⑤このほか4つの府県の警察本部も、30代から50代の男5人を同じ容疑で逮捕しました (n2)。

⑥「パーフェクトダーク」を使ったわいせつな動画の一斉摘発 (m1) は初めてだということです。

(No.109)

次に、本文末尾に逆転の反復が現れ、本文末尾に「●」が現れる「本文末尾反復型」を2つ見る。【例10】ではリード文の「政権交代を果たし」という述部が、⑦で「政権交代が起きた (こと…)」と副詞節になり、ヨーロッパの信用不安対策の行方が今後注目されるという文脈の一要素として置かれる。【例11】では、「一斉に摘発を行い」が、⑥で「一斉摘発 (は…)」

と文の主題部に来て、それは初めてのことだと示される。いずれも、リード文の中でも文末から離れて前方に現れた述部が、本文の後段（ここでは本文末尾）に離れて現れている。本文末尾は、前述の付加的内容の説明が始まっているが、そこにリード文の述部とは言語サイズを変える形（述部以外の要素になって）で現れている。

渡辺実（1985）では、どういう条件が整ったときに文章は完結するののかということについて、「スタートにもどる形で終わるのが最も快い終結である、とは言えるだろう。文章はそれで輪をなして、自ら閉じた姿となるからである。」「旧文脈と新文脈とが縄のようにからまり合い、書き起こし書き納めの両端があい接して閉じた輪となる、このような構造は、文章の一つの典型である。」と述べる。

これらのニュースは、短いながらも「旧文脈と新文脈とが縄のようにからまり合い、書き起こしと書き納めの両端があい接して閉じた輪」になっていると言える。本文末尾は、【例10】では今後への影響、【例11】では、複数逮捕に至った一斉摘発の位置づけという、「展望・付加」（川村よし子・金庭久美子1998）や、「補足」（星野祐子2011）にあたる、典型的なニュース末尾と言えそうだが、ここでは、そこでも反復を見せることで、述部の社会的な新情報の意味合いを最後まで醸しつつ、談話に書き納めを与えている。始めと終わりを持った談話としてのまとまりを持っている。

以上、逆転について、情報源前出型は連体修飾部分を軽くするため、本文冒頭承前型はリード文を受けた文脈展開をするため、本文末尾反復型は談話に書き納めを与えるため、という理由を、各反復に与えることができるだろう。ただしこれらはいずれも、「逆転」という典型的ではないものの反復理由である。

5.2.4 反復が多くくの文に現れるもの

【例12】(n1n2n3n4n5 ○●●●●●○)

- ①陸上のロンドンオリンピック代表選考会を兼ねた日本選手権は、2日目、男子やり投げのディーン元気選手や女子100メートルの福島千里選手など5人が、新たに、代表に決まりました (N)。
- ②大阪の長居スタジアムで開かれている陸上の日本選手権は、各種目とも代表選考の基準にしている記録を突破し、この大会で優勝した選手が代表に決まります。
- ③2日目のきょうは、12種目で決勝が行われ、新たに5人がオリンピックの代表に決まりました (n1)。
- ④このうち、▷男子やり投げでは、20歳の新鋭、ディーン選手が、大会新記録の84メートル3で、大会12連覇中の村上幸史選手をわずか8センチ上回って初優勝し、初めてのオリンピック代表に決まりました (n2)。
- ⑤▷女子100メートルでは、短距離のエース、福島千里選手が11秒45で大会3連覇で2大会連続の代表に決まりました (n3)。
- ⑥また、▷男子100メートルでは、江里口匡史選手が10秒29で大会4連覇し、初めての代表を決めました (n4)。
- ⑦このほか、▷男子400メートルで金丸祐三選手が▷男子400メートルハードルで岸本鷹幸選手が、それぞれ代表に決まりました (n5)。
- ⑦ (略) (No.55)

【例13】(n1n2n3n4n5n6n7

●●●●●●○)

- ①報告書では、今回の事故の教訓を生かすため、7つの提言を行っています (N)。
- ①この中では、▷国民の健康と安全を守る

ため、国会に原子力の問題に関する常設の委員会を設置すべきだとしています (n1)。

- ②そのうえで、▷政府の危機管理体制を抜本的に見直すため、指揮命令系統の一本化を制度的に確立することや、事故が起きた際の発電所内の対応について、一義的には事業者の責任とし、政治家による場当たり的な指示や介入を防ぐ仕組みを構築することを求めています (n2)。
- ③さらに、▷被災地の環境を長期的・継続的に監視しながら住民の健康と安全を守り、生活基盤を回復するため、政府の責任で、住民がみずから判断できる材料となる情報開示を進めるなどの対応を早急に取り組む必要があるとしています (n3)。
- ④また、▷東京電力は、経済産業省との密接な関係をもとに、原子力の規制当局の意思決定に干渉してきたとして電力会社が、規制当局に不当な圧力をかけることがないよう、厳しく監視すべきだとしています (n4)。
- ⑤一方、▷規制組織については、国民の健康と安全を最優先とし、常に安全の向上に向けてみずから変革を続けていく組織になるよう抜本的な転換を図るべきだとしています (n5)。
- ⑥このほか、▷世界の最新の知見をふまえた形で、原子力関係の法律や規制を抜本的に見直すことや (n6)▷報告書で扱わなかった原子炉の廃炉の道筋や、使用済み核燃料の問題などを取り扱うため、国会に、専門家からなる第三者機関として、独立調査委員会を設置することを提案しています (n7)。

⑦ (略)

(No.64)

反復が本文全体に多く現れるものを見ておきたい。【例12】【例13】は、本文は情報羅列的

な内容になっている。【例12】は五輪代表に決まった選手名を種目ごとに紹介すること、【例13】は別のニュース談話に続く関連原稿と見られるが、報告書の7つの提言の具体的な内容を述べることに、情報性がある。

これらのニュースは、リード文の内容を本文がなぞるように繰り返しているわけではないのが特徴的である(【例12】n1はなぞるような反復であるが)。むしろ、「上位概念」(あるいは集合把握)でまとめられたリード文の内容を、本文で個別具体的な「下位分類」(あるいは個別把握)の情報で説明する形になっている。【例12】では、リード文と同じ「決まりました」という語が本文でも複数回現れ反復しているが、リード文の「5人」(上位概念)を、本文では「男子やり投げ」「○○選手」(下位分類)など、個別の競技名と固有の選手名で説明している。【例13】では、リード文の「7つの提言を行っています」(上位概念)を、本文では「設置すべきだとしています」「構築することを求めています」(下位分類)などという具体的な表現で、個別に説明している。

5.3 【調査B】反復の表現から

5.3.1 多かった反復表現 (a, b, d)

次に【調査B】の反復の表現を見ていく。表現の種類の中で最も多かったのがb (101例)である。リード文述部との違いがa (65例)ないしbにとどまるものは合計で166例と、全体の58.2%を占め、d (78例)のほぼ2倍、c (41例)のほぼ4倍となった。これは、リード文を含めて5~6文という、必ずしも長いとは言えないニュースという談話の中に、言語サイズの違いにまで至らない類義表現が複数回現れることを意味し、形式も全く同じか似ているものであること

から、反復がより明示的なものと言えるだろう。
bを含む例と、aを含む例を見てみる。

【例14】(②③でb)

- ①インターネットの普及を目指している国際的な民間団体が、各国のネットの利用環境や影響力などを調査した結果、対象となった61か国のうち上位10か国を欧米などの先進国が占め(M)、日本は、ネットの政治への影響力が弱いとして20位にとどまりました(N)。
- ①この調査は、スイスに本部があるインターネットの普及を目指す国際団体「ワールド・ワイド・ウェブ基金」が初めて、行いました。
- ②世界の61か国を対象に、▷通信インフラの充実度や▷政府による規制の状況、さらに、▷政治や経済への影響力など7項目を調査した結果、1位はスウェーデンで、2位はアメリカ、3位はイギリスと続き、上位10位までを欧米やオーストラリアなど先進国が占めました(m1=b)。
- ③一方、日本は20位で(n1=b)、アジアでは、11位のシンガポールと13位の韓国を下回りました。
- ④日本が20位にとどまった理由について、「ワールド・ワイド・ウェブ基金」は、日本ではネットの経済分野での活用が進んでいる一方、政治への影響力が弱いとしています。
- ⑤(略)

(No.85)

【例15】(②にa)

- ①民主化を進めているミャンマーについて、EU=ヨーロッパ連合は17日、歴史的な変化が見られると高く評価した上で(M)、経済制裁の全面的な解除に向けた第1弾

として、テイン・セイン大統領ら政府高官ら87人に対する渡航禁止の措置を解除しました(N)。

- ①ミャンマーでは、今年4月に行われる国会議員の補欠選挙に向けて、民主化運動の指導者、アウン・サン・スー・チーさんが立候補を認められたほか、主要な政治犯が釈放されるなど、民主化に向けた動きが進んでいます。
- ②これを受けて、EUは、民主化に向けて歴史的な変化が見られると高く評価した上で(m1=a)、経済制裁の全面的な解除に向けた第1弾として、テイン・セイン大統領や閣僚など政府高官ら87人に対する渡航禁止の措置を解除しました(n1=a)。
- ③④(略)

(No.18)

【例14】は②③でbが現れる。リード文前段の「インターネットの…調査した結果」という条件節は、本文①で、調査主体の固有名が挙げられた上でほぼ同じ内容が現れる。bは②③と順列で現れ、相似型である。④はリード文の「ネットの政治への影響力が弱いとして」の部分が詳しく伝えられる。【例15】も相似型である。リード文の「民主化を進めているミャンマーについて」は、本文①で同じ内容が詳しく表される。続く②でaが2か所、順列で現れる。②はリード文とかなり似た文と言える。

次に、a、bの両方を含むものとして、いわゆる「裁判原稿」を見ておく。

【例16】(②にa, b)

- ①スマートフォンなどの特許をめぐってアメリカのアップルが韓国のサムスン電子を訴えていた裁判で、東京地方裁判所は、サムスンによる特許権の侵害を認めず(M)、

アップルの訴えを退ける判決を言い渡しました (N)。

- ①スマートフォンとタブレット端末の特許をめぐる、アップルとサムスン是世界10か国で裁判を起こして、日本では、パソコンと接続し音楽データなどを一致させて共有する「同期」と呼ばれる技術で、アップルがサムスンの日本法人を訴えていました。
- ②判決で、東京地方裁判所の東海林保裁判長は、「『同期』を行う際に必要なデータを比較する仕組みは、両社で異なっていて、同じ技術とは言えない」と判断し、サムスンによる特許権の侵害を認めず (m1=a)、アップルの訴えを退けました (n1=b)。
- ③また、アップルが申し立てていたサムスンの「ギャラクシー」シリーズ8機種に対する販売差し止めの仮処分も認めない決定をしました。
- ④⑤ (略)

(No.82)

【例16】では、Nの「退ける判決を言い渡しました。」の「判決」という情報源の名詞が、本文②の冒頭に現れ、リード文で「判決」を修飾していた「退ける」が、述部となって文末に現れる。情報源前出型になっているが、反復の逆転はない。反復は2つとも②に現れ、相似型をなす。①の情報もリード文に一部現れ、典型的なニュース談話と言えらる。裁判の判決言い渡しのニュースは本調査でもう1つあり、こちらも同じような情報源前出型になっている(ニュースNo.105)。裁判は主要な取材対象のため、定型スタイルをとっていると考えられる。

続いて、dが含まれるものも見てみよう。

【例17】(②にd, ③にa)

- ①スイスで行われた「ローザンヌ国際バレエコンクール」で1位となり優勝した神奈川県の高校2年生、菅井円加さんがきょう、帰国し (M), 「みんなに感動を与えられるようなダンサーになりたいです」などと喜びと抱負を語りました (N)。
- ①神奈川県厚木市の高校2年生、菅井円加さん(17)は、世界の若手バレエダンサーの登竜門として知られる「ローザンヌ国際バレエコンクール」で1位となり、優勝しました。
- ②菅井さんはきょう午前9時すぎに成田空港に到着し (m1=d)、少し疲れた様子でしたが、バレエ教室の人たちなど大勢の人たちに出迎えられ、笑顔を見せていました。
- ③菅井さんは「まだ実感がないが本当にうれしい。応援してくれたみんなにありがとうと言いたいです。みんなに感動を与えられるようなダンサーになりたいです」と喜びと抱負を語りました (n1=a)。
- ④菅井さんはこのあと、地元の厚木市で記者会見を開くことにしています。(No.15)

【例17】の②には、「帰国し」(M)とは言語サイズが異なる「成田空港に到着し」(m1=d)という類義表現が現れ、③では「語りました」(n1=a)が現れる。リード文の「スイスで…優勝した神奈川県の高校2年生」という菅井さんにかかる連体修飾節が、①では文に変化して現れ、続いて②③で順列で反復が現れるので、相似型と言えらる。

dには、リード文との違いについてさまざまなケースがある。

【例18】(②③にはいずれもd)

- ①シリア国内の情報を収集している人権団体によりますと、シリアでは25日、中部の町で起きた政府軍による攻撃で、女性や子どもなど50人以上が死亡し(M)、国連の停戦監視団が派遣されているにもかかわらず、犠牲者の数が増え続けています(N)。
- ②人権団体によりますと、イスラム教の金曜日の礼拝が行われた25日、各地で反政府デモが相次ぎ、政府軍や治安部隊が鎮圧に乗り出しました。
- ③このうち、中部のホムス近郊の町では、政府軍が戦車や迫撃砲を使って激しい攻撃を行い、死者の数は女性や子どもを中心に50人以上に上ったということです(m1=d)。
- ④シリアには、国連の停戦監視団が派遣され活動を行っていますが、市民の犠牲は後を絶たず(n1=d)、人権団体は、アサド政権が国連などの要請を受けて停戦に応じるとした先月12日以降、1,400人以上が死亡したとしています(n2=d)。
- ④(略) (No.50)

【例18】では、Mとm1は文の形が大きく異なるが同じことを意味している。Nはn1では別の表現が、n2では具体的な表現が使われている。dの表現は多様であるが、本稿でこれらの細かい分類には立ち入らない。

5.3.2 反復表現cについて

次にcについて見ていく。小括(7)(8)にあるように、cは他と比べて数は少ないが、特に①に現れるという特徴的な現れ方をしている。まずc1の現れたものを見る。

【例19】(①にc1)

- ①平成12年に神奈川県内で偽の一万円札数百枚を偽造したとして国際手配されていた男が、フィリピンで身柄を拘束されていたことがわかり(L)、きのう(18日)、日本に移送されて(M)逮捕されました(N)。
- ①逮捕されたのは(n1=c1)、住所不定の無職、A容疑者(60)です。
- ②警察の調べによりますと、A容疑者は12年前の平成12年6月に、当時、住んでいた平塚市の自宅で、偽の一万円札、数百枚を偽造したとして、通貨偽造の疑いが持たれています。
- ③警察によりますと、A容疑者はパソコンやスキャナーを使って偽造をしていたと見られ、同じ平成12年にフィリピンで偽の一万円札、数百枚を持っていたとして現地の捜査当局に逮捕され、平成17年に釈放されたあと、行方がわからなくなっていました。
- ④警察がICPO=国際刑事警察機構を通じて国際手配していたところ、去年11月末にフィリピンの入国管理局に身柄を拘束されていたことがわかり(l1=a)、きのう、日本に移送され(m1=b)、逮捕されました(n2=a)。
- ⑤⑥(略) (No.7)

本調査では①に現れたc1は15例あり、このうち「(再)逮捕されたのは…」は4例あった。こうしたニュースは、放送局では「逮捕原稿」と呼ばれ、c1が現れる典型的なものと言える。【例19】では、リード文の述部Nが①で主題部n1に置かれ、その固有名(A容疑者)が提示される。そして④で述部L、M、Nの反復が、この順で現れる。

このN → n1という文脈展開は、【例8】【例

9】で現れた本文冒頭承前型である。反復の順序が逆転するニュース18本のうち10本にcがあり(cの数は11例)、cが含まれる割合が多い。この【例19】もn1のあとにl1やm1が来て逆転をしており、その1つである。

このリード文から本文①への文脈展開は「レーマの線条的主題化による主題展開」(Daneš. F 1974)だと言える。つまり、リード文のレーマ(新情報)「逮捕されました」が、本文①ではテーマ(旧情報)「逮捕されたのは…」となるのは、談話に一般的に見られる文脈展開の典型の1つだと言える。先行研究の菅野謙・石野博史(1969)でも、こうしたタイプのニュースがあることが指摘されている([6]の「考察」で後述する)。

【例19】は、N「逮捕されました」の反復が、①に続いて④でもn2として現れる。しかし、次の【例20】のように、反復が①c1しか現れないものもある。

【例20】(①にc1)

- ①人を殺傷する威力をもつ改造拳銃など7丁を隠し持っていたとして、横浜市男子高校生が銃刀法違反の疑いで逮捕され(K)、警視庁は、エアガンを細工して作り(L)、インターネットで販売していたとみて(M)調べています(N)。
- ①逮捕された(k1=c1)のは、横浜市に住む17歳の高校3年生の男子生徒です。
- ②警視庁の調べによりますと、この高校生は、ことし3月、横浜市の自宅の机の引き出しなどに改造拳銃や威力の強いエアガンなどあわせて7丁を隠し持っています。
- ③押収された7丁のうち、1丁はエアガンを細工して作った回転式の改造拳銃で、警視庁が発射実験をしたところ、金属製の

弾が厚さ4ミリのベニヤ板4枚を貫通し、人を殺傷する高い威力が確認されたということです。

- ④高校生は、このほかにも威力を高める装置をつけたエアガン4丁も作っていたということです。
- ⑤警視庁によりますと、調べに対して「スパイ映画を見て興味を持ち、やすりやドリルなどを使って改造した。人を撃つなどしなければかまわないと思っていた」と供述しているということです。
- ⑥警視庁は、数年前から改造を繰り返し(l1=d)、インターネットのオークションサイトで、およそ20人に販売していたとみて(m1=a)調べています(n1=a)。

(No.60)

【例20】には、②に容疑、③④に捜査で判明したことが書かれているが、捜査から逮捕に至る経緯は書かれていないため、本文で再び「逮捕され(ました)」は現れない。逮捕した事実の反復は①で済まされている。

①にc1が現れるニュースは他分野でも現れる。次は政治と国際の分野のものを見る。

【例21】(①にc1)

- ①自民党や国民の生活が第一・きづななど、衆議院の野党6会派は、韓国のイ・ミョンバク大統領による島根県の竹島への上陸などを受けて、政府の外交姿勢をただす必要があるなどとして、衆議院予算委員会の中井委員長に集中審議を行うよう申し入れました(N)。
- ①申し入れた(n1=c1)のは、▷自民党▷国民の生活が第一・きづな▷公明党▷共産党▷社民党▷みんなの党の衆議院の野党6会派です。

- ②衆議院予算委員会で野党側の筆頭理事を務める自民党の石破・前政務調査会長は、6会派を代表して、きょう夕方、中井予算委員長と会談し、(中略)などとして、早急に予算委員会を開いて集中審議を行うよう求めました (n2)。

③④ (略)

(No.78)

【例22】(①にc1)

- ①アメリカで制作された映像がイスラム教を侮辱しているとしてイスラム諸国で反発が広がるなか、26日、国連安全保障理事会は、中東情勢について議論する外相級の会合を開き (M)、異なる文化の間の理解を深めるため、各国が連携していくことを確認しました (N)。

- ①26日、ニューヨークの国連本部で開かれた (m1=c1) 安保理の外相級会合には、理事国の外相やアラブ連盟の代表などが出席しました。

②③④ (略)

- ⑤このあと採択された議長声明では、「宗教や文化の多様さを尊重する重要性を強調するとともに、国連とアラブ連盟がともに相互理解を促進していく」として中東の安定化のために各国が連携を強化していくことを確認しました (n1)。

(No.92)

【例21】では、①で反復c1 (=n1) が現れ、そのあとに、リード文述部の動作主の具体的な固有名(「自民党」など)が列挙されて現れる。【例22】では、M「開き」の反復m1「開かれた」は、①の「外相級会合」の連体修飾節に(受動形で)現れる。そして、固有名ではないが、「理事国の外相やアラブ連盟の代表など」が出席者として導き出される。

次に、c2とc3の例も見る。

【例23】(②にc2)

- ①ロンドンオリンピック予選の代表を決めるボート、男子軽量級ダブルスカルのやり直しのレースが行われ (L)、武田大作選手と浦和重選手のペアが勝って (M)、アジア予選に出場することになりました (N)。

- ①ロンドンオリンピック予選の代表選考会は去年11月に行われましたが、武田選手は、自身が補欠となった選考は公正を欠いていたとして、日本スポーツ仲裁機構に選考結果の取り消しを申し立て、主張が認められました。

- ②これを受けて日本ボート協会はきょう、改めて代表を決めるやり直しのレースを行いました (II=c2)。

(以下略)

(No.36)

【例24】(①にc3)

- ①反捕鯨団体「シー・シェパード」は、南極海での日本の調査捕鯨の妨害を目的とした2隻目の船をけさ、オーストラリアの港から出発させました (N)。

- ①この船の名前は「ボブ・バーカー」で、けさ、オーストラリアのシドニーの港を出発しました (n1=c3)。

(以下略)

(No.117)

これらはいずれも、言語形式の違いがボイスの違いに及ぶもので、【例23】のリード文の「行われ」は、動作主である「日本ボート協会」を背景化する降格(益岡隆志1987)の受け身で、②ではそれが示され「行いました」という能動文になっている。【例24】は、リード文では反捕鯨団体が主格になって「出発させました」という使役形が使われるが、①では船が主格になり「出発しました」となっている。登場する主格が背景

化されたり変化したりすることでc2やc3が現れている。

5.3.3 談話末尾について

小括(4)にもあるとおり、反復が多く現れるのは①～③で(②が最多)、④(ないし⑤⑥)では減る。これは、談話末尾には、多くの場合、反復が出現しない「反復非出現文」が存在することを意味する。典型的なニュース事例【例3】【例4】などを見てもそれはわかる。本稿では、これらは「展呈・付加」(川村よし子・金庭久美子1998)、「補足」(星野祐子2011)などと呼ばれる談話構成部分であると、繰り返し述べてきた。この反復非出現文の談話上の役割はさまざまな解釈が可能と考えるが、ここで指摘しておきたいのは、ニュース本文の役割は、リード文の内容の反復だけでなく、その反復から抜けて出して談話を終わらせることにもある、ということである。談話末尾の反復非出現文には、それが識者のコメントであれ今後の見通しであれ、何らかの形で中核的な内容から位相が移されるという特徴がある。それをもって談話が終わると言えるだろう。

5.4 【調査C】反復どうしの関係から

小括(9)のとおり、IとIIの関係が見られたものは9本のニュースに10例あった。その1例を見てみる。

【例25】(②にI, ③にII)

- ①原爆投下直後に降った「黒い雨」の範囲を拡大するのは困難だとする報告書を国の検討会が大筋でまとめたことを受けて、

黒い雨を体験した人たちでつくる広島市安佐南区の住民グループが、政府・民主党に対し、範囲の拡大を求める要望書を提出しました(N)。

- ①「黒い雨」をめぐるのは、厚生労働省の検討会が、ことし5月、「国の認定地域の外でも黒い雨が降ったとみられるが、放射線による健康被害は科学的には認められない」などとして、範囲を拡大するのは困難だとする報告書を大筋でまとめています。
- ②これを受けて、黒い雨を体験した広島市安佐南区の住民などでつくる「上安・相田地区黒い雨の会」のメンバーらが、きょう(1日)、広島市内で民主党の被爆者問題議員懇談会の事務局長を務める橋本博明衆議院議員に、範囲の拡大を求める野田総理大臣宛ての要望書を手渡しました(n1=I)。
- ③要望書では、国が設定した黒い雨の範囲は、上安地区や相田地区の住民が体験した実態に即していないなどと指摘した上で、この2つの地区も認定地域とするよう求めています(n2=II)。
- ④住民グループの吉田良文副会長は「今月、国の検討会が再び開かれるのを前に、われわれの要望を伝えた。住民の高齢化が進んでいる中、国には一刻も早い認定をお願いしたい」と話していました。

(No.62)

【例25】では、N「範囲の拡大を求める要望書を提出しました」とほぼ同じ内容が、②でn1=Iとして現れる。そして③の「(要望書では…)地区も認定地域とするよう求めています」がn2=IIである。このIIはリード文述部の反復でもあるが、③冒頭の「要望書」は、直前の②n1=Iの「要望書」を指して、受けていると受け手は捉えるだろう。「要望書」は情報源を示す名詞で、②

でn1として現れたあと、③でn2として内容が詳述される点は、情報源前出型の一種と言える。直前の文の一部にフォーカスを当て、拡大鏡で詳細を見るような流れを作っている。

6 考察

6.1 相似型が多い理由は

ニュース談話には、反復の現れる順序から、典型的と見られる相似型と、そうでない、反復の順序が逆転したものがあつた。前者は、反復文増加型、反復文非増加型などで見たとおり、リード文を再度なぞるように本文が続き、談話末尾に反復非出現文が現れた。一方、後者では、情報源前出型、本文冒頭承前型、本文末尾反復型が見られた。

反復を満たしながら、談話に「流れ」(林四郎 1973)を与える本文冒頭承前型や、「書き納め」(渡辺実 1985)を与える本文末尾反復型は、談話としてのある種の読みやすさを持つにもかかわらず、少数にとどまった。リード文をなぞるように現れる相似型の反復は、「リード文+本文」というニュース談話モデルから自然に導き出されるものとも考えられる。しかし、ここで【例17】と同内容を扱った新聞記事【例一】を見てみたい(リード文と本文の判断は筆者が行った)。

【例一】(読売新聞 2012.02.06 夕刊)

見出し] バレエ新星 笑顔の帰国

① スイスのローザンヌ国際バレエコンクール第40回大会で優勝した和光高校(東京都町田市)2年の菅井円加(すがい まどか)さん(17)(佐々木三夏バレエアカデミー所属)が6日午前、成田空港に帰国した。

② 菅井さんは集まった報道陣に少し戸惑った様子だったが、出迎えのアカデミー関係者を見つけるとほっとした表情を見せた。

① 報道陣の問いかけに対し、菅井さんは「応援してくれた皆さんにありがとうと言いたい。(優勝の)実感はまだないが、本当にうれしい」と喜びを語った。

② 「疲れは」と尋ねられると「ちょっとだけ。でもとてもいい経験ができた」と話し、今後については「皆さんを感動させるようなダンサーになりたい」と述べた。

③ 菅井さんは6日午後、自宅がある神奈川県厚木市で記者会見に臨む予定。

【例一】は、下線部を引いたリード文述部は、①以降で反復されない⁴⁵⁾。もちろん、この記事が比較的短いということもあるし、より正確なことは他の多くの新聞記事を調べなければ言えないが、リード文述部の反復は、放送に特徴的なものである可能性がある。

反復の存在理由は、1つには、井上裕之(2016)で述べる、繰り返しによる伝達内容の強調や、理解促進の機能が挙げられる。つまり、さかのぼって聞き返すことができない放送媒体では、談話の情報を繰り返すことで、強調し、受け手の理解を確実なものにしていると言える。これは、リード文をなぞるような反復が存在する相似型が典型であることを説明する有力な説と言える。

本稿では、これに加えて、テレビの(スタジオとVTRを区切る)演出上の影響、あるいは映像との関係が反復を成立させているという視点から考察を行う。そのために、現在残されているラジオ時代や、テレビ時代の幕開けの時期の資料を参照する。

6.2 ラジオ時代の反復は

ここで、まず、戦後ラジオ時代のニュースを一部掲載した、『ラジオ・ニュース～書き方と編集』（1953年 日本放送協会編）を参照する。NHKニュースが現在のようにアーカイブ化されるのは1980年代以降で、それまではまとまった資料がない。その中で上記資料は、放送記者向けのハンドブックとして1951年から52年ごろのニュースの実例とその書き換え例を掲載したもので、抽出意図や総数から見て量的調査には不十分だが、質的調査には利用可能である。

資料には当時のニュースが（途中が略されたものを除き）45本掲載されている。本調査と同様の手法で調べたところ、反復のないニュースが一定程度あった。以下2例を挙げる。

【例イ（1953年）】

①函館市の社会福祉協議会では、去る9日から生活に困っている市内の母子世帯に対し母子金庫を通じて生活資金の貸付けを行っていますが、申込は去る25日迄に36件に達しており（M）、このうち27件には3,000円の生活資金が貸出されています（N）。

- ①この貸付けは、初めは申込が非常に少なかったのですが、この頃では母子金庫の存在がようやく認識されてきたものか、毎日4-5件ずつの申込があります。
- ②社会福祉協議会では今日午後3時から第3回の貸付審査委員会を開き貸付ける人を決めることになっています。
- ③なお、母子金庫から資金の貸出しを希望する人は、地区の民生委員に申出るよう係では望んでいます。

【例ロ（1953年）】

①アメリカのアチソン國務長官は、いま、オタワで開かれている北大西洋条約理事会に出席中ですが、18日夜、カナダの国民に向かって次のような演説を行いました（N）。

①「北大西洋条約の加盟国は、それぞれの国民ひとりひとりの幸福を実現するよう努力している。我々は今この目的を達成するため長期にわたる具体的な措置を作り上げるよう検討を始めているのである。私は、我々の仲間のどの国の市民でも北大西洋共同社会の中であればどこでも自由に旅行ができ、又、技術や文化の交換ができる事を望んでいる。我々は経済的な協力関係を、今後これまでより一層密接にして行かなければならないが、これは一時にできるものではない。しかし、今度の会議はこのような方向に向かって相互に努力するという共同の決意がはっきり示されることを確信している。」

②アチソン國務長官は、18日夜、カナダ国民に呼びかけてこのように演説しました（n）。

特に【例ロ】は、冒頭と末尾で「演説を行いました」と「演説しました」で反復（b）があるとも言えるが、リード文述部の「演説」の前に「次のような」という語句があり、実質的な内容は本文に先送りされる。【例イ】のようなタイプが9本、【例ロ】のタイプが6本で、計15本に実質的に反復が見られなかった。全体的に見れば、この時期にもすでに反復はあるが、戦後のラジオ時代には反復がないものも、一定程度あったと言えるだろう。

6.3 テレビの登場とリード文

NHKテレビ放送の定時ニュースは1953年に開始した⁴⁶⁾。当初は、「アナウンサーが画面に姿を現してニュースを読むことは、いわば人々の興をそぐものとして、できるかぎりパタン⁴⁷⁾やフィルムで『顔を隠す』手法がとられた」(『日本放送史(下)』p.575)が、のちにアメリカのテレビニュース等の影響⁴⁸⁾で、1957年ごろから、アナウンサーが画面に出て、フィルムを使ってニュースを伝えるスタイルが徐々に現れ始めた。そして、まずスタジオでアナウンサーが顔を出してニュースのタイトル字幕(テロップ)を見せながらリード部分を読み、続いて本文部分をフィルム・VTR映像で見せる演出スタイルが定着する(この演出は現在も続いている)。

1963年5月ごろのNHKニュースのテレビ画面(スタジオ部分)



テレビが普及した1960年代半ばのニュースを分析した菅野謙・石野博史(1968, 1969)では、現在のリード文とほぼ同じものと考えられる「主題提示部」の「見出し」について、テレビの演出と関係があると述べている。

「この主題を示す『主題提示部』には、いわゆる『見出し』としてつけられたものと、

そうではないものがある。個々のニュースの見出しは、『必ずしもすべてのニュースにつけなければならないものではない。』とされていたが、現実の放送ニュース、特にテレビニュースでは、一つ一つのニュース冒頭に、『見出し』となるテロップを置くためもあり、アナウンスの文章でも『見出し型』をとるものが圧倒的に多い。」

(菅野謙・石野博史1969)

その上で、次のようなニュース談話の変化にも触れている。

「このように、『見出し』は、もともと、本記⁴⁹⁾の中から要約されてつけられたものなので、かりに一つのニュース文章の中から『見出し』の部分だけを省いても、(中略)独立した完全な文章形式を保つ場合が多い。しかし、最近の放送ニュースの文章、特にテレビニュースの場合には、〈例文3～13〉のように『見出し』の部分も、全体の文章の中での独立性を失い、形式上も連続した文章の一部となってしまっていて、『見出し』の部分を省くと、独立した文章にはならない形式のものがふえてきていることは注目すべきである。

① 述部を受ける形

〈例文3〉

◎警視庁防犯課は、きょう、上野警察署などと協力し、警官百六十人を動員して、上野の、アメヤ横丁の、一斉手入れを、行ないました。
手入れをしたのは、台東区、上野三丁目の、株式会社、(以下略)

②述部の表現を変えて受ける形

〈例文4〉

◎次に、一億円近い、密輸品のウイスキーや、タバコを売買していた婦人が埼玉県、警察本部に、逮捕されました。

つかまったのは、岐阜県岐阜市東島の、バー経営者、(以下略)

… (以下略)

(菅野謙・石野博史1969)

〈例文3〉〈例文4〉は、本調査で言う本文冒頭承前型である。まとめると、テレビ普及期のニュースは次のようなものだった。

- (i) ニュース談話には最初から冒頭に主題が提示されていたニュースと、それが冒頭にないため、あとから見出しとして一文を加えていたものがあつた⁵⁰⁾。
- (ii) しかし、画面に見出しの字幕(テロップ)を置くためもあり、見出し型が圧倒的に多くなった。
- (iii) 見出しは本文の要約としてつけられたものなので、本文は本来、独立した文章形式であつた。
- (iv) しかし、見出しが独立性を失い、形式上も連続した文章の一部となったものも増えた。

上記(i)の「最初から冒頭に提示されていた主題」と「見出し」の違いは、実際の談話を分析しなければ詳しくはわからないが、市川孝(1978)に従って整理すれば、いずれも〔叙述内容の集約としての冒頭〕ではあるが、「最初から冒頭に提示されていた主題」は、「(b)主

要な題材・話題について述べる。」という要素がより強く、「見出し」は、「(a)主題・要旨・結論・提案などを述べる」という要素がより強い文であつた、などと言えるかもしれない。「見出し」は、(iii)にあるように「本文の要約」なので、「反復」が内在していた可能性が高い。また(ii)からは、1953年の【例イ】【例ロ】のような(要約文とは言えない)冒頭文を持つニュース談話は、姿を消していったと考えられる。また、〈例文3〉〈例文4〉も踏まえると、この時期すでに現在のニュースの特徴がいくつも現れていたと言える。

また、(ii)にあるように、スタジオ画面に見出しの字幕を置くという演出上の条件の、ニュース談話への影響は重要で、この存在によって、スタジオで読まれるニュース冒頭文が要約の要素をより強く持ち、今のリード文に近づいていったことが予想される。星野祐子(2011)は、字幕は、「瞬時に消える音声言語の情報を画面上に留めて置くために用いられる」「ニュースの理解を促す」手法だとし、「見出しに相当するもの」や「アナウンスの内容を要約したもの」などがあるとしている。これに従えば、リード文は本文の要約の要素を持ち、さらにその要約が(タイトルの)字幕という関係になる。リード文と見出しは線条的文脈を形成していないので、本稿では詳しい分析はしていないが⁵¹⁾、両者は、理解促進のために影響し合つて、ニュース冒頭のスタジオ部分を発展させていったと考えられる。

6.4 映像と談話の関係

6.4.1 削除可能な反復文に表されるもの

ニュースにおけるVTR映像の役割は、ニュースの内容をより実像に近い形で伝え、出来事や情報の事実性・信ぴょう性を高めるものと言

える。そのために、当該の出来事の“その瞬間”を撮影し、画面上に映し出すことが目指される。では、そうしたVTR映像とニュース談話は、どのような関係を持つのだろうか。その手がかりを得るため、再び【例25】を見る。これはリード文を含めると5文で構成され、反復が2つで、反復が1種類(n)なので順序こそつかないが、比較的典型的なニュースの1つである。これについて、試みに、反復のある②(網かけ表示)をすべて削除したとしよう。5文しかない談話の1文を削除するのであるから、意味や文脈が通じにくくなることが予想されるが、実際には削除をしても、おおむね誤解なく意味は伝わるのがわかる。

【例25】(再掲)

①原爆投下直後に降った「黒い雨」の範囲を拡大するのは困難だとする報告書を国の検討会が大筋でまとめたことを受けて、黒い雨を体験した人たちでつくる広島市安佐南区の住民グループが、政府・民主党に対し、範囲の拡大を求める要望書を提出しました(N)。

①「黒い雨」をめぐるのは、厚生労働省の検討会が、ことし5月、「国の認定地域の外でも黒い雨が降ったとみられるが、放射線による健康被害は科学的には認められない」などとして、範囲を拡大するのは困難だとする報告書を大筋でまとめている。

②これを受けて、黒い雨を体験した広島市安佐南区の住民などでつくる「上安・相田地区黒い雨の会」のメンバーらが、きょう(1日)、広島市内で民主党の被爆者問題議員懇談会の事務局長を務める橋本博明衆議院議員に、範囲の拡大を求める野田総理大臣宛ての要望書を手渡しまし

た(n1)。

③要望書では、国が設定した黒い雨の範囲は、上安地区や相田地区の住民が体験した実態に即していないなどと指摘した上で、この2つの地区も認定地域とするよう求めています(n2)。

④住民グループの吉田良文副会長は「今月、国の検討会が再び開かれるのを前に、われわれの要望を伝えた。住民の高齢化が進んでいる中、国には一刻も早い認定をお願いしたい」と話していました。

【例25】は、反復にI-IIの関係が認められる。

②のn1(=b)は、③でn2(=d)に受け継がれ、②の情報源の名詞「要望書」は③の冒頭に現れる。つまり、①→②→③というつながりを見せている。仮に②を削除すると、このつながりは絶たれるが、③の「要望書」と反復部分はリード文に連なり、つながりが①→③に変化するだけで、理解に問題は生じない。談話を短くしたければこれでよく、むしろ②は冗長で“重複”と受け取られかねない。では、なぜ②があるのか、そこに含まれる情報を見てみよう。

(i)「広島市安佐南区の住民などでつくる『上安・相田地区黒い雨の会』のメンバー」という固有名を持つ会の人々

(ii)「きょう(1日)」という日時

(iii)「広島市内で」という場所

(iv)「民主党の被爆者問題議員懇談会の事務局長を務める橋本博明衆議院議員」という肩書きと固有名

(v)「野田総理大臣宛て」という固有名を含む情報

(vi)「要望書を手渡ししました」という動作の描写

ここにあるのは、主に「固有名」「時間」「場所」「描写」で、報道文に不可欠な「5W1H＝(いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、いかにして)」の主要ないくつかと、描写表現が含まれている。5W1Hは、ニュース談話の内容が、私たちの住むこの世界の時空のどこかで実際に起きた「事実」であることに信ぴょう性を与える情報である。

注目すべきは「要望書を手渡しました」という描写表現で、リード文の「提出」の反復であるとともに、それを目の前で見てきたように具体的に表している。これは、テレビ画面に映し出されるVTR映像を指し示して解説することを意識した表現ではないかとの推測を成り立たせる。

これを踏まえると、同じ文に5W1Hの情報が現れる理由も理解される。VTR映像は、出来事の信ぴょう性を高める側面を持つ反面、その撮影がいつなのか、どこなのか、映し出されて

いる人物は誰なのかなどといった情報を伝えるには、言語を必要とする⁵²⁾。つまり、ここでは、ノンフィクションとしての事実を伝えるために、VTR映像と言語の双方が動員された場面が現れていると考えられる。

6.4.2 テレビニュースの映像と反復の呼応

こうしたニュースが、実際にテレビでどのように扱われているのか、これと似たタイプのニュースの事例を、音声と映像を対照させて、表6に示す。

このニュースの本文は、①ではニュース談話に合わせた富士山の資料映像(過去に撮影されたVTR映像)が添えられる。視聴者がイメージを具体化させながら談話を理解するのを補助する、というほどのものと言える(これは後段の「③の続き」の部分も同様である)。

しかし、続く②では、当日の要望書の提出の様子を映した映像が現れる。このとき、ニュース談話の時間や場所、固有名の情報は、この日に起きた事実としての出来事を指し示すとともに、この映像を指し示し始める。

例えば、「山梨県富士吉田市の堀内茂市長」という情報は、ラジオであれば、聞き手に「山梨県の自治体の一市長」であることをイメージさせるにとどまる。しかし、テレビでは、画面上に現れた背広姿の男性をも指し、この人物がどのような名前、どのような肩書きの人なのかを解説する役割を帯び始める。

VTR映像は、リード文で述べられた「提出しました」という事実を、「改めて」映像で表現する。リード文述部の中核的内容を表す「提出」の瞬間は逃さず撮影され、放送時にその映像は、リード文終了後に画面に現れ、改めて「提出」が表現される。その映像を指し示し解説する談

表6 テレビニュースの事例 2018年4月16日 18:10～総合『首都圏ネットワーク』放送

映像	音声
スタジオ・アナウンサー(タイトル字幕「富士山の噴火対策 周辺自治体が国に要望」)	①富士山周辺の山梨県と静岡県の自治体は、富士山の噴火に備えた調査やシェルターを整備する際の補助の充実などを求める要望書を国に提出しました。
VTR 富士山(資料映像)	①富士山周辺の山梨県と静岡県の16の市町村は、富士山の噴火に備えて連絡会を作り、避難体制の整備などを検討しています。
VTR 内閣府での提出風景(当日映像)	②きょうは、連絡会の会長を務める山梨県富士吉田市の堀内茂市長が内閣府を訪れ、小此木八郎防災担当大臣に防災対策の強化を求める要望書を提出しました。 ③要望書には、火口を特定するための調査や観測の精度を高め、県や市町村に迅速に情報を伝達する環境を整備することや、
VTR 富士山(資料映像)	(③の続き)噴石から身を守るシェルターを整備する際の国の補助を充実させることなど5つの項目が盛り込まれています。 ④要望書について国は…(以下略)

話は、反復にほかならない。

より詳しく述べれば、映像とともに読み上げられる②は、次のような指示語が隠れた文になっているという解釈もできる（丸かっこ内は筆者が加えた）。

「きょうは、連絡会の会長を務める（コノ）山梨県富士吉田市の堀内茂市長が（コノヨウニ）内閣府を訪れ、（コノ）小此木八郎防災担当大臣に防災対策の強化を求める要望書を提出しました。」

テレビニュースでは、丸かっこ内の指示語は明示されない。しかし、VTR映像と音が同期して流れることで、談話はここで、書きことばとしての「閉文脈」（庵功雄2007）から、話しことばのように外界をも指す「開文脈」（庵功雄2007）としての側面を持つ。映像の中の人物を指し⁵³⁾、また映像の中の様子（あるいは映像そのもの）を指し、「外界照応」（Halliday & Hasan 1976）の側面を持つのが、ニュースを中心としたテレビの表現形態の1つだと言える。

もちろん、汎用原稿はラジオでも使用可能な談話である（これらの指示語も当然示されない⁵⁴⁾）。それを基軸に考えれば、②のVTR映像の役割も、受け手が談話から「心的表象を作り上げること」（大村彰道2001）を手助けするための補助的なものにすぎず、談話は開文脈になっていないと解釈することもできる。また、談話と映像のどちらが「主」で「従」なのかという問いに答えが与えられるわけでもない。しかし、テレビにおいて映像と談話は、一方で独立しながら、他方で相互補完的に支え合い、詳細に説明し合う、「マルチモダル」（伊藤守2006）な表現を成立させている。

こう捉えれば、ニュース談話の反復は、リー

ド文と呼応し、かつVTR映像とも呼応する存在である。すなわち、当該ニュースの新しさを最も備えたリード文述部と、“その瞬間”を映像表現したVTRとを結びつけるのが、反復である。逆に、【例25】で②を削除したニュース談話には、要望書提出シーンの映像を添えることが難しいことがわかるだろう。②はテレビニュースには不可欠な文と言える。

加えて、リード文述部と、その瞬間を映したVTR映像との呼応についても指摘しておきたい。スタジオ部分の次にVTRが現れるという演出により、VTR映像は、リード文の内容の信ぴょう性を、あとから高める役割を持つ。つまり、リード文を理解した段階の受け手が「それは事実（本当）なのか？」という疑問を（意識する・しないは別として）抱くのに対し、VTR映像で「事実（本当）である」と応えているのである。石黒圭（2002）は、説明文では、序論の「論点表示文」にある何らかの意味的な「空白」が、読み進める動機になっていると述べている。リード文という音声言語で生じる空白を、時間や場所が特定されている現場映像が満たす、という過程が、テレビニュースの視聴を先へ先へと推し進める動機になっていると言えるのではないか。これによって、本文の反復は、リード文の単なる繰り返しに陥らない形にもなっている。

6.5 逮捕原稿から見える映像との関係

6.5.1 固有名を導く迂遠な一文^{うえん}

ここで、典型的なニュースから外れたもののうち、リード文から本文への文脈展開が反復によって明示的であった本文冒頭承前型の代表として、「逮捕原稿」の【例19】を見てみたい。

ここでも試みに反復c1を含む①を網掛け表示した。

【例19】(再掲)

①…国際手配されていた男が(中略)きのう(18日)、日本に移送されて(M)逮捕されました(N)。

①逮捕されたのは(n1), 住所不定の無職, A容疑者(60)です。

②警察の調べによりますと, A容疑者は12年前の平成12年6月に, 当時, 住んでいた平塚市の自宅で, 偽の一万円札, 数百枚を偽造したとして, 通貨偽造の疑いが持たれています。

③警察によりますと, A容疑者はパソコンやスキャナーを使って偽造をしていたと見られ(中略)。

④(中略)去年11月末にフィリピンの入国管理局に身柄を拘束されていたことがわかり(II), きのう, 日本に移送され(m1), 逮捕されました(n2)。

(以下略)

このニュースが談話上でどのような作業をしているのか, 情報構造の側面から, テーマ(=T)/レーマ(=R)に置き換えてみたのが表7である(1文目のテーマはT1, レーマはR1とし, 「T→R」という形で示す。2文目以降この形のまま数字が増える)。

表7では, 最後の④は, 事実上リード文と同じ情報を有している。これは, ④のテーマが「T5=T1」(ただしT5はA容疑者が非明示)で, レーマが「R5=R1」ということによる。この男(A容疑者)はニュース中, 常にテーマで現れるが, 1回だけ, ①でレーマで現れる。つまり, 「A容疑者」という固有名を新情報として導くために, 1文を費やして男をいったんレーマに登場さ

表7 逮捕原稿(【例19】)の情報構造の図式

①T1 男	→	R1 が逮捕された
①T2 (= R1) 逮捕されたの	→	R2 (= T1) は A容疑者 (= 男)
②T3 (= R2 = T1) A容疑者	→	R3 は 疑いが持たれている
③T4 (= T3 = R2 = T1) A容疑者	→	R4 は と見られ…
④T5 (= T4 = T3 = R2 = T1) (A容疑者)	→	R5 (= T2 = R1) は 逮捕された

せているのが, 反復のある①である。

これも試みに, ①の文(網かけ表示部分)を削除して読むと, ②のA容疑者は④で逮捕されたことが伝えられるので, 最終的にはほぼ誤解なく伝わるのがわかる(その場合, ①にある「住所不定無職の」という情報を②に補うのがよい)。

なぜ逮捕原稿は, ①の文を課すという迂遠な作業をするのか。理由としてまず, 容疑者の名前は, リード文では「男」のように匿名のほうがわかりやすいという理由が挙げられよう。政治家などの著名な容疑者であれば問題ないが, 無名の人物の固有名が説明なしにリード文で登場すると, ニュースのポイントがどこにあるのか(この人物であることが重要なのか, 容疑や, 肩書き, 性別に重点があるのか)がわかりづらくなるからである。

6.5.2 ラジオ時代の逮捕原稿

しかし, 映像の現れないリード文で容疑者の固有名を出すのを避けた結果だと説明することもできる。それは, 映像の伴わないラジオ時代のニュース談話が必ずしも冒頭で固有名を除いていなかったからである。1952年に日本放送協会報道局によって編まれた『NHKラジオニュース・

ハンドブック』というガリ版刷りの資料には、犯罪に関する原稿の実例がいくつか掲載されている。そのうちの1つには、冒頭文から容疑者の固有名が登場する（ここでは匿名の「B」などと表記した）。

【例ハ（1952年）】

東京新宿の女中殺しの容疑者Bが、きょう午後二時すぎ、八王子の自宅で逮捕されました。

淀橋署の捜査本部では新宿の女中殺し事件の容疑者として、きょう午前八時、C繊維株式会社社長B（三十三才）を逮捕するため、東京地方裁判所の逮捕状をえて八王子にむかい、午後二時十分八王子市元本郷町の自宅でBを逮捕し、直ちに身柄を東京の淀橋警察署に連行しました。

Bは終戦直後、生糸のブローカーとして、金を相当もうけましたが…（以下略）

【例ハ】はハンドブックに模範例として載せられていたので、ラジオ時代にこうしたニュースは多かったことが考えられる。それが、テレビ時代を迎えたニュース談話では、冒頭の文から固有名は省かれるようになるのである（[6.3]の〈例文4〉参照）。

6.5.3 “その瞬間”の映像がない 逮捕ニュース

もう一点、逮捕のニュースには、逮捕の瞬間の映像が、常に存在しないという特徴も影響していると考えられる。容疑者逮捕のニュースは、“その瞬間”の映像は、捜査妨害につながるなどから、通常は撮影に至らない。しばしば見るのは、逮捕後や逮捕前の映像、あるいは顔写真ということになる。

“その瞬間”の映像がないため、典型的なニュースに現れる、映像に呼応する反復は、必ずしも必要とされないことになる。【例19】の後段の④に現れるような「逮捕されました。」は、【例20】のように現れない場合もあることは先述した。一方、①の「逮捕されたのは…です。」という反復を含む表現は、逮捕後などの映像に合わせて固有名を伝えるのには向いている。逮捕原稿で、①の「逮捕されたのは…です。」がほぼ義務的で、後段の「逮捕されました。」が義務的ではないのは、その瞬間を表す映像がなくても常に成立するニュース談話になっているからだと説明することもできるであろう。逮捕原稿の①で必ず現れる「逮捕されたのは…です」という反復は、文脈展開上の理由に加えて、こうした映像の関係の中で生まれた表現ではないかと考えられる。

6.6 本文冒頭承前型や本文末尾反復型が少ない理由

以上の点から、反復逆転型の数が限られていることについては、次のような説明ができる。まず、本文冒頭承前型は、その瞬間の映像がないニュースには一定程度定着している。その瞬間の映像がある場合、仮に談話展開上は本文冒頭承前型が好ましくても、その瞬間の映像と呼応する反復が、本文中に改めて現れる。実際に、【例19】だけでなく、【例9】【例21】【例22】も、本文冒頭承前型をしているが、本文後段に再び反復nが現れる。それらが同じ述部の反復であれば、どちらかがなくてもよいという、冗長なものとなりうる。この理由から、その瞬間の映像がある限り、本文冒頭承前型は定着しにくく、主流になりにくい。

本文末尾反復型は、本来であれば談話に終

わりを与えるための反復非出現文の領域で、中核的内容から位相が移っている。このため、その瞬間の映像がここにはあまりににくい。したがって、その瞬間を映した映像に呼応する反復が、(談話に「書き納め」を与えるための反復よりも前の文に) 別途、必要となってしまう、その結果、冗長さが生まれうる。

こうした理由から、反復逆転型の数が限られ、逆転のないニュース談話が典型の位置を占めるようになったと考えられる。

6.7 ニュース頻出の指示語表現との関係

ニュース談話の指示語について調べた井上裕之(2017)では、ニュース本文第2文の冒頭で、先行文の内容を▶「状況」として捉える「この+[形式名詞]」「この中で」「このうち」などや「これについて」「これを受けて」「こうした中」、▶「情報源」として捉える「それによりますと」などの指示語表現が多く現れ、続いて当該ニュースのリード文に現れた主内容がよく現れる、ということを示している。

本稿では本文第2文で反復が多く現れることを明らかにしている。これらを併せて言えば、本文第2文では、上記の指示語表現に連なって反復が現れるということになる。例えば、本稿【例25】では、本文第2文は「これを受けて」で始まり、その後反復n1が現れる。ここから、ニュースに頻出の指示語表現は、映像との呼応で必要とされたニュース談話の反復を、ニュースの文脈に取り込むために多用されていると考えることができよう。

例えば、ニュース談話で頻出する「こうした中(で)」という表現の使用は、テレビが普及する1960年代から見られ⁵⁵⁾、その使用への批判は

1970年代から相次ぐ⁵⁶⁾。これらは、テレビ放送の始まりと時期が重なっている。その関係を明らかにするにはさらに調査が必要だが、ニュースに多用される指示語表現は、ここまで述べてきた構造的な側面から必要とされた可能性を考えるべきだろう。

6.8 談話の理解過程の視点から

放送媒体のニュースは、受け手(理解主体)が、いわば“たどり読み”のように前から順々に談話を理解し、かつ、さかのぼって聞き返せないという制限を、送り手側もあらかじめ織り込んで談話の作成にあたっているということは、先行研究でも述べた。こうした談話はどのように捉えられるか。本文第2文で反復が現れる典型的なニュース談話を例に、その理解過程を整理したい。

まず受け手は、冒頭のリード文で、主な伝達情報を理解する(その理解を字幕が促進する)。次の本文第1文でそこからいったん離れるが、第2文で主な伝達情報が再度、反復として現れる。受け手はそこで、冒頭での情報理解の確実性を高める。さらにそこに、リード文と反復に呼応する映像が現れる。そのことで、受け手は伝達情報が現実のものであるとの確証を深めるのである。

つまり、ニュース談話は、その主内容を、冒頭のリード文、本文の反復、それにテレビではそれらに呼応する映像、という3つ(これに冒頭の字幕を加えれば4つ⁵⁷⁾)の部分によって情報を伝える構造をしている。この構造はテレビの演出上の影響で生まれたと言えるが、談話の内容を音声で伝え、さかのぼって聞き返せないニュースは、これら複数の部分で伝えることで、受け手の情報理解の確実性を高める構造をし

ていると言えるだろう。

リード文と反復文との間に1文が挿入されることも重要である。井上裕之(2016)では、戦時下、配信原稿を書き換えてニュースとして放送していた際に、「リード文を添えると、その次の文(準リード文)も(全体像を示すという意味で)似た文となり、屋上屋を架す」(p.95)ことから、リード文を冒頭に添えるニュースが減ったとしている。準リード文とは、配信原稿の冒頭にもともとあった、原稿の全体像を示す文であるが、それがリード文直後に現れると重複感が高まると考えられた。現在のニュースでは反復が主に本文第2文で現れ、第1文で現れる場合も(逮捕原稿に代表される本文冒頭承前型のように)反復は言語サイズを変えている。これらは、重複感の解消に役立っていると捉えられる。

7 まとめ・今後に向けて

7.1 本稿のまとめ

本稿は、リード文述部の本文での反復の出現について、位置・数・順序や、表現の種類などを調べることで、談話構造を探った。その結果、典型的なニュースはリード文述部と本文反復が同じ順序で現れる相似型のものであった。また、その順序が逆転するもののうち、反復が本文第1文の主題部で現れて本文への流れを作る、逮捕原稿に代表される本文冒頭承前型や、本文末尾で現れて談話に書き納めを与える本文末尾反復型は、典型的でないものに含まれた。リード文述部の反復は、リード文を表現する映像と呼応関係にあり、ニュース談話の反復は、付随する映像やテレビ演出そのものと関係があると考えられた。

談話の理解過程から見ると、ニュース談話は、

その主内容を、冒頭のリード文、本文の反復、それにテレビではそれらに呼応する映像という3つ(リード文につけられる字幕を入れれば4つ)の部分で伝えることで、受け手の情報理解の確実性を高める構造をしている。本文第2文で反復が現れる典型的なニュース談話を例にその理解過程を述べると、受け手はまずリード文で主な伝達情報を理解する。次に本文第1文で文の内容はそこからいったん離れるが、第2文で主な伝達情報が再度、反復として現れ、受け手は冒頭での理解の確実性を高める。さらにそこに、それと呼応する映像が現れることで、受け手は伝達情報が現実のものであるとの確証を深めるのである。リード文から本文第2文までのわずか3つほどの文によって、ニュースの談話構造の中核は形成される。これら3文の文脈展開を、第1・第2文冒頭に多く現れる特徴的な指示語表現が支えている。

7.2 残された課題

本稿では、リード文と本文第2文の関係を詳しく見たが、第1文については、本文冒頭承前型以外は詳しく見ているとは言えない。ここには、ニュース主内容の前提となる状況が述べられたり、情報源が表されたりし、それによってリード文の承前の仕方や、本文第2文冒頭の指示語表現などは異なる形をとる。それらによって、ニュースの談話構造をさらに整理し、明らかにする必要があるだろう。

このほか、考察で触れた談話と映像の関係を明らかにするには、他の事例にも多くあたる必要があるだろう。また、新聞記事の反復についても、ニュース談話との違いをより正確に明らかにする必要があるだろう。さらに、ストレートニュース以外のニュースや、ネット上のみ掲載される

読み物的なニュースとの違いを探ることに意味があるだろう。

ニュース談話を通時的に捉えた場合、現段階で大きな空白となっているのが、戦後のラジオ期からテレビ放送初期の期間である。この間のニュースはまとまった形で残されていないが、この時期にリード文の減少と、その後の増加があることが予想される。資料を収集し、明らかにすべき点である。

海外のニュースとの比較も必要であろう。日本のニュースに現れた反復は、映像との呼応関係が色濃かった。日本と海外とでニュース談話の反復の有無に違いがあれば、映像との呼応関係から見た日本のニュース、あるいは日本語そのものの特徴が浮かび上がるかもしれない。映像と談話（ナレーション）の呼応関係（あるいは“親和性”などと呼べるかもしれない）から見た言語間の違いという視点に立てば、研究対象はドキュメンタリー番組など、広くテレビ全体がかわるものになる。

7.3 ネット時代に向けて

テレビは「音」と「映像」のメディアと言われるが、本稿の視点から述べれば、テレビニュースは「音声言語（アナウンサーの読み上げなど）」「文字言語（字幕など）」「映像」という要素を中心にできていると整理できよう⁵⁸⁾。本稿で見てきたように、アナウンサーが読むニュース談話には、すでに反復が内在している。また、スタジオ部分で読まれるリード文には字幕という文字言語（および、しばしば静止画）が、本文では映像（および字幕）が、「重ね」られる。このようにテレビは、上記要素で、主内容を反復させたり二重三重を重ねたりすることで、音声言語の弱点を克服しながら、受け手の情報理

解を確実なものにしてきた⁵⁹⁾。テレビは、情報伝達のために上記要素を、高度に反復し、重ねてきた点においては、1つの頂点を極めたメディア形態と言えるかもしれない。

ネット時代のニュースは、パソコンやスマートフォンでは文字言語（テキスト文書）として「読まれ」るが、動画が載せられるものもある。スマートスピーカーはディスプレイ搭載型も現れ、ラジオより複雑な形で聞くものも現れている。複雑な形式で伝えられることになっても、ニュースはもともと反復と重なりを高度に積み上げているので、機器や媒体に合わせて上記要素の一部を差し引いても、残る要素で情報は不足することなく伝わるだろう。

むしろ、課題となるのは、音声言語が文字言語（テキスト文書）に置き換えられたときに現れる“重複感”をめぐる問題ではないだろうか。例えば、反復が映像と呼応させるためのものであれば、映像を伴わない場面ではその必要性が問われることもあるだろう。

音声文字に置き換えられたときに、両者の違いが最もはっきり出るのは、タイトル字幕かもしれない。[6.3]でも触れたが、タイトル字幕は、テレビではリード文と同時に出され、音声言語の理解を支えているが、ネットのテキスト文書では、それが「タイトル字幕」→「リード文」→「本文」というように線条的に文脈に取り込まれるため、（タイトル字幕は省略文であるとは言え）反復が事実上3回現れ、重複感は増すと見える。時間や紙面の制約がある放送や新聞に比べ、ネットでは談話の長さは多少長くても問われない可能性もあるが、こうした反復の必要性を見直す場面はあるかもしれない。

反復を減らすために、リード文と本文反復のどちらかをなくすという発想もあるだろう。しかし、本稿で見てきたように、ニュース談話には、

テレビの演出スタイルが大きく反映している。「スタジオ+見出し → VTR」という演出形態から検討しなければ、汎用原稿もなかなか変わらないのではないだろうか。また、本文第1文の冒頭は、「これは」や「逮捕されたのは」など、リード文に対して承前性を帯びた表現が多い。仮にリード文をなくす場合は、本文第1文を冒頭にふさわしい文に変えていかねばならないだろう。

ニュースは長らくテレビをゆりかごとして育ち、

音声言語・文字言語・映像の反復と重なりを追求して一大ジャンルを築いてきた。本稿はその談話構造の主要な部分を明らかにした研究であるが、新たな時代にはその時代にふさわしい構造の汎用原稿が必要とされるだろう。放送局は、今後ニュース談話のどこを変え、どこを変えずにおくべきか。これらを取捨選択する上で、本稿が一助になればと考える。

(いのうえ ひろゆき)

注：

- 1) ニュースには、さまざまな長さのものがあるが、本稿では主に文の数が数本程度からなる、「ストレートニュース」と呼ばれる典型的なニュースを扱う(ストレートニュースについては注5参照)。
- 2) 文よりも大きな(あるまとまりを持った)言語単位を、一般には「文章」と呼ぶが、音声による言語の場合、言語学では「談話」と呼ぶ。放送ニュースは主に音声で読まれることから本稿では「談話」を用い、しばしば「ニュース談話」などと記すことにする。放送現場などでしばしば使われる「総理大臣談話」などとは使われ方が異なる言語学上の用語である。
- 3) 後述するが、リード文にはいくつかの定義が見られる。当該ニュースの要約、結論、骨子などを表すと考えられるが、本稿ではさしあたり「要旨」と呼ぶことにする。
- 4) 例えば文末が「だ」か「です・ます」か、といった違い。
- 5) 「アナウンサーの読み上げ原稿が中心となるニュース形態」(星野祐子2011)とされる。
- 6) 具体的には、冒頭で「主題・要旨・結論・提案などを述べる」(市川孝1978)ものが多くなると考えられるが、それらが「主題」か「結論」かなど、すべてが検証されているわけではない。
- 7) 「要旨」は、「1 はじめに」の脚注での説明と同様、要約や結論などを含めてそう呼んでいる。
- 8) 戦前のニュースの場合は、配信原稿に(今のリード文にあたる)見出しを放送局があとからつけていたため、要約の視点からの研究が存在する(菅野謙・石野博史1969)
- 9) 述語が事態を描くのに必要な要素を、その述語の補語と呼ぶ。例えば「昨日、公園で太郎が男の子を殴っていたよ。」という文では「昨日」「公園で」「太郎が」「男の子を」が、動詞「殴る」の補語になる。
- 10) 文の中で、出来事に対する話し手の主観を表す部分。例えば「太郎が花子を殴ったみたいだ。」という文では、「みたいだ」の部分がモダリティーにあたる。なお、言語学では通常「モダリティー」と表記するが、本稿ではNHK表記の原則に従い、「モダリティー」と長音をつけて表記する。
- 11) 仮に、リード文の述部ではなく「主題部」に着目した場合は、ニュースは短い談話なので、それが(顕在化するか省略の形をとるか)は別として本文でもいくつかの文に引き継がれることは容易に予想がついてしまうだろう。
- 12) 以下、2012年当時についてであるが、ラジオでは汎用原稿をほぼそのまま使う(ただし、ニュース時間内に収めるために短くする編集作業はある)。テレビでは汎用原稿を改変することがあるが、その程度は番組ごとに異なり、正午のニュースなどは改変が少なく、『ニュースウオッチ9』など、キャスター2人でかけあったり映像を中心に伝えたりするもので、その程度は大きい。ネットニュースは汎用原稿に近いが、「きょう」などの時間表現を「○日」のように日付に変える。汎用原稿は、テレビでのみ使用、また近年ではネットでのみ使用を目的に書かれた原稿も一部に含まれるが、基本的にはラジオで使うことを前提にした原稿で占められる。

- 13) 全国放送された汎用原稿が主に登録された、部内者向けデータベース。データはネット上のデータベースサービス(G-Search)で有料で公開されている。
- 14) アーカイブスの仕様の関係上、年間を通して抽出ができないので、ひと月ごとに「400本に1本」を抽出した。
- 15) スポーツの試合結果を多数伝えるものや、ラジオ向けではなくテレビ向けの長いニュース談話と推察されるものなどがある。
- 16) 改変の少ないニュースの場合に限られるが、川村よし子・金庭久美子(1998)で使用され、星野祐子(2011)でも特徴とされている。
- 17) ただし次の文は、本文で内容が繰り返されないため要旨に見えないが、テレビではスタジオのアナウンサーの映像で伝えられるため、例外的に第2リード文とする。①著名人死亡のニュースでの年齢伝達文(「〇歳でした。」)、②地震のニュースでの津波の有無伝達文(「この地震による津波の心配はありません。」)。なお、本調査でこれらの文は見つからなかった。
- 18) 実際の調査では、従属節の後の読点の有無は問わない(以下も同じ)。
- 19) 林四郎(1960)では、複文の中でも、「述語の役割を果たしてから、次の文要素の中に解消してしまうことがない」従属節を持つものを「結合型」とし、ここに挙げた2つの文型を「複線連結型」として、条件をつける従属節を持つ「複線展開型」と区別している。
- 20) 複文の述部はすべて調査する手法も考えられたが、結果が複雑になることが懸念された。
- 21) 例えば次のようなリード文がある。「昨夜遅く、札幌市東区にある生活保護受給者などの自立を促す共同住宅から火が出て、入居していた男女11人が死亡したほか、3人がけがをして、病院で手当てを受けています。」(2018年2月1日NHK)、「大雪の影響で、富山県では、除雪作業をしていたフォークリフトが用水路に転落して1人が死亡したほか、6人がけがをしました。」(2018年2月7日NHK)
- 22) これらは、過去にNHKでは、ニュースでの連用中止法の使用は、従属節と主節の関係がわかりづらいついて批判の対象にされてきたため、それを避けるために使われている可能性もある。例えば、NHK放送文化研究所発行の『文研月報』(1985年9月号)掲載の放送用語委員会の報告では、実際の使用例を取り上げ、「前後のつながりがはつきりしない」「連用中止法の乱用例」などと指摘している(p.59)。『文研月報』にはこうした指摘が過去に多数見られる。
- 23) 節レベルの内容を1文中に複数、並列に置くとき、一方が従属節、もう一方が主節になることが多いが、節が長いと「…したり、…したり…」のような表現では文が複雑になってわかりづらくなる。「ほか」や「一方で」などの表現はこうした場合に使われると考えられる。ほかに「…に加えて」などもあるが、本調査のリード文には出現しなかった。
- 24) 馬場俊臣(2011)では反復表現に含めない無性格語として「する」などが含まれる。
- 25) 特段の理由がなければ、「行う」「開く」「始める」などでも補語を含めなかったが、「検索を行う」など、補語が動作性の高い名詞の場合は(「検索する」に近くなると考え)含めた。また、「ある」も一部含めた。
- 26) 例えば「開始する」「検索する」などサ行変格活用をする動詞。
- 27) 活用する語において形が変わらない部分を語幹と言う。語彙の意味を表す部分である。
- 28) 星野祐子(2011)は、ニュース文末の常とう表現について、「情報源となる調査機関や発言者が主語の位置に置かれている場合は、『～を明らかにしました』『～を示しました』などがしばしば用いられ」「情報源を導く複合助詞『～によると』が用いられている場合は、『～ということです』で文が終止する傾向にある」としている。
- 29) 前出の馬場俊臣(2011)が反復表現に含めない無性格語にも挙げられている。
- 30) ベケシュ(1989)では、要約文を作る際に、原文から残る語句の要素の単位として「残存認定単位」を提案しているが、その単位の1つとして連体修飾節を見た場合、その底に位置する「外の関係」の形式名詞として「ハズ・コト・モノ・ノ・ワケ・ハウ」が挙げられると述べている。
- 31) ここでの情報源の名詞は「文末名詞」と似ている。新屋映子(1989)で「文末名詞」は、「『彼ハ出カケル様子ダ』の『様子』のように、連体部を必須とし、コピュラ(筆者注:主語と述語をつなぐ働きを持つ文法要素)を伴って文末に位置し、主語と同値関係でも包含関係でもない名詞」と位置づけ、さらに「連体部の内部に補語として収まり得ないものである」として、連体修飾部とはいわゆる「外の関係」にあることも述べている。具体的には、「述部が、客観的な事象に対する、主語で表された主体の認識や意見を述べるもの」として「意見」「考え」「印象」「認識」「判断」などを挙げ、また「話し手が他から得た情報として事象を伝達するもの」として「こと」「話」「評判」な

どを挙げている。これらは、ニュース談話に現れる情報源を示す名詞とよく似た特徴を持つと考えられる。また、新屋は「形式名詞の『ノ』『ハズ』などがコンピュータを伴って助動詞的にはたらくことはよく知られているが、文末名詞はこれらよりはより実質的な意味を持ちながら、同じく文末に位置して述定の意味にかかわっており、助動詞的な性格をもつ名詞と言えよう」と述べている。ただし、文末名詞は「状況語や、属性を表わす規定語になるもの」であるとしており、本稿で示すものより狭いものになっていると考えられる。

- 32) 市川孝 (1978) では、「繰り返し語句」について、「付属語・補助用言・形式名詞・接続詞・感動詞」を含めず、「指示語については、文脈中のことがらを指示することなしに繰り返し用いられるもの(私・彼、など)だけ」を含めるとしている。
- 33) 石井正彦 (2014b) は類義語を「指示的意味が同じで、感情的意味や文体的特徴に違いがある場合」「意味が部分的に重なる場合」「ある語が他の語に含まれる場合」の3つに大別している。
- 34) 注10のモダリティとほぼ同義。
- 35) 「会う」と「会った」などの時制を表す文法カテゴリー。
- 36) 「遊んだ」と「遊んでいる」など出来事の局面を表す文法カテゴリー。
- 37) 単独で文節を構成することのできる単語。
- 38) ここでは「統語」は「文法」とほぼ同義。
- 39) 従属節化について川原裕美 (1989) は、「連用中止形を持つ従属節に変化」「テ形を持つ従属節に変化」「接続助詞を持つ従属節に変化」の3つを挙げている。本稿では、リード文の述部については、いわゆる重文の従属節の述部も主節の述部と同等に扱うことにしているので、連用中止形やテ形の述部は主節述部と同等の扱いとなる。したがって、後述する反復表現の分類でも「従属節化」による変化(違い)は問わないことになる。
- 40) 川原裕美 (1989) では、原文から要約文を作る作業に対して述べられているが、本稿では、リード文から本文に移る際に、こうした違いや変化が現れる。
- 41) NHK放送文化研究所放送用語班に所属する、40代の男・女の研究員(計2名)に依頼した。
- 42) 出来事における参加者の立場を表す概念。例えば「猫がハムスターを追いかけている。」と「ハムスターが猫に追いかけている。」は、客観的事実は同じだが、どの立場から表現するかという点で表現が異なる。こうしたことにかかわる文法カテゴリーをボイスと言う。主なものに、直接受け身、間接受け身、使役がある。
- 43) 「もの(だ)」は実質的な名詞、形式的な名詞、あるいは代名詞的、助動詞的などという議論があり、位置づけに幅がある。本稿では「報道文の『モノダ』」を4タイプに分けて検討した田中伊式 (2012) の整理に基づき、省略可能かどうかを判断の材料とした。
- 44) 林四郎 (1973) の分類でこの例は、先行文脈を受ける「承前要素A」の「語の意味の働き」に含まれるであろう。細かく見れば、リード文の「株価(は)」と①の「日経平均株価」も類義語なので、これも承前要素Aになるが、本稿で見ている述部についても承前要素Aになると捉えられる。
- 45) 同内容の記事は、朝日新聞や共同通信なども出稿しているが、やはり反復はなかった。
- 46) ごく初期の1953～54年ごろのニュースは、取材体制がないため、「ラジオニュースを編集し、共同通信社提供の写真に、若干の図解・図表などをパタンにしたものを加え、原稿を読むアナウンサーの顔と交互にうつす」(『日本放送史(下)』p. 572) 手法が用いられた。
- 47) 文字や図を書いた板紙。
- 48) 『日本放送史(下)』によれば、「アメリカのテレビニュースの場合、CBCのダグラス＝エドワーズ、NBCのチャット＝ハントリーなど、個性豊かで放送出演の経験も深いジャーナリスト出身のニュース放送者(コメンテーター)が定時ニュースを担当し、人々はコメンテーターに対する好みにしたがって(中略)(放送局を)選ぶのであり、声だけではなく容姿・態度を通じてすぐれたパーソナリティーに親しみ、ニュースを理解する」(p.575)として、この先例が目標として掲げられたとしている。
- 49) ニュース本文の主要部分を放送局ではこう呼ぶ。
- 50) 配信原稿にリード文を付加していた時代のニュースを論じた井上裕之 (2016) では、戦時中にリード文を付加するものが減ることについて、もともとの配信原稿の冒頭にも全体像を示す一文があるため、「屋上屋を架すようで、くどく感じられる原稿もあったであろう」と述べている。1960年代も、執筆されたニュースにあとから見出し文(リード文)を追加するかどうか、という視点で語られていると推測される。
- 51) 星野祐子 (2011) は、「情報が時間の流れに沿って追加される線条的文脈」に対して、「空間的に配置されることによって構成される」文脈を「空間的文脈」とし、その例として、テレビでアナウンサーが読み上げるリード文とその画面下に現れるタイトルの字幕を挙げ、「聴覚と視覚の両面に訴えるような演出がなされ」と位置づけている。
- 52) 多くの場合、画面の字幕でも伝えられる。その字

- 幕は汎用原稿の情報をもとに作られる。
- 53) 広くテレビナレーションという視点で見た場合、映像に対して「コノ人物」「コノ映像」の双方の表現が可能であり、この場合の前者は「間接直示」(金水敏1999)になる。
- 54) 汎用原稿をテレビ向けに改変したテレビ専用のニュース談話には、映像を指す指示語がつけられることも多い。
- 55) 1980年代以前のNHKでは、ニュースを体系的に保存してはいないが、NHK放送文化研究所の月報には、1967年4月に開かれたNHKの放送用語委員会の記録の中に、4月12日放送の「注目の地方選挙」というニュースのテレビコメントが載せられ、その中に次のような使用例が見られた。「こうした中で、保守、革新対決の最大の焦点は、北海道の開発計画をめぐる政策論争です」。
- 56) NHK放送文化研究所の発行する月報を中心に、乱用に批判的な論考が多く見られる。以下の例がある。「つなぎのことばとして便利なので、つい用いがちであるが、乱用は避けたい」(石野博史1972)、「『こうした中で』は『どうした中で』なのか意味が不明りょうで具体性を欠く」「いわば万能接着剤のような機能が、使う側にとって便利だからこそ、ニュースに多用されている」(井上鎮雄1981)、「あいまいなまま、なんとなくわかったような気になってしまう」(松岡由綺雄1992)、「前の文章と、後に出てくる文章を、論理的にうまくつなげることができないため、『こうした中で』という、実に漠然とした表現で誤魔化してしまう」(池上彰2009)。
- 57) VTR画面端に置かれる「マスコットスーパー」と呼ばれる字幕を入れれば、さらに増える。
- 58) 非言語音も多く現れるが、ニュースには音楽は基本的には使われないため、ここでは省いた。
- 59) 反復や重なりは、高齢者や子ども、聴覚(あるいは視覚)に障害がある人へのサービスとしても重要だということは言うまでもない。

引用文献:

- 庵功雄(2007)『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版
- 池上彰(2009)『わかりやすく〈伝える〉技術』p.176, 講談社現代新書
- 石井正彦(2014a)「同義語」『日本語大事典 下』pp.1450-1451, 朝倉書店
- 石井正彦(2014b)「類義語」『日本語大事典 下』pp.2109-2110, 朝倉書店
- 石黒圭(2002)「説明文読解の方法—たどり読みによる文章構造の把握」『一橋大学留学生センター紀要5』pp.17-38, 一橋大学留学生センター
- 石野博史(1972)「放送文章と用語 第754回放送用語委員会〔東北〕の記録から」『文研月報』22-11, pp.37-43
- 市川孝(1978)『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 伊藤守(2006)「ニュースのディスコース分析, マルチモダリティ分析」『テレビニュースの社会学』pp.15-36, 世界思想社
- 稲垣吉彦(1987)「報道文章論」『入門マスコミ言語論』pp.63-125, 大修館書店
- 井上鎮雄(1988)「ニュースの文体」『日本語百科大事典』pp.837-839, 大修館書店
- 井上裕之(2016)「ニュースリードが消えた?—ラジオニュース草創期におけるリード文の成立と戦時下におけるその変貌過程—」『文研年報』60, pp.13-100,
- 井上裕之(2017)「放送ニュースの指示語の研究—リード文と本文の関連に着目して—」『表現研究』106, pp.48-58
- 大村彰道(2001)「序章 文章理解:結束性と意味の創造」『文章理解の心理学』pp.1-16, 北大路書房
- 金庭久美子・川村よし子(1999)「TVニュース構成の特徴分析とそれを支える表現」『日本語教育』101, pp.1-10, 日本語教育学会
- 川原裕美(1989)「要約文のパラフレーズの様相」『文章構造と要約文の諸相』pp.141-167, くろしお出版
- 川村よし子・金庭久美子(1998)「TVニュースの基本構造の分析」『東京国際大学論叢 商学部編 第58号』pp.109-121
- 菅野謙・石野博史(1968)「ニュース文章の分析方法について(1)」『文研月報』18-12, pp.33-47
- 菅野謙・石野博史(1969)「ニュース文章の分析方法について(2)」『文研月報』19-2, pp.1-19
- 金水敏(1999)「日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について」『自然言語処理』6-4
- 熊谷智子(1997)「くりかえす」『文章・談話のしくみ』pp.38-48, おうふう
- 小宮千鶴子(2011)「新聞の文体」『日本語文章・文

- 体・表現事典』p.218-224, 朝倉書店
- 佐久間まゆみ (2011) 「文章構造」『日本語文章・文体・表現事典』pp.115-117, 朝倉書店
- 新屋映子 (1989) 「“文末名詞”について」『国語学』159集 pp.88-75
- 砂川有里子 (2005) 「文の主題と談話の主題」『文法と談話の接点—日本語の談話における主題展開機能の研究—』くろしお出版
- 立川和美 (2011) 「説明的文章の文体」『日本語文章・文体・表現事典』pp.240-247, 朝倉書店
- 田中伊式 (2012) 「『この事件は、～したものです』などの表現をめぐって」『放送研究と調査』5月号 pp.72-83
- 時枝誠記 (1951) 「文章論の一課題」『国語研究』8 愛媛国語研究会 (時枝誠記 (1984) 『時枝誠記国語教育論集I』 pp.215-239)
- 馬場俊臣 (2006) 「反復語句に基づく文章分析」『日本語の文連接表現—指示・接続・反復』pp.203-220, おうふう
- 馬場俊臣 (2011) 「反復表現」『日本語文章・文体・表現事典』pp.106-107, 朝倉書店
- 林四郎 (1960) 「運び文型」『基本文型の研究』明治図書出版 (ひつじ書房より2013年に復刊 pp.51-91)
- 林四郎 (1963) 「放送のことばの研究 —ラジオの文と文章について (4) — 第2章 文章の研究 I. 文章研究の観点」『文研月報』13-1, pp.61-72
- 林四郎 (1973) 『文の姿勢の研究』明治図書出版 (ひつじ書房より2013年に復刊)
- ベケシュ. A (1989) 「残存認定単位の規定と出現傾向」『文章構造と要約文の諸相』pp.18-34, くろしお出版
- 星野祐子 (2011) 「ラジオ・テレビのニュースの文体」『日本語文章・文体・表現事典』pp.233-240, 朝倉書店
- 前田直子 (2009) 「現代日本語の複文」『日本語の複文』pp.5-25, くろしお出版
- 益岡隆志 (1987) 「受動表現の意味分析」『命題の文法』pp.179-196, くろしお出版
- 松岡由綺雄 (1992) 『ニュースよ日本語で語ってほしい—放送文章入門—』pp.130-132, 兼六館出版
- 南不二男 (1963) 「放送のことばの研究 —ラジオの文と文章について (5) — II. ニュースの文章構造」『文研月報』13-2, pp.91-107
- 宮島達夫 (1994) 「語彙の体系」『語彙論研究』pp.1-42, むぎ書房刊
- 森田良行 (1969) 「文章論の目指すもの—その効用—」『月刊文法』1月号 1-3, pp.70-74, 明治書院
- 保川亜矢子 (2014) 「機能主義言語学 (プラグマティクス派)」『日本語文法事典』pp.149-151, 大修館書店
- 渡辺実 (1985) 「文章のつかみ方」林四郎編『応用言語学講座第1巻 日本語の教育』pp.87-102, 明治書院
- Halliday, M.A.K. & Hasan, R 1976. *Cohesion in English*. Longman (M.A.K. ハリデイ&R. ハサン (1997) 『テキストはどのように構成されるか (Cohesion in English)』安藤貞雄ほか訳 ひつじ書房)
- Daneš, F. 1974. *Functional sentence perspective and the organization of the text*. In F. Daneš (Ed.), *Papers on Functional Sentence Perspective*. Hague/Paris, Mouton, pp.106-128

資料 2012年のニュース（125本）

①：第1リード文

(①2)：第2リード文

①, ②, ③…：本文番号（丸数字は当該文が本文の何番目かを表す。「①」は「本文第1文」の意味）

(K) (L) (M) (N)：第1リード文 述部

(V) (W) (X) (Y) (Z)：第2リード文 述部

(k) (l) (m) (n) (v) (w) (x) (y) (z)：本文反復（リード文に対応する小文字アルファベット。同じマークには出現順に「1」「2」など数字がつく）

※なお、ニュースの個人名等は一部「A」などの匿名にした。

- 1 ①オウム真理教の元幹部によりますと、A容疑者は、Bさんが連れ去られる事件が起きた直後にすでに教団を脱会していたこの元幹部のもとを訪れ(M)、事件に関わったことを認める発言をしていたということです(N)。①Bさんは、平成7年2月に、東京・品川区の路上で連れ去られたあと、山梨県の旧上九一色村の教団の施設で、麻酔薬を投与されて死亡したとされています。②A容疑者はこの事件の直後に、すでに教団を脱会して四国にいた元幹部の元にしばらく身を寄せていたということで(m1)、この際、「上から命令されてBさんを連れ去っただけで、命を奪うとは思っていなかった」などと話していたということです(n1)。③A容疑者は3月下旬に教団に対する警察の強制捜査が始まると、「教団を守らなければならない」と述べて教団に戻り、その後は連絡が途絶えたということです。
- 2 ①北朝鮮のキム・ジョンイル総書記の死去を受けて、韓国政府はこれまでより、より柔軟な姿勢で南北間の対話を進めていく方針を明らかにしました(N)。①韓国のリュ・ウイク統一相は、きょう行われた記者会見で、今後1年間の南北関係をめぐる業務計画を発表し、南北間の対話の窓口を構築していく方針などを打ち出しました(n1)。②韓国政府はこれまで北朝鮮に対し、おとしの哨戒艦沈没事件やコンビョン島への砲撃に対する謝罪など責任ある対応を取るよう求めてきました。③これについて、リュ統一相は「対話が始めれば、その協議の中でコンビョン島砲撃などを含むすべての懸案や南北の協力のあり方などを議題にのせることができる」と述べて、北朝鮮に対し、引き続き、謝罪を求めていくものの、南北対話を行うための前提条件とはしないことを明らかにしました(n2)。④また、リュ統一相は「対話のチャンネルは責任を持って合意できる、高官レベルが望ましい」とした上で、北朝鮮の国内の状況が落ち着くまで、対話の実現にはしばらくかかるとの考えを示しました。⑤リュ統一相は、朝鮮半島の平和と安定に向け、南北が主導して積極的に取り組んでいく必要があると強調し、韓国政府として北朝鮮に対し、より柔軟な態度でのぞむ姿勢を示した形となりました(n3)。
- 3 ①原発事故で多くのペットが取り残された福島県の警戒区域に、動物愛護団体などが、先月(12月)、特別に許可を得て(L)立ち入り(M)、犬と猫あわせて330匹余りを保護しました(N)。①(①2)依然、数百匹のペットがいるとみられ(Y)、環境省は、保護活動をさらに続ける方針です(Z)。①原発事故で立ち入りが禁止されている福島県の警戒区域で、飼いが震災で亡くなったり、避難する際に連れて行けなかったりした犬や猫などのペットについては、これまで環境省と県が保護活動を進めてきました。②環境省などでは、寒さが本格化する前にまだ残っているペットを動物愛護団体などの協力も得て緊急に保護する必要があるとして、団体に警戒区域への立ち入りを特別に許可するためのガイドラインを作成し(①1)、先月末までに16の団体が警戒区域に入りました(m1)。③その結果、町なかをさまようなどしていた犬と猫、あわせて332匹が保護され(n1)、一部は飼いが返されたということです。④しかし、警戒区域には依然、数百匹のペットがいるとみられ(y1)、環境省は、保護にあたって団体から詳しい報告を受けたり、あらためて現地調査を行ったりして実態を把握したうえで、保護活動を続ける方針です(z1)。
- 4 ①東日本大震災からきょうで10か月がたちましたが、福島県では依然として県外も含めて15万人余りが避難生活を続けており(M)、原発事故の影響で沿岸部の漁を見あわせている漁師の間からは、見通しの立たない状況に不安の声が上がっています(N)。①福島県警察本部によりますと、震災のため県内で死亡が確認された人はこれまでに1605人で、依然、217人が行方不明になっています。②また、震災と原発事故の影響で県外を含めておよそ15万6500人が避難生活を続けており(m1)、見通しが立たない状況に住民からは不安の声が上がっています(n1)。③このうち、県内の沿岸部の漁港では、原発事故の後、魚の一部が国の暫定基準値を超える放射性物質の検出が続いていることから、年が明けても操業再開が出来ない状況が続いています。④けさ、いわき市の久之浜漁港では、漁師や水産加工業者の人たちおよそ100人が、海中のがれき処理のために集まりました。⑤きょうは雪の影響でがれき処理はできせんでしたが、全員で海に向かって震災の犠牲者に黙とうをささげました。⑥原発事故の影響で雷岡町から避難している60歳の男性は、「海の放射能の汚染がいっつもるのか分らず、毎日、早く海に出たいと思いつつも過かしている。とにかくもどかしい」と話していました(n2)。
- 5 ①原発事故をきっかけに、節電の取り組みが求められる中、電気抵抗がゼロになる「超電導」の技術があらためて注目され(M)、ことし(平成24年)、超電導を利用して効率的に電気を送ることができる新しい送電線の実証実験が、研究所や企業などで始まる予定です(N)。①新しい送電線は、電線の中の超電導体の金属を液体窒素で冷やし、電気抵抗をゼロにして送電するもので、低い電圧で電気を送ることができるため、実用化されれば、大きな節電効果が期待されています。②東京・国分寺市の鉄道総合技術研究所は、鉄道を動かすための送電線に超電導を活用する研究を進めています。③研究所によりますと、現在の送電線を超電導のものに置き換えることができれば、路線ごとに3キロから5キロの間隔で置かれている変電所を大幅に減らすことができるということです。④研究所は、ことし、超電導の送電線を使って鉄道を動かす実証実験を行うことにしています(n1)。⑤さらに、経済産業省と民間企業は、超電導の送電線を使って一般家庭に電気を送り、効果や耐久性などを確認する共同実験を早ければ、ことし春ごろに行う予定です(n2)。⑥超電導は、実用化に向けた研究がおよそ25年前から本格化していましたが、原発事故をきっかけに節電の取り組みが求められる中、電気を効果的に利用する方法として、あらためて注目を集めています(m1)。
- 6 ①小川法務大臣は、閣議のあとの記者会見で、広島刑務所に服役していた中国人の男が脱走し、逮捕された事件について、「地域の方に大変な不安を与えてしまった」などと述べ(L)、近く現地を訪れ(M)、広島市の松井市長らに直接、陳謝する考えを示しました(N)。①広島市の広島刑務所に殺人未遂などの罪で服役していた中国人のA容疑者(40)は、今月11日、刑務所から脱走し、2日後に広島市内で、逃走などの疑いで逮捕されました。②これについて、小川法務大臣は、記者会見で、「地域の方に大変な不安を与えてしまった(①1)」。また、容疑者の身柄の確保にも大変な協力をお願いしたいと聞いており、謝罪と感謝の気持ちをあらわすために、あすに地元に行きたい」と述べ(①2)、近く現地を訪れ(m1)、広島市の松井市長らに直接、陳謝する考えを示しました(n1)。③また、小川大臣は、広島刑務所も訪れて、同様の事件の再発防止を指示する考えも示しました。
- 7 ①平成12年に神奈川県内で偽の一万円札数百枚を偽造したとして国際手配されていた男が、フィリピンで身柄を拘束されていたことがわかり(L)、きょう(18日)、日本に移送されて(M)逮捕されました(N)。①逮捕されたのは(n1)、住所不定の無職、A容疑者(60)です。②警察の調べによりますと、A容疑者は12年前の平成12年6月に、当時、住んでいた平塚市の自宅で、偽の一万円札、数百枚を偽造したとして、通貨偽造の疑いが持たれています。③警察によりますと、A容疑者はパソコンやスキャナーを使って偽造をしていたと見られ、同じ平成12年にフィリピンで偽の一万円札、数百枚を持っていたとして現地の捜査当局に逮捕され、平成17年に釈放されたあと、行方がわからなくなっていました。④警察がICPO＝国際刑事警察機構を通じて国際手配していたところ、去年11月末にフィリピンの入国管理局に身柄を拘束されていたことがわかり(①1)、きょう、日本に移送され(m1)、逮捕されました(n2)。⑤警察の調べに対して、A容疑者は「間違ひありません」と容疑を認めているということです。⑥警察は偽造の詳しいいきさつや動機などについて捜査を進めることにしています。

- 8 ①北朝鮮は、後継者のキム・ジョンウン氏が、長距離弾道ミサイルの発射に加えて、核実験についても陣頭で指揮していたとする論評を出し (L)、軍事優先の路線を受け継ぐジョンウン氏の力量を印象づけて (M)、若く経験不足だとする批判をかわす狙いがあるとみられます (N)。①北朝鮮が韓国との窓口機関になっている祖国平和統一委員会は、きのう、論評を出し (11)、軍の最高司令官に就任したキム・ジョンウン氏について、「キム・イルソン軍事総合大学に在学していた10代で、すでに偉大な将軍としての資質を備えていた」と称賛しました。②その上で、論評は、ジョンウン氏が、おとし後継者として正式に登場する以前に、長距離弾道ミサイルの発射に加えて、核実験についても陣頭で指揮していた (12) と強調しています。③北朝鮮がジョンウン氏の核実験への関与に公的に言及したのは、これが初めてです。④北朝鮮は、2006年と2009年の2度にわたって地下核実験を行い、先月、キム・ジョンイル総書記が死去したあとも、「核抑止力はわれわれの革命遺産だ」として核開発を継続する姿勢を崩していません。⑤指海部としては、今回の論評を通じて、軍事優先の路線を受け継ぐジョンウン氏の力量を印象づけ (m1)、若く経験不足だとする批判をかわす狙いがあるとみられます (n1)。
- 9 ①深刻な財政危機に陥っているギリシャ政府は、相次ぐ脱税による歳入の不足が、財政赤字の一因になっていることから、悪質な脱税者4000人あまりの名前をホームページで公表する異例の措置に踏み切りました (N)。①これは、ギリシャ財務省が22日、公表したもので (n1)、脱税額が去年11月の時点で15万ユーロ・日本円でおおよそ1500万円を超える4152人の名前と、実際に脱税した額が、ホームページに掲載されました (n2)。②公表された人の中には、スポーツ選手や歌手のほか、政治家の家族などいても、このうち脱税額が最も多かったのは、すでに検挙されている会計士で、日本円でおおよそ950億円に上っています。③脱税の総額は、日本円で1兆4000億円あまりに上るということで、これだけあれば、今年3月に迎える多額の負債の返済をEUなどの支援なしに乗り切ることができそうですが、実際にすべてを徴収するのは難しいということです。④脱税が後を絶たないギリシャでは、徴税システムの建て直しが財政再建を進めるための主要な課題の1つになっていて、ギリシャ政府は、脱税者の氏名を公表する異例の措置に踏み切る (n3) ことで脱税に歯止めをかけようとする狙いがあるとみられます。
- 10 ①雪下ろし中に屋根から転落するなど、この冬、雪に関係する事故で亡くなった人は、きょうまでに全国で42人に上り (M)、各地で大雪が降ったこの10日間で20人ほどが増えました (N)。①NHKが各地の放送局を通じて調べたところ、この冬、きょうまでに交通事故以外の雪に関係する事故で死亡した人は、42人となっています (m1)。②これは、去年の同じ時期の半数程度にとどまっていますが、各地で大雪が降ったこの10日間で20人ほど増えました (n1)。③死亡した人の70パーセント余りは60歳以上の男性で、自治体別では、北海道が10人、青森県が9人、新潟県が8人、秋田県が6人などとなっています。④事故の内訳を見ると、除雪作業中に屋根から転落した人が17人、雪を捨てる際に水路に落ちた人が10人などとなっています。⑤総務省消防庁は、「除雪作業に慣れているからと過信をせず、命綱やヘルメットをつけるなど、安全対策をしっかり行っただうで、作業は2人以上で行ってほしい」と呼びかけています。
- 11 ①携帯電話やデジタルカメラなど小型家電製品に含まれる貴金属やレアメタルの再利用を進めるため、環境省は、新たなリサイクル制度の案をまとめた (N)。①②試算では、新たな制度によって、年間100億円を超える金属の回収が見込まれるということです (Z)。①環境省は、これまで廃棄された貴金属やレアメタルの再利用を進めるため、携帯電話やデジタルカメラなどおおよそ100品目の小型家電製品を来年4月以降、リサイクルすることを目指しており、新たな制度の最終案をきょう、専門家による委員会に報告しました (n1)。②最終案では、国が使用済みの小型家電製品の提供を消費者に呼びかけ、自治体と小売店などが協力して回収しますが、自治体が行うかどうかは、それぞれの判断に委ねられます。③その上で、より多くの製品をリサイクルするために、これまで法律で制限されていた自治体の枠を超えた廃品の引き取りを国が認定する新たな事業者に限って認めます。④環境省は、この制度によって、小型家電製品の20%から30%の回収を目指しており、試算では、貴金属とレアメタルあわせて、年間、3.5万トンから5.3万トン、金額にして106億円から160億円分の回収が見込まれるとしています (z1)。⑤最終案はあす、細野環境大臣に答申され、環境省は新たな法案を今の通常国会に提出する方針です。
- 12 ①この春に卒業を予定している広島県内の大学生の就職内定率は、去年12月末の時点で、66.5%にとどまり (M)、厳しい状況が続いています (N)。①広島労働局によりますと、県内にある21の大学でこの春に卒業を予定している9565人の学生を対象に、就職内定率を調べたところ、去年12月末の時点で66.5%でした (m1)。②これは、前の年の同じ時期を1点7ポイント上回っているものの、最近7年間では2番目に低い数字で (m2)、3200人あまりの学生が、就職先が決まらないまま春を越したことになります。③一方、県内の高校生の就職内定率は、去年12月末の時点で82.1%と、前の年の同じ時期より1点4ポイント低くなっていて、就職を希望している生徒のうち、550人あまりの就職先が決まっていないことになります。④広島労働局は、大学生、高校生とも就職をめぐる環境は、依然、厳しいとしています (n1)、担当者が大学に向向いて学生の就職相談に応じたり、高校生を対象に卒業を控えた2月としては異例となる就職面接会を広島市と福山市で開くなどして支援することとしています。
- 13 ①アメリカ外交当局の機密文書などを公表してきた「ウィキリークス」の創設者がイギリスで逮捕されたアサンジ代表を逮捕状を出したスウェーデン当局に引き渡すかどうかを巡る審理が、イギリスの最高裁判所で始まり (M)、審理の行方に注目が集まっています (N)。①「ウィキリークス」の代表、ジュリアン・アサンジ容疑者 (40) は、スウェーデンで女性2人に乱暴するなどの疑いで、おとし滞留先のイギリスで逮捕され、逮捕状を出したスウェーデン当局に身柄を引き渡すべきかどうかをめぐる審理が行われてきました。②1審と2審は、身柄を引き渡す決定をし、アサンジ代表がこれを不服として上訴していたもので、1日、イギリスの最高裁判所で審理が、始まりました (m1)。③アサンジ代表は、1審と2審で容疑を全面的に否定し、逮捕された時期がアメリカ外交当局の機密文書を公表した後だったことから、逮捕は政治的な動機によるものだと主張しています。④スウェーデンに身柄を移された後、アメリカがウィキリークスによる機密文書の公表を巡って刑事責任を追及した場合、アメリカに引き渡されかねないとして移送を拒否しており、最高裁判所の審理でも徹底して争うものとみられます。
- 14 ①世界有数の産油国である中東のクウェートで、議会選挙が行われ (K)、王族を中心とする政府の汚職疑惑を追及した野党勢力が、議席のおおよそ70%を獲得して (L) 勝利し (M)、「アラブの春」と呼ばれる民主化のうねりが、保守的な湾岸諸国にも及んでいることが浮き彫りになりました (N)。①クウェートで2日、議会選挙の投票が行われ (k1)、これまでの集計結果によりますと、イスラム勢力を中心とした野党勢力が大きく躍進し、全議席の70%近くにあたる34議席を獲得しました (11)。②中東に「アラブの春」と呼ばれる民主化のうねりが広がる中、このところ、クウェートでも野党勢力の呼びかけで、王族を中心とする政府の汚職疑惑に抗議するデモが頻発に起きるようになっており、選挙で野党が勝利した (m1) 背景にも、こうした変化があるものと見られます (n1)。③クウェートでは、これまで、王族を率いるサハハ首長が首相の任命権や議会の解散権など強い権限を握ってきましたが、今後、議会が多数派となった野党は、王族の汚職疑惑を追及し、民主的な改革を求めていくものと見られ、双方の対立が深まる事態も予想されます。
- 15 ①スイスで行われた「ローザンヌ国際バレエコンクール」で1位となり優勝した神奈川県の高校2年生、菅井円加さんがきょう、帰国し (M)、「みんなに感動を与えられるようなダンサーになりたいです」と喜びと抱負を語りました (N)。①神奈川県厚木市の高校2年生、菅井円加さん (17) は、世界の手すりバレエダンサーの登竜門として知られる「ローザンヌ国際バレエコンクール」で1位となり、優勝しました。②菅井さんはきょう午前9時すぎに成田空港に到着し (m1)、少し疲れた様子でしたが、バレエ教室の人たちなど大勢の人たちに出迎えられ、笑顔を見せていました。③菅井さんは「まだ実感がありません。応援してくれたみんなにありがとうございます。みんなに感動を与えられるようなダンサーになりたいです」と喜びと抱負を語りました (n1)。④菅井さんはこのあと、地元厚木市で記者会見を開くこととしています。
- 16 ①東京電力福島第一原子力発電所の2号機と3号機の取水口付近できのう (8日)、採取された海水に含まれる放射性物質の濃度は、前の日から大きな変化はありませんでした (N)。①福島第一原発の周辺では、去年4月と5月に海水から高い濃度で放射性物質が検出された2号機と3号機の取水口付近などで東京電力が海水を採取し、放射性物質の測定を行っています。②きのう、2号機の取水口付近で採取した海水からは、1ccあたり、セシウム134が国の基準の1.6倍の0.098ベクレル、セシウム137が1.6倍の0.14ベクレル検出されました。③また、3号機の取水口付近では、セシウム134が基準の2.2倍の0.13ベクレル、セシウム137が2.1倍の0.19ベクレル検出されました。④いずれも、前の日から大きな変化はありませんでした (n1)。⑤一方、きのうおととい、福島第一原発周辺の沿岸と沖合の7か所で行った調査では、沿岸の3か所で放射性セシウムが検出されましたが、いずれも基準を大幅に下回りました。

17 ①震災からきょうで11か月となりましたが、岩手県では今も1300人以上の**行方がわかっておらず (M)**、警察と海上保安部は、陸前高田市と大船渡市で集中的な**捜索を行っています (N)**。①**捜索には (n1)**、警察と海上保安部から90人が参加し、警察は川の河口や海岸線を中心に、海上保安部は、海での**捜索を担当しました (n2)**。②捜索に先だって、津波で警察官が殉職した陸前高田市の交番の跡で黙とうし、このあと警察官が、砂浜や河口付近のしげみなど、目の行き届きにくいところに手がかりになるものが**捜してしまいました (n3)**。③また、海上保安部は、巡視艇や小型のボートを出して、海上からの**捜索にあたり (n4)**、午後からはダイバーが水中にもぐって捜索を行うことにしています。④岩手県警察本部によりますと、県内ではきのう現在で、1316人の**行方がわかっていません (m1)**。⑤捜索にあたっている大船渡警察署高田幹部交番の齋藤雅彦警視は、「殉職した警察官の思いを引き継いで捜索にあたり、1人でも多くの行方不明者を家族のもとに帰せるようにしたい」と話していました。⑥警察と海上保安部では、今後も行方不明者の捜索を継続的に行うことにしています。

18 ①民主化を進めているミャンマーについて、EU＝ヨーロッパ連合は17日、歴史的な変化が見られると**高く評価した上で (M)**、経済制裁の全面的な解除に向けた第1弾として、テイン・セイン大統領ら政府高官ら87人に対する渡航禁止の措置を**解除しました (N)**。①ミャンマーでは、今年4月に行われる国会議員の補欠選挙に向けて、民主化運動の指導者、アウン・サン・スー・チーさんが立候補を認められたほか、主要な政治犯が釈放されるなど、民主化に向けた動きが進んでいます。②これを受けて、EUは、民主化に向けて歴史的な変化が見られると**高く評価した上で (m1)**、経済制裁の全面的な解除に向けた第1弾として、テイン・セイン大統領や閣僚など政府高官ら87人に対する渡航禁止の措置を**解除しました (n1)**。③EUは今週はじめ、開発支援を担当する閣僚をミャンマーに派遣して支援の強化を打ち出したほか、4月に行われる国会議員選挙の後には、外交・安全保障を担当するアシュトン上級代表が現地を訪問する予定です。④EUとしては、今後、ミャンマー政府の取り組みの状況を見ながら、1996年から課している経済制裁を全面解除する方向で検討を進めています。

19 ①中国の習近平国家副主席は、ヨーロッパの信用不安などの影響で、経済の減速傾向が強まる中、今年の**経済成長率の目標について、ここ7年続けてきた8%から引き下げ (M)**、これまでの高成長の重視一辺倒の姿勢を**修正したことを明らかにしました (N)**。①中国の習近平国家副主席は、訪問先のアイルランドの新聞のインタビューに対し、中国の今年の**経済成長率の目標について、これまでの世界経済の成長のけん引役となってきたが、今年からは目標を適度に引き下げた」と述べ (m1)**、具体的な数字は示さなかったものの、2005年以来、続けてきた年間8%の成長率の目標を**引き下げたことを明らかにしました (m2)**。②中国では、ヨーロッパの信用不安や、政府が物価の高騰を抑えるために続けた金融引締めで、このところ経済の減速傾向が強まっています。③習副主席は、目標引き下げの目的について、「物価の上昇を和らげ、資源や環境を保護し、中国経済の効率化を進めたい」と強調しました。④また、習副主席は、ヨーロッパの信用不安の拡大による中国のさらなる景気減速への警戒感も示しましたが、その一方で、「中国の経済成長が劇的に落ち込むことはない」とも述べ、世界経済をけん引する中国の**経済成長目標の引き下げに各国や投資家が過剰に反応しないよう呼びかけました。**

20 ①IAEA＝国際原子力機関の天野事務局長は、イランを訪れていた調査団が、核兵器開発の疑いが持たれている軍事施設への立ち入りを**拒否されたことを明らかにしたうえで (L)**、**失望している」との声明を発表し (M)**、イランの対応を強く**批判しました (N)**。①IAEAはイランの核兵器開発の疑いを検証するため、査察部門トップのナカーツ事務次長ら調査団を、先月に続いて、首都、テヘランへ派遣し、22日までの2日間、調査を行いました。②IAEAの天野事務局長は、調査の終了を受けて**声明を発表し (m1)**、焦点となっていた核兵器の起爆に必要な爆薬の実験を行っていたとされるテヘラン郊外にある軍事施設への立ち入りを改めて要請したものの、イラン側に再度**拒否されたことを明らかにしました (l1)**。③天野事務局長は「イランが我々の要請を受け入れなかったことに**失望している」と述べ (m2)**、イランの対応を強く**批判しました (n1)**。④IAEAでは、今回の調査を受けて報告書をまとめ、来月5日から始まる定例理事会に提出することになっていますが、イランが調査に協力しなかったことで、今後、欧米を中心にイランに対する非難がさらに強まるものとみられます。

21 ①国が直轄で除染を行う福島県の避難区域で、環境省が100メートル四方ごとに行った詳細な放射線量の調査の中間報告が**公表されました (N)**。①今後、除染計画の策定や避難区域の見直しに**活用されることとなります (Z)**。①放射線量が高い福島県の警戒区域と計画的避難区域は、国が直轄で除染を行うことになっていて、環境省は、そのために必要な放射線量の詳しい調査を去年11月から始めました。②調査はこれまでの国の調査よりきめ細かい100メートル四方ごとに行われ、7963地点の結果が中間報告として**公表されました (n1)**。③全体的な傾向としては、▷原発の北北西の方向に年間の放射線量が50ミリシーベルトを超える地域が広がって、文部科学省が上空から行った調査結果と合う一方、▷上空からの調査では飯館村の中央部一帯が20ミリシーベルトを超えておりましたが、今回の詳しい調査では、一部の地域が20ミリシーベルトを下回っていました。④また、最も放射線量が高かったのは双葉町の山田地区で、1時間あたり89.9マイクロシーベルト、年間に換算して472.5ミリシーベルトでした。⑤環境省は最終的な測定結果も来月公表し、自治体ごとの除染計画の策定に**いかず (z1)**、ほか、政府が来月末をめどに行う避難区域の見直しにも**活用される見通しです (z2)**。

22 ①UNICEF(ユニセフ)＝国連児童基金はここの「世界子供白書」を**発表し (M)**、急速な都市化に伴って適切な医療や教育が受けられない子どもの数が増えているとして、各国に対策や協力を**呼びかけています (N)**。①ユニセフが**発表した (m1)** ここの「世界子供白書」によりますと、世界人口の半数にあたる35億人以上が20歳未満の子どもの数、このうち都市部に生活する子どもの数は10億人以上にのぼります。②都市部の住民のおよそ3分の1は、経済的に貧しい地域に住んでいると見られ、親が出生を自治体などに届け出なかったため、教育や医療といった公共サービスを受けられずに育つ子どもが増え、大人になってからも貧困から抜け出せない悪循環に陥っていると指摘しています。③また、5歳未満の子どものおよそ800万人が1年間に死亡していて、病院で治せるはずの肺炎や下痢が死亡原因の1位と2位を占めているとしています。④ユニセフでは、▷人口密度が高く衛生状態が悪い都市部のスラムでは病気に感染しやすいことや▷子どもの数に比べて医療機関が少ないのが原因だと、都市化が大きく影響していると指摘しています。⑤ユニセフは子どもたちが十分な医療や教育を受けられるよう、人口増加に応じた都市部のインフラ整備を進めることが必要だと、国を超えた協力を**呼びかけています (n1)**。

23 ①A社のB前会長がグループ企業から引き出した巨額の資金を海外のカジノで使っていた事件の初公判が**開かれ (L)**、B前会長は起訴された内容を認め**た上で (M)**、「関係者のみなさまにおわびします」と**謝罪しました (N)**。①A社の前の会長、B被告(47)は、去年、グループ企業7社からあわせて55億円余りを不正に引き出して海外のカジノで使っていたとして、特別背任の罪に問われています。②東京地方裁判所で**開かれた (l1)** きょうの初公判で、B前会長は「間違いありません」と述べて起訴された内容を認め**(m1)**、「関係者のみなさまにおわびします」と**謝罪しました (n1)**。③このあと検察は、事件のきっかけについて「B前会長は国内のどくで負け続けたため海外なら勝てると思い込み、平成18年ごろから海外のカジノに出入りするようになった」と述べた。④その上で、「海外でも負けが込み、負け分を取り戻そうとさらにカジノを続けた。みずからグループ企業の役員に連絡して巨額の資金を振り込ませ、口止めもしていた」などと、不正のいきさつを指摘した。⑤これに対して、弁護士は「A社本社も巨額の資金が引き出されていたことを把握していたはずで、会社側の問題も明らかにする必要がある」と主張した。

24 ①サッカー女子日本代表の佐々木剛夫監督は「テンポよくボールも回せたし、選手たちはチームのカラーを出してくれたと思う。ただ、攻撃の最後とところで難部分が出た。もう少し、落着いてプレーできるように**なって欲しい」と試合を振り返りました (N)**。①また、代表初ゴールをあげたフォワードの菅澤優衣香選手については、「動きもよかったし、守備でも頑張ってくれた。あとはもう少しゴール前の駆け引きを覚えてくれば」と評価していました。

- 25 ①東京・立川市の70代の男性が、信託会社の社員を装った男から「通信設備会社の社債を購入すれば3～4倍で買い取る」と電話でその話を**持ちかけられ(K)**、自宅を訪れた男に**手渡しなどして(L)**現金6500万円を騙し取られていたことが**わかり(M)**、警視庁は、詐欺事件として**捜査しています(N)**。①警視庁によりますと、こし1月、立川市に住む70代の男性が信託会社の社員を装う男から架空の通信設備会社の社債の購入を勧める電話があり、「立川に通信基地を作る計画がある。社債を購入すれば3～4倍で買い取る」と**持ちかけられました(k1)**。②その後、男性の自宅に通信設備会社のパンフレットが届き、さらに「5000万円分の社債を購入する権利が認められた」などと電話がありました。③このため男性は、後日、自宅を訪れた通信設備会社の社員を装う男に4回にわたって6000万円を**手渡ししたほか(i1)**、500万円を男の指定する銀行口座に**振り込んだ**ということです。④男性が購入した社債を売ろうとしたところ、男と連絡が取れなくなり、不審に感じて警察に届け出たため**発覚しました(m1)**。⑤警視庁は詐欺事件として**捜査しています(n1)**。
- 26 ①苫小牧警察署の署長ら警視正2人が、バイクの修理などを請け負う業者の別荘に泊まって飲食をともにしていた問題で、北海道警察本部は、国家公安委員会の承認を得て**(M)**、2人を**注意処分**にしました**(N)**。①**処分を受けた(n1)**のは、苫小牧警察署のA署長(58)と北海道警察本部のB交通部長(58)の警視正2人です。②警察によりますと、2人は、去年、苫小牧警察署のバイクの修理などを請け負う自動車整備業者と釣りに行く際、白老町にある業者の別荘に泊まり、一緒に飲食をしていました。③業者への有利な計らいは確認されず、懲戒処分にはあたらないということですが、誤解を招く不適切な行為だと、2人に対し、国家公安委員会の承認を得て**(m1)**、**本部長注意の処分**にしました**(n2)**。④また、A署長については、業者との間に利害関係があるため、国家公務員倫理規定に違反したとして、きょう、署長を更迭して警務部付きにし、先月、発覚した副署長によるセクハラ行為の監督責任として本部長訓戒の処分も受けました。⑤北海道警察本部の大賀真一警務部長は「職務倫理の順守を徹底し、再発防止に努める」というコメントを出しました。
- 27 ①きょう午後4時ごろ、栃木県足利市のスーパーで、小学5年生の男の子が男にカッターナイフのようなもので**切りつけられたと警察に通報がありました(N)**。①(2)警察によりますと、男の子は左手に**けがをして(Y)** **手当てを受けています(Z)**。①栃木県警察本部によりますと、きょう午後4時ごろ、栃木県足利市大前町のスーパーの店員から、11歳の男の子が男にカッターナイフのようなもので**手を切りつけられたと話している通報がありました(n1)**。②男の子は足利市内の小学5年生で**病院に運ばれました(z1)**が、警察によりますと、左手の親指のつけねを切る**けがをして**いるということです**(y1)**。③男の子はスーパーの中に友だちと2人で駆け込み、「店舗の外にいたところ、男が近づいてきて切られた」と話しているということです。④警察によりますと、男は身長1メートル65センチから1メートル70センチ、体格は太めで、黒い上着に黒いスポンをはいてサングラスをつけていたということです。⑤警察はスーパーの外に落ちていたカッターナイフを調べるなどして当時の状況について捜査しています。
- 28 ①東京・足立区の駐車場でおとこからけさにかけて、地面が大きく陥没しているのが相次いで**見つかりました(N)**。①(2)駐車場の近くでは東京都が地下水を抜き取る工事を行っていて**(V)**、都は水位が**下がって(W)**地盤が相次いで**崩れたものとみて(X)**、工事を**中断して(Y)** **復旧作業にあたっています(Z)**。①きょう午前7時ごろ、足立区江北5丁目にある東京都が所有する駐車場で、地面が長さ8メートル、幅6メートル、深さが2メートルにわたって陥没しているのを巡回中の警備員が**見つかり(n1)**都に連絡しました。②この駐車場では、同じ場所でおとこにも深さ3メートルほどの陥没が**見つかっていて(n2)**、東京都が応急対策として土で埋めるなどしていました。③駐車場の隣の敷地では東京都水道局が地下に給水所を建設するため、地下水を抜き取る工事を行っていて**(v1)**、都は、工事の影響で地下水の水位が**下がり(w1)**、地盤が相次いで**崩れたものとみて(x1)**、きょうから水の抜き取り工事を**中断して(y1)** **復旧作業を行っています(z1)**。④現場は環状七号線の高架下であり、周辺には住宅が密集しています。⑤東京都によりますと、駐車場の周辺ではこれまでに地盤が沈み込むなどの異常はみられないということですが、都は地盤を詳しく調べるためボーリング調査を行うことになりました。⑥東京都水道局は「周辺の住民の皆様にご迷惑をおかけしお詫び申し上げます。陥没が広がらないよう安全対策に万全を期したい」と話しています。
- 29 ①サッカーのイタリア1部リーグ・インテルの長友佑都選手は、18日、アタランタ戦にフル出場しましたが、試合は、**引き分けでした(N)**。①長友選手は、左サイドバックとして5試合連続で先発出場しました。②長友選手は、序盤から積極的に攻撃へ参加し、激しいマークを受けながらチャンスにつながる場面も作りましたが、チームに得点をもたらすことはできませんでした。③また、インテルは、前半23分にはペナルティーキックを獲得したものをこれを外してしまい、絶好の得点のチャンスを生かせませんでした。④試合は両チームとも得点を奪えず、0対0で**引き分けました(n1)**。
- 30 ①シリア情勢をめぐる国連安保理決議の採決で、ロシアは2度にわたって拒否権を行使しました**(N)**。①ここにきて欧米側に歩み寄る姿勢を示したのは、アンナン氏が国連の特使として本格的に仲介に乗り出すなか、市民の流血(一)に向い止むめがからず、これまでのようにアサド政権を擁護するばかりでは、ロシアに対する国際的な批判が強まると警戒したためとみられます。②また、今月はじめのロシア大統領選挙で、プーチン氏が野党勢力から強い批判にさらされたものの、欧米諸国は大統領という結果を受け入れる姿勢を示したことも、今回、ロシアが歩み寄った背景にあるという見方が出ています。③このところ、ラフロフ外相は、「アサド大統領の対応にも多くの間違いがあった」と述べるなど、アサド政権に苦言を呈するようになっていて、今後、ロシアとしては、アサド政権に対して事態收拾に向けて真剣に取り組むよう求めながら、アンナン氏の仲介努力を後押しするものとみられます。
- 31 ①プロ野球のシーズン開幕を前に、広島カーブのキャラクターがデザインされた「ラッピング列車」がきょうから**運行されることになり(M)**、JR広島駅で**お披露目されました(N)**。①きょうはJR広島駅のホームで、カーブの前田健太投手や篠田純平投手が出席して、記念の式典が**開かれました(n1)**。②式典では、JR西日本広島支社の杉木孝行支社長が「列車の運行がカーブの応援につながって行くことを期待しています。これは好成績を確信しています」とあいさつしました。③そして、マスコットキャラクター「カーブ坊や」のイラストが描かれた列車のヘッドマークのレプリカが、杉木支社長から2人の選手に手渡されました。④ラッピング列車は4両編成で、真っ赤に染められた車体には「カーブ坊や」や「スライヤー」のイラストが描かれ、応援のメッセージも書かれています。⑤式典には大勢のカーブファンが駆けつけ、列車をバックに写真を撮ったりして**運行開始(m1)**を祝っていました。⑥会場に駆けつけた広島市の親子連れの父親は「真っ赤な列車を見て期待が高まりました。これは優勝目指して頑張ってください」と話していました。⑦ラッピング列車は、10月中旬ごろまでの間、山陽線や呉線、可部線で運行されます。
- 32 ①アメリカの動物愛護団体は、捨て犬から生まれたメスの子犬が世界で最も小さい犬である可能性があると、**ギネス世界記録に申請しました(N)**。①アメリカの人気歌手にちなんで「ビヨンセ」と名付けられたこの子犬は、ダックスフントの一種で、今年8月、アメリカ・カリフォルニア州で、動物愛護団体によって保護された犬から生まれました。②団体によりますと、ビヨンセは出産前の超音波検査で非常に小さいことが分かったため、死産になると予想され、生まれたときも呼吸や心臓の動きがありませんでしたが、獣医師による措置で一命をとりとめたということです。③生まれたばかりのビヨンセはスプーンにのるほど小さく、その後2週間たっても体長は9センチほどで、紙コップに入ってしまうほどです。④また、口が小さすぎて母親から母乳を飲むことができず、団体のスタッフによって哺乳瓶で授乳されています。⑤団体では、ビヨンセが世界で最も小さい犬である可能性があると**ギネス世界記録に申請する(n1)**とともに、「ビヨンセやその母親は、捨て犬として施設に引き取られる何千もの犬の一例にすぎない。こうした犬の多くは安楽死させられることを忘れてはいけない」と話しています。⑥ビヨンセは数か月後には希望する家庭に引き取られるということです。
- 33 ①アップルが生産を委託している中国の工場での労働環境をめぐる問題は、こし1月、アメリカの有力紙、ニューヨーク・タイムズの調査報道で**明らかに反論しました(N)**。①アップルのチーム・クック最高経営責任者は「我々が労働環境の問題に対処していないという見方は明白な誤りで、我々への攻撃だ」と反論しましたが、一方で、アップルは大手のハイテク企業では初めて、こしの2月に労働環境を監視する国際的な団体「公正労働協会」に加盟し、中国の工場の労働環境について実態調査を依頼しました。②今回の調査では、フォックスコンの3つの工場すべてで、従業員の平均労働時間が法律などで定められた基準を超えていたことや、「十分な賃金や残業代が支払われていない」と答えた従業員が全体の14%にのぼったことなど、多くの問題点が指摘されています。③巨額の利益を上げ続ける成長の裏側に下請け企業の劣悪な労働環境があった事実は、世界的な企業のアップルにとって大きなイメージダウンになりかねず、今後、事態の改善に向けたアップルの取り組みに注目が集まりそうです。

①アメリカ南部・フロリダ州で、黒人の男子高校生が自警団の男に銃で撃たれて死亡した事件で、警察が男を逮捕しなかったことは「人種差別だ」として抗議する動きが全米各地に広がっていて、(M)、事件が起きた町では、これまでで最大規模の抗議デモが行われました。(N)。①この事件はこし2月下旬、17歳の黒人の高校生、トレイボン・マーティンさんが、自警団に所属する28歳の白人の男に路上で銃で撃たれて死亡したものです。②マーティンさんは、武器を所持していませんでしたが、警察は、州法で認められた正当防衛にあたるとして、男を逮捕しなかったことから、「人種差別だ」として抗議する声が入インターネットなどを通じて全米に広がり、(m1)、各地で抗議デモが行われています。③事件が起きたフロリダ州のサンフォードでは、31日、市民2000人以上が参加して、これまでで最大規模の抗議デモが行われ、(n1)、参加者たちは、マーティンさんの写真を掲げながら、「今すぐ正義を実現せよ」とシュプレヒコールをあげ、警察署の前まで行進しました。(n2)。④参加者の1人は、「マーティンさんが黒人でもなかったら、男は逮捕されははずだ」と、警察を批判しました。⑤今回の事件を受けて、アメリカ社会では、銃の規制強化を求める声が強まる一方、これを阻止しようという動きも出ており、オバマ大統領みずから、徹底捜査を国民に約束するなど、事件をめぐる論争はさらに広がる様相を見せています。

①きょうの東京株式市場は、外国為替市場で円が値上がりしていることから輸出関連の銘柄を中心に売り注文が出て、(M)、株価は値下がりしました。(N)。①日経平均株価、きょうの終値はきのうより、59円48銭安、1万50円39銭(n1)、東証株価指数=トピックスは、5.03下がって、851.02でした。②1日の出来高は、16億8176万株でした。③市場関係者は、「円の値上がりを受けて自動車など輸出関連の銘柄に売り注文が出た(m1)。ただ、アメリカ経済の先行きや、円相場の今後の動向を見極めたいとする投資家も多く、全体として取り引きは低調だった」と話しています。

①ロンドンオリンピック予選の代表を決めるボート、男子軽量級ダブルスカルのやり直しのレースが行われ、(L)、武田大作選手と浦和重選手のペアが勝って、(M)、アジア予選に出場することになりました。(N)。①ロンドンオリンピック予選の代表選考会は去年11月に行われましたが、武田選手は、自身が補欠となった選考は公正を欠いていたとして、日本スポーツ仲裁機構に選考結果の取り消しを申し立て、主張が認められました。②これを受けて日本ボート協会はきょう、改めて代表を決めるやり直しのレースを行いました。(I1)。③武田選手は浦選手とペアを組み、いったんは代表に決まった須田貴浩選手・西村光生選手のペアと対戦しました。④レースは2000メートルのコースで1日に3回行い、先に2勝したペアが勝ちです。⑤武田選手と浦選手は、第1レースを勝った後、(m1)、第2レースでも序盤からリードを保って0.9秒差で勝利し、(m2)、2連勝で、(m3)代表に決まりました。(N1)。⑥武田選手はレースの後、「このような問題はもう二度と起こらないでほしい。今後は目標を切り替えて、予選を1位で通過し、オリンピック本番でメダルに挑戦したい」と話していました。⑦武田選手と浦選手のペアは、今月26日から韓国で行われるアジア予選に出場し、(n2)、上位3位に入ればロンドンオリンピックの出場権を獲得します。

①火星の表面に、ゾウの顔に見える地形が見つかり、(M)、NASA=アメリカ航空宇宙局などが画像を公開しました。(N)。①これは、NASAの探査衛星が火星の表面の様子をとらえたもので、NASAとアリゾナ大学でつくる研究チームが公開した(n1)画像からは、長い鼻と、つぶらな瞳をもったゾウの顔に見える地形を確認することができます。(m1)。②研究チームによりますと、この地形は火星の中でも溶岩流が多く観測される「エリジウム平原」と呼ばれる場所にあり、過去1億年以内に起きた溶岩流の痕跡とみられるということです。③月にウサギの形が見えるのと同じ現象ですが、火星のゾウは地球から遠すぎて、肉眼では確認できないということです。

①イギリスのキャメロン首相がきのう(13日)、ミャンマーを訪れて、(K)、テイン・セイン大統領や最大野党を率いるアウン・サン・スー・チー氏と相次いで会談し、(L)、EU=ヨーロッパ連合が科している経済制裁については、民主化に向けた着実な改革を促すためだけに解除するのではなく、(M)、まずは一時停止にとどめるべきだという考えを示しました。(N)。①イギリスのキャメロン首相は、去年3月に民政に移管したミャンマーを欧米諸国の首脳としては初めて、きのう訪問し、(k1)、首都、ネピドーでテイン・セイン大統領と会談しました。(I1)。②また、今月1日の補欠選挙で圧勝した最大野党を率いるアウン・サン・スー・チー氏ともヤンゴンで会談し、(I2)、その後そらって記者会見しました。③この中で、キャメロン首相は「民主化への変化を支援しているという姿勢を示すことが重要だ」と述べ、EUがミャンマーに科している経済制裁の緩和に前向きな姿勢を示しました。④その上で、キャメロン首相は「制裁は解除するのではなく(m1)、一時停止にすべきだ」と述べ、(n1)、民主化に向けた着実な改革を促すためだけに、制裁をただちに解除するのではなく(m2)、まずは一時停止にとどめるべきだという考えを示しました。(n2)。⑤これに対し、スー・チー氏は「支持する」と述べました。⑥EUは今月23日に開く外相会議で、制裁の取り扱いについて協議することになっています。

①京都・祇園の繁華街で車が暴走し、8人が死亡した事故の直後、京都府警察本部の交通部長らが、警察幹部の懇親会で酒を飲んでいた問題で、安森智司本部長は、NHKの取材に対し、「懇親会の開催に問題はなかったが、自らも酒を飲んだのは配慮が足りなかった」と述べました。(N)。①この問題は、今月12日、京都市東山区の祇園の繁華街で、軽自動車が発走し、歩行者など8人が死亡した事故のおよそ5時間後に、京都府警察本部が警察署長会議の懇親会を開き、事故の対応の責任者だったA交通部長がビールを飲んでいたものです。②懇親会には安森智司本部長も出席し、コップ1～2杯のビールを飲んだということです。③安森本部長によりますと、当日、複数の警察幹部から「事故があったが懇親会をどうするか」と相談を受け、懇親会が2回の貴重な意見交換の場だったことから開催を決めたとしています。④安森本部長は、NHKの取材に対し、「懇親会の間も現場から事故の報告を受けていて、懇親会を開いた判断や事故の対応に問題はなかった。しかし、酒に口をつけたのは配慮が足りず(n1)、不徳のいたすところだ」と話しています。(n2)。

①きょうの東京株式市場は、アメリカで一部の企業の決算がふるわず、アメリカ経済の先行きへの不透明感が意識されたことから輸出関連の銘柄に売り注文が出て、(M)、株価は値下がりしました。(N)。①日経平均株価、きょうの終値は、きのうより、78円88銭安、9588円38銭(n1)、東証株価指数=トピックスは、5.14下がって、814.13でした。②1日の出来高は、16億2920万株でした。③市場関係者は、「アメリカのIT関連の企業の決算内容が一部で市場予想を下回ったことからアメリカ経済の先行きについて不透明感が意識され、輸出関連の電機や精密機器などの銘柄に売り注文が出た」と話しています。(m1)。

①東日本大震災の被災地の復興について考えようと、復興に当たるまちづくりの専門家を招いたシンポジウムが都内で開かれ、(M)、住民と行政をつなぐ役割の大切さが指摘されました。(N)。①シンポジウムは、東京の防災の課題について考えるNPOが開いた(m1)もので、設計事務所などのまちづくりの専門家や、一般参加の人など、およそ120人が参加しました。②はじめに、岩手県沿岸のまちづくりを支援している青森県の弘前大学の北原啓司教授が講演し、「行政は予算の関係もあって縦割りで住宅や産業などの復興を考えると、住民にとっては一体だ。復興には住民と行政の両者をつなげる仕組みづくりが必要」と訴えました。(n1)。③また、岩手県陸前高田市の広田半島の住民を支援している東京のコンサルタントは、「行政は復興のまちづくりの制度を熟知しているわけではないので、コンサルタントは住民と行政をつなぐ役割が求められている」と報告しました。(n2)。④これに対して、出席者からは、「住民と専門家が中心となってまちづくり会社を作れば、国の補助金を使うこともできし、行政の負担も減る」という意見が出ていました。⑤主催したNPOの代表、高見澤邦郎さんは「被災地の復興の現状を知って支援の必要性を知ってもらうとともに、今後の災害に備えて、ふだんのまちづくりも考えて欲しい」と話していました。

①大手鉄鋼メーカーの新日鉄は、退職した技術者を通じて特殊な鉄鋼製品の製造技術を不正に取得したとして、韓国大手鉄鋼メーカーなどに対して、1000億円の損害賠償と、製品の製造と販売の中止を求める訴えをきょうまでに東京地方裁判所に起こしました。(N)。①新日鉄によりますと、韓国大手鉄鋼メーカーの「ポスコ」は、新日鉄を退職した技術者を通じて変圧器などに使われる特殊な鉄鋼製品の製造技術を不正に取得したとして、これまで「ポスコ」に対して製造を中止するよう求めていました。②しかし、解決の見通しが立たないとして、きょうまでに「ポスコ」や新日鉄の元技術者などに対して、合わせて1000億円の損害賠償と、この鉄鋼製品の製造と販売の中止を求める訴えを東京地方裁判所に起こしました。(n1)。③新日鉄では、退職した技術者は「ポスコ」側に、鉄鋼製品の製造に関する新日鉄の内部資料を不正に渡していた疑いがあると述べています。④新日鉄とポスコは互いに株式を持ち合うなど提携関係にありますが、今回の訴えの対象となっている鉄鋼製品を巡っては激しいシェア争いを繰り広げています。⑤今回の提訴について、ポスコは、「訴えの詳しい内容が分からないので、事実関係を確認している」と話しています。

- 43 ①インターネット検索大手の「ヤフー」は、ネット販売の事業を強化するため、オフィス文具の通信販売大手「アスクル」の株式をおよそ40%取得し(M)、傘下に収める方針を固めました(N)。①関係者によりますと、「ヤフー」は、オフィス文具の通信販売大手「アスクル」が近く実施する第三者割当増資を引き受ける形で300億円あまりを出資し、アスクルの株式のおよそ40%を取得して(m1)筆頭株主となり傘下に収める方針です(n1)。②ヤフーは、インターネットの、いわば玄関にあたる「ポータルサイト」の利用者数では、国内最大手ですが、配送など物流のネットワークの整備ではほかのインターネット企業に遅れを取っていました。③このため、東京や仙台、福岡など、全国に配送の拠点を持つアスクルを傘下に収めることで、ネット販売事業を強化する狙いがあります。④一方、アスクルは、大手文具メーカー「プラス」の事業部門としてスタートしたあと分社化され、注文翌日までに配送するというスピードを売りの一つに、中小企業を主な顧客として、事業を拡大してきました。⑤今回、ヤフーとの提携によって、これまで手薄だった個人向けの事業を拡大したいという狙いがあるものと見られます。⑥両社はきょう記者会見して発表することになっています。
- 44 ①6日に決選投票が行われたフランス大統領選挙は、野党・社会党のオランド氏が、現職のサルコジ大統領を破って(L)、政権交代を果たし(M)、フランスで17年ぶりに、社会党の大統領が誕生することになりました(N)。①フランス大統領選挙は、6日、決選投票が行われ、日本時間の午前3時までに、すべての投票が締め切られました。②フランス内務省の発表によりますと、開票がほぼ終わった時点で、オランド氏の得票率が51.7%、サルコジ大統領が48.3%となり(I1)、オランド氏が当選しました(I2)。③オランド氏は、日本時間の午前4時半頃、地元フランス中部のチュールで演説し、「フランス国民は変化を選択した。私は国に尽くしていく。変化はいま始まる」と勝利を宣言しました。④そのうえで、「ヨーロッパでは、もはや財政緊縮策だけが選択肢ではない。私の役割は、ヨーロッパに経済成長と雇用の促進、それに繁栄の道を与えることだ」と述べ、特にドイツとの協力関係を重視しながら、ヨーロッパの信用不安対策に取り組む考えを示しました。⑤また、これに先だって、サルコジ大統領は、パリ市内で演説し、敗北を認めたくえず、オランド氏に電話をかけて、「厳しい状況にあるががんばって欲しい」とお祝いの言葉を伝えたことを明らかにしました。⑥オランド氏の当選によって、フランスでは、1995年に退任したミッテラン大統領以来、17年ぶりに社会党の大統領が誕生することになりました(n1)。⑦ヨーロッパでは信用不安による影響で、去年、イタリアやスペインなど各国で政権が退陣に追い込まれており、フランスでも、政権交代が起きた(m1)ことで、今後のヨーロッパの信用不安対策の行方が注目されています。
- 45 ①東京都は、東日本大震災の被災地に技術系の職員を派遣するため、自治体などでまちづくりの事業に携わったことのある経験者を期限付きの職員として採用することになり(M)、きょう、希望者を対象にした説明会が開かれました(N)。①東京都は、東北の被災地で、住宅の高台移転など復興に向けたまちづくり事業を担う技術系の職員が不足していることから、即戦力の人材を最長で5年の期限付きの職員として採用して(m1)派遣することになっています。②きょうは採用に関する説明会が東京都庁で開かれ(n1)、自治体や企業などでまちづくり事業に携わったことのあるおよそ120人が集まりました。③派遣先となる東北3県の10の自治体の担当者が仕事の内容などを紹介し、このうち岩手県大槌町の担当者は「復興を担うはずの建設部門の職員12人が震災で命を落とし、町の復興には皆さんの力添えが必要です」と協力を呼びかけていました。④参加した公務員の男性は「まもなく退職するので、自分の行政経験を生かせないかと思い参加しました。被災地のために前向きに考えたい」と話していました。⑤東京都では今月(5月)30日まで受け付け、およそ40人を採用し(m2)、ことし9月にも派遣することになっています。⑥東京都復興支援対策部の砥出欣典部長は「技術と熱意のある人材をぜひ、採用していきたい」と話していました。
- 46 ①菓子などに使われる甘味料の「水あめ」や「ブドウ糖」などの販売をめぐり、食品加工会社13社が販売価格を不正に引き上げるカルテルを結んでいた疑いがあるとして、公正取引委員会は、独占禁止法違反の疑いで、各社の本社などを立ち入り検査しました(N)。①立ち入り検査を受けた(n1)のは、いずれも食品加工会社で、▷東京・千代田区の「A社」▷愛知県美浜町の「B社」▷東京・港区の「C社」など13社です。②関係者によりますと、13社は菓子の甘味料などに使われる「水あめ」や「ブドウ糖」、さらにこれらの原料となる「コーンスターチ」というでんぷんの販売をめぐり、販売価格を不正に引き上げるカルテルを結んでいた疑いがあるということです。③各社はコーンスターチの原料のうちの価格が上がった際、担当者が話し合って値上げ幅を決めるなどしていた疑いがあるということです。④公正取引委員会は、ことし1月にも13社のうち10社が別の甘味料の販売をめぐって、カルテルを結んでいた疑いがあるとして、立ち入り検査をしています。⑤公正取引委員会は関係資料の提出を受け、実態解明を進めることにしています。⑥各社は「検査を受けているのは事実で、全面的に協力します」などと話しています。
- 47 ①大相撲夏場所13日目、幕下で、石川県出身の寺下が、7戦全勝で優勝しました(N)。①幕下、東の16枚目の寺下は、きょう13日目に同じ6戦全勝の兜岩と対戦し、「寄り倒し」で勝って、幕下での優勝を決めました(n1)。②阿武松部屋出身の寺下は、石川県能登町出身の28歳、平成19年の春場所に初土俵を踏みました。右から攻めながら前に出る相撲を得意にしています。③次の場所は初めての十両昇進を狙える地位に上がることが確実で、寺下は「今場所は思い切って前に出る相撲を取れたのがよかったと思う。次の場所はさらにスピードをつけて絶対に十両に上がりたい」と話しました。
- 48 ①アメリカ男子ゴルフツアーの大会は20日、テキサス州で最終ラウンドが行われ(L)、65位でスタートした今田竜二選手はバーディ4つ、ボギー5つでスコアを1つ落とし(M)、通算5オーバーで67位でした(N)。①大会はアメリカのジェイン・ダフナー選手が通算11アンダーで優勝し、ツアー2勝目です。
- 49 ①野田総理大臣は、昨夜、沖縄県で今週、開かれる「太平洋・島サミット」に参加するマイクロネシアなど3か国の首脳と会談し(M)、この地域への影響力を強める中国を念頭に、各国との連携を重視する姿勢をアピールしました(N)。①日本と、太平洋の16の国と地域が参加する「太平洋・島サミット」は、3年に1度、日本で開かれていて、今回は、あさって(25日)から2日間の日程で沖縄県で開かれます。②これを前に、野田総理大臣は、昨夜、総理大臣官邸で、マイクロネシア、パラオ、それにサモアの首脳と個別に会談しました(m1)。③このうち、マイクロネシアのモリ大統領との会談で、大統領は、日本からのODA=政府開発援助に感謝の意を表明するとともに、「日本との「きずな」を強化したい」と述べました。④これに対し、野田総理大臣は、「日本と歴史的にもつながりの深いマイクロネシアとの友好関係をさらに強化したい」と述べると、この地域への影響力を強める中国を念頭に、島サミットの参加国との連携を重視する姿勢をアピールしました(n1)。
- 50 ①シリア国内の情報を収集している人権団体によりますと、シリアでは25日、中部の町で起きた政府軍による攻撃で、女性や子どもなど50人以上が死亡し(M)、国連の停戦監視団が派遣されているにもかかわらず、犠牲者の数が増え続けています(N)。①人権団体によりますと、イスラム教の金曜日の礼拝が行われた25日、各地で反政府デモが相次ぎ、政府軍や治安部隊が鎮圧に乗り出しました。②このうち、中部のホムス近郊の町では、政府軍が戦車や迫撃砲を使って激しい攻撃を行い、死者の数は女性や子どもを中心に50人以上に上ったということです(m1)。③シリアには、国連の停戦監視団が派遣され活動を行っていますが、市民の犠牲は後を絶たず(n1)、人権団体は、アサド政権が国連などの要請を受けて停戦に応じるとした先月12日以降、1,400人以上が死亡したとしています(n2)。④また、反政府勢力の「自由シリア軍」と政府軍の戦闘は各地で断続的に続いているほか、政府施設での爆弾テロ事件も相次いでおり、一部の地域はすでに内戦状態に陥ったとの見方も出るなど、シリア情勢は混迷の一途をたどっています。
- 51 ①火事が起きた商業施設は、あわせて6つの入り口がありますが、ロイター通信は、カタールの内務省の話として、火が出たのは、商業施設の中央部にあたる「3番目の入り口と4番目の入り口の間に火が出た」と伝えています(N)。①この後、火の勢いが強まり、消防隊員の1人はロイター通信に対して、「犠牲になった子どもたちがいた場所に近づこうとしたが、非常に温度が高く、行く手を阻まれた」と話しています。②また、カタールの内相はAP通信などに対して、「子どもたちは内部に閉じ込められていた。救出しようとして最善を尽くしたが非常に申し訳ない」と話しています。③この施設をめぐっては、一部の報道で、法律で設置が義務づけられた火災報知器やスプリンクラーがなかったという指摘も出ていますが、これについてカタールの内務省は、「すべての建物が法律を順守している」と否定する一方、火災の原因を調査する委員会を設置する方針だとしています。

52 ①長崎県佐世保市で小学6年生の女子児童が同級生に殺害された事件から、きょうで**8年となり(M)**、現場となった小学校では、命の大切さを学ぶ集会が行われました(N)。①8年前の平成16年6月1日、長崎県佐世保市の大久保小学校で、当時6年生のAさんが、同級生の女子児童にカッターナイフで刺されて死亡しました。②事件から**8年となる(m1)**きょう、小学校の正面玄関には献花台が設けられ、訪れた人たちが祈りをささげました。③学校の体育館では、全校児童や教職員、それに保護者などおよそ250人が参加して「いのちを見つめる集会」が行われ(n1)、全員で黙とうを捧げました。④続いて、各学年ごとに決意表明を行い、このうち5年生の児童たちは、「ひとつだけの命を大切にするために相手の気持ちを考え、思いやりの心を持ちます」と大きな声で誓いました。⑤大久保小学校の久家三喜男校長は「8年たったが事件の大きさと重さを常に感じている。事件と向き合うことは重要で、こどもたちに命の大切さを伝えていきたい」と話していました。⑥集会のあと、献花台に供えられた花束やメッセージカードが事件現場となった場所にさげられました。

53 ①退任する鹿野農林水産大臣は、臨時閣議のあとの記者会見で、「機密漏えいの問題が報道されたこと、私の交代とは直接関係はないものと認識している」と述べ(M)、みずから退任と、書類送検された在日中国大使館の元1等書記官が農林水産省の事業に関わっていたと指摘されていることは関係がないという認識を示しました(N)。①その上で、鹿野大臣は、この事業の今後について、「民間の協議会や、受け入れ側となっている中国の国営企業、中国政府が、どのような考え方をしているのか、ひとつひとつ確認をしながら判断していくことが大切だ」と述べ、中国側の対応なども見極めた上で判断すべきだという考えを示しました。

54 ①金星が太陽の前を横切る「金星の太陽面通過」と呼ばれる天体現象は、世界各地でも多くの人々が楽しみました(N)。①このうち、アメリカのハワイでは、現地時間の5日午後、ハワイ島のマウナロア山の標高およそ3400メートルの地点に設置されたアメリカ海洋大気局の観測所で、太陽の前を横切る金星の姿が捉えられました。②特殊なフィルターを使って撮影された映像では、太陽の左側から右側に向かって小さな黒い点のように見える金星が、ゆっくりと移動する様子が確認できました。③また、オーストラリアのシドニーでは、けさ(6日)、天文ファンや、日食グラスをかけた親子連れなど、多くの人たちが集まって空を見上げ、太陽の中の小さな金星を見つけると歓声をあげていました(n1)。④お隣の韓国では、キョンギ道のクァンフン市にある科学博物館の前に、高校生など300人あまりが地元在住民らとともに朝から観測を行いました。⑤きょうのキョンギ道は曇りがちの空模様でしたが、生徒たちが観測を始めると、晴れ間がのぞき、今世紀最後のチャンスとなった天体ショーを楽しみました(n2)。⑥18歳の女子生徒は、「次は105年後なので、今回見ることができて、本当にうれしいです」と話していました(n3)。⑦今回の現象は、アフリカや南米の一部を除く世界のほとんどの地域で見ることができたということです。

55 ①陸上のロンドンオリンピック代表選考会を兼ねた日本選手権は、2日目、男子やり投げのディーン元気選手や女子100メートルの福島千里選手など5人が、新たに、代表に決まりました(N)。①大阪の長居スタジアムで開かれている陸上の日本選手権は、各種目とも代表選考の基準にしている記録を突破し、この大会で優勝した選手が代表に決まります。②2日目のきょうは、12種目で決勝が行われ、新たに5人がオリンピックの代表に決まりました(n1)。③このうち、男子やり投げでは、20歳の新鋭、ディーン選手が、大会新記録の84メートル3で、大会12連覇中の村上幸史選手をわずかに8センチ上回って初優勝し、初めてのオリンピック代表に決まりました(n2)。④女子100メートルでは、短距離のエース、福島千里選手が11秒45で大会3連覇で2大会連続の代表に決まりました(n3)。⑤また、男子100メートルでは、江里口匡史選手が10秒29で大会4連覇し、初めての代表を決めました(n4)。⑥このほか、男子400メートルで金丸祐三選手が男子400メートルハードルで岸本鷹幸選手が、それぞれ代表に決まりました(n5)。⑦大会最終日のおす(10日は、福島千里選手などが出場する女子200メートル決勝などが行われます。

56 ①拉致被害者の家族や拉致された可能性があると思われる、いわゆる「特定失踪者」の家族などが、きょう、神奈川警察本部を訪れ(M)、北朝鮮が新しい体制になったことを受けて、改めて特定失踪者の調査を徹底するよう求めました(N)。①要請したのは(n1)、33年前の昭和54年に横浜市戸塚区で帰宅途中に行方がわからなくなった寺島佐津子さん(当時19)の両親の寺島六郎さん(83)とイツ子さん(79)、それに拉致被害者の横田めぐみさんの父親の横田滋さん(79)などあわせて7人です。②7人はきょう午前、横浜市中区の神奈川警察本部を訪れ、(m1)警備部長と面会し、北朝鮮が新しい体制になったことを受けて、拉致の可能性が否定できないすべてのケースについて、改めて調査を徹底し(n2)、外交交渉での解決に道筋をつけるよう求めました(n3)。③警察への要請は、平成20年以来、3回目です。寺島六郎さんは「自分も年を取り、娘とはもう会えないかもしれないと覚悟はしていますが、1日も早い解決を願っています」と話していました。④また、横田滋さんは、「失踪の状況を明らかにした上で、政府は速やかに拉致認定をし、交渉での救出につなげてほしい」と話していました。

57 ①原発の稼働の是非を問う住民投票を東京で行うための条例案は、市民グループ「みんなで決めよう『原発』国民投票」が都内で32万人あまりの署名を集めて(M)直接、制定を求めているものです(N)。①市民グループは、新潟県の柏崎刈羽原子力発電所など東京電力の原発の稼働の是非について都民の意思を反映させるべきだとし、住民投票の実施を求めています。②これに対して、石原知事は「国が責任を持って判断するべきだ」となるとして条例案に反対する考えを示しています。③条例案は、東京電力の原発の稼働について、16歳以上の都民や都内に住む永住権がある外国人が賛成か反対かを投票するものです。④これに対して都議会の民主党と生活者ネットワーク・みらいが、16歳以上や永住外国人の人たちも投票できるとした部分を、日本国籍を持つ20歳以上の都民とするなど修正した新たな案を共同で提出しています。⑤また、共産党は住民投票条例の中に投票への妨害行為などについて罰則を設けるのは適切でないとして、罰則について書かれた項目を削除した修正案を提出しています。⑥都議会が条例案が可決・成立した場合に条例が施行されてから90日以内に住民投票が行われることになります。⑦投票結果に法的拘束力はありませんが、知事と都議会は投票結果を尊重し、東京電力や国などと協議して都民の意思が正しく反映されるようつとめなければならないとしています。

58 ①メキシコで開かれていたG20サミットは、世界経済の安定にとって最大の問題となっているヨーロッパの信用不安の拡大を食い止めるため、ユーロ圏各国が、「必要とされるあらゆる措置をとると約束する」とした首脳宣言を発表しました(N)。①18日から2日間、メキシコのロスカボで開かれていたG20サミットは、日本時間のけさ、閉幕し、討議の成果をまとめた首脳宣言を発表しました(n1)。②宣言ではまず、世界経済の現状について、ヨーロッパの信用不安が、先進国・新興国双方の経済に影響を及ぼしていることをふまえ、「世界経済の回復は、数々の課題に直面している」と指摘しました。③そのうえで、ヨーロッパの信用不安への対応では、スペインの財政・金融面で懸念が強まっていることを受けて、ユーロ圏各国が、域内の金融機関に対する監督制度や破綻処理制度などの統一に向け検討していくことをG20として支持しました。④これについて、「経営が悪化した銀行に公的資金を投入することで、さらに国の財政が悪化するという悪循環を断ち切る。G20のユーロ圏各国は、域内の一体性を守るのに必要なあらゆる政策措置をとる(n2)」と明記し、ユーロ圏各国に対してこれまで以上に強い調子で、対応を促しています。⑤また、ギリシャについては、「ユーロ圏にとどまり、ユーロ圏各国が新政権と連携することを期待する」として、議会の再選挙を経て誕生するギリシャの新政権がユーロ圏から離脱せず財政再建に取り組みよう、改めて求めました。⑥さらに首脳宣言では、ヨーロッパだけでなく、G20各国が「世界経済の成長を促すため必要な行動をとる」として、協調姿勢を打ち出したうえで、「財政に余裕のある国は、経済が悪化した場合、内需拡大のための財政出動を行うべきだ」と、財政再建に偏るのではなく、経済成長も重視するとしています。

59 ①けさ、高松市にある高松港の岸壁近くの海上で、しゅんせつ作業に向かっていた船が沈没し(M)、作業員の男性1人が行方不明になっています(N)。①けさ6時すぎ、高松市朝日町の高松港の岸壁から100メートルほど離れた海上で作業船が沈没したと、高松海上保安部に通報がありました(m1)。②海上保安部によりますと、沈没した(m2)のは、香川県土庄町の建設会社が所有する作業船「第五十二明友丸」で、乗っていた作業員2人のうち、1人は別の船の乗組員に救助されましたが、高松市のAさん(28)の行方がわからなくなっています(n1)。③当時、現場付近は、風、波ともに穏やかで、作業船は、海底の土砂を掘り出ししゅんせつ作業に向かうため、別の3隻の船とともに、岸壁を離れた直後に沈没した(m3)ということです。④海上保安部では、巡視艇やヘリコプターを出してAさんを捜索するとともに、関係者から話を聞いて事故の原因についても調べています。

①人を殺傷する威力をもつ改造拳銃など7丁を隠し持っていたとして、横浜市の男子高校生が銃刀法違反の疑いで逮捕され (K)、警視庁は、エアガンを細工して作り (L)、インターネットで販売していたとみて (M) 調べています (N)。①逮捕された (k1) のは、横浜市に住む17歳の高校3年生の男子生徒です。②警視庁の調べによりますと、この高校生は、ことし3月、横浜市の自宅の机の引き出しなどに改造拳銃や威力の強いエアガンなどあわせて7丁を隠し持っていたとして、銃刀法違反の疑いが持たれています。③押収された7丁のうち、1丁はエアガンを細工して作った回転式改造拳銃で、警視庁が発射実験をしたところ、金属製の弾が厚さ4ミリのベニヤ板4枚を貫通し、人を殺傷する高い威力が確認されたということです。④高校生は、このほかにも威力を高める改造をつけたエアガン4丁も作っていたということです。⑤警視庁によりますと、調べに対して「スパイ映画を見て興味を持ち、やすすりドリルなどを使って装置した。人を撃つなどしなければかまわないと思っています」と供述しているということです。⑥警視庁は、数年前から改造を繰り返 (I1)、インターネットのオークションサイトで、およそ20人に販売していたとみて (m1) 調べています (n1)。

①民主党の小沢元代表と興石幹事長は、きょう、2回にわたって会談し (M)、このあと、小沢氏は、記者団に対し、消費税率引き上げ法案をこのまま参議院でも採決するという方針を変えないのであれば、離党せざるをえないという考えを伝えたことを明らかにしました (N)。①②一方、興石氏は、野田総理大臣に会談の内容を報告し (Y)、あすにも改めて小沢氏と会う考えを伝えました (Z)。①民主党の小沢元代表と興石幹事長の会談は、国会内の民主党の控室で2回にわたって行われました (m1)。②会談で、興石氏は、衆議院本会議での消費税率引き上げ法案などの採決で小沢氏が反対したことを受けて、党の分裂という事態は避けたいとして、小沢氏に協力を要請しました。③これに対し、小沢氏は、今のまま法案を成立させることは認められないという考えを伝えました。④会談のあと、小沢氏は、記者団に対し、「増税先行は国民への背信行為で納得できない。ぜひ撤回して欲しい」と申し上げた。このまま参議院でも法案を強行的に採決するならば、我々は、国民との約束を、まず実現すべきだという思いを民主党の枠を超えて、直接、国民の皆さんに訴えなければならぬ状況になると申し上げた」と述べ、消費税率引き上げ法案をこのまま参議院でも採決するという方針を変えないのであれば、離党せざるをえないという考えを伝えたことを明らかにしました (n1)。⑤そして、小沢氏は、「この話を受けて興石幹事長が努力しているので、その結果にもよりますが、あすにも会談することになるかもしれない」と述べました。⑥一方、興石氏は、総理大臣官邸で野田総理大臣と対談を協議しました。⑦このあと、興石氏は、記者団に対し、「野田総理大臣には、きょう小沢元代表と2度にわたって会談したことを報告した (y1)。わたしからは、『結論は出ていない。わたしの方から、小沢元代表に、あすもう一度、会えないかという話をした』という報告をした (z1)」。そして、わたしから、『小沢氏との対応は、そう時間をかけてもなかなか結論は出にくい。しかし、わたしに任せてもらえるか』という話をしたら、野田総理大臣は、『是非お任せしたい』ということだった」と述べました。

①原爆投下直後に降った「黒い雨」の範囲を拡大するのは困難だとする報告書を国の検討会が大筋でまとめたことを受けて、黒い雨を体験した人たちがつくる広島市安佐南区の住民グループが、政府・民主党に対し、範囲の拡大を求める要望書を提出しました (N)。①「黒い雨」をめぐる、厚生労働省の検討会が、ことし5月、「国の認定地域の外でも黒い雨が降ったとみられるが、放射線による健康被害は科学的には認められない」などとして、範囲を拡大するのは困難だとする報告書が大筋でまとめています。②これを受けて、黒い雨を体験した広島市安佐南区の住民などをつくる「上安・相田地区黒い雨の会」のメンバーが、きょう(1日)、広島市内で民主党の被爆者問題議員懇談会の事務局長を務める橋本博明衆議院議員に、範囲の拡大を求める野田総理大臣宛ての要望書を手渡しました (n1)。③要望書では、国が設定した黒い雨の範囲は、上安地区や相田地区の住民が体験した実態に即していないなどと指摘した上で、この2つの地区も認定地域とするよう求めています (n2)。④住民グループの吉田良文副会長は「今月、国の検討会が再び開かれるのを前に、われわれの要望を伝えた。住民の高齢化が進んでいる中、国には一刻も早い認定をお願いしたい」と話していました。

①サッカー23歳以下の日本代表で、柏レイソルからドイツ1部リーグのハンノーバーに移籍した酒井宏樹選手が2日、現地で記者会見し (M)、「試合に出られるチャンスをつかみ、しっかり結果を出したい」と意気込みを話しました (N)。①酒井選手は22歳、ディフェンダーながら突破力のあるドリブルや正確なクロスボールが持ち味で、年齢制限の無い日本代表にも選ばれています。②酒井選手は、2日、現地で記者会見し (m1)、「日頃の練習をしっかりとやって試合に出られるチャンスをつかみ、しっかり結果を残したい」とレギュラー獲得への意気込みを話しました (n1)。③背番号は「4」に決まりました。④酒井選手は今後、ロンドンオリンピックの日本代表として活動したあと、ハンノーバーに合流する予定です。

①報告書では、今回の事故の教訓を生かすため、7つの提言を行っています (N)。①この中では、国民の健康と安全を守るため、国会に原子力の問題に関する常設の委員会を設置すべきだとしています (n1)。②そのうえで、政府の危機管理体制を抜本的に見直すため、指揮命令系統の一本化を制度的に確立することや、事故が起きた際の発電所内の対応について、一義的には事業者の責任とし、政治家による場当たり的な指示や介入を防ぐ仕組みを構築することを求めています (n2)。③さらに、被災地の環境を長期的・継続的に監視しながら住民の健康と安全を守り、生活基盤を回復するため、政府の責任で、住民がみずから判断できる材料となる情報開示を進めるなどの対応を早急に取る必要があるとしています (n3)。④また、東京電力は、経済産業省との密接な関係をもとに、原子力の規制当局の意思決定に干渉してきたとして電力会社が、規制当局に不当な圧力をかけることがないよう、厳しく監視すべきだとしています (n4)。⑤一方、規制組織については、国民の健康と安全を最優先とし、常に安全の向上に向けてみずから変革を続けていく組織になるよう抜本的な転換を図るべきだとしています (n5)。⑥このほか、世界の最新の知見をふまえた形で、原子力関係の法律や規制を抜本的に見直すことや (n6) 報告書で扱わなかった原子炉の廃炉の道筋や、使用済み核燃料の問題などを取り扱うため、国会に、専門家からなる第三者機関として、独立調査委員会を設置することを提案しています (n7)。⑦事故調査委員会は、国会に対し、「提言の実現に向けた実施計画を速やかに策定し、進捗状況を国民に公表することを期待する」としています。

①宮城県気仙沼市は、きょう、津波で浸水する可能性が高い沿岸部の12地区の一部を住宅などの建築を制限する「災害危険区域」に指定しました (N)。①気仙沼市は、堤防などを整備しても津波が浸水する可能性が高い沿岸部について、「災害危険区域」に指定し、新たな住宅などの建築を制限する条例を、先月、制定しました。②きょうは、この条例に基づいて、市内の12地区にわたる179の町などの一部が「災害危険区域」に指定されました (n1)。③区域に指定されると、住居を区域外に移転する場合、その費用として、借入金に対する利子補給と最大786万円の支援制度を利用できます。④区域の指定にあたって、気仙沼市は、宮城県が計画する防潮堤が整備されたという前提で、去年と同じ規模の津波が起きた場合の浸水エリアを想定しました。⑤しかし、指定区域からすでに移転してしまった住民が利子補給の適用を受けることが難しいほか、指定区域内で住民がすでに住宅の再建を始めているケースも出ています。⑥これについて、気仙沼市の菅原茂市長は「支援制度から漏れた住民に対しては、独自支援を検討している」と話しています。⑦気仙沼市では、あすから支援制度の申し込みを受け付けることとしています。

①野田総理大臣は、ロシアのメドベージェフ首相の北方領土訪問を受けて総理大臣官邸を訪れた北方領土の元島民らと会談し (M)、元島民の高齢化を踏まえ、北方四島の帰属問題の早期解決に向けて、政府として全力を尽くしたいという考えを示しました (N)。①北方領土の元島民らでつくる「千島歯舞諸島居住者連盟」の小泉敬夫理事長ら4人は、きょう、総理大臣官邸を訪れ、野田総理大臣と会談しました (m1)。②この中で小泉理事長は、ロシアのメドベージェフ首相が今月3日に北方領土の国後島を訪問したことについて、「元島民の心は踏みにじられた。かつて島で暮らしていた人たちの高齢化が進んでおり、1人でも多くの元島民が生きているうちに、返還が実現することを期待している」と述べ、早期の北方領土の一括返還に向け全力を尽くすよう求めました。③これに対し、野田総理大臣は、「元島民のみなさんが、高齢になってきていることは承知している。1日も早く北方四島の帰属の問題を解決し、ロシアと平和条約が締結できるよう、しっかりと取り組みを進めていきたい」と述べました (n1)。

①大津市で中学2年生の男子生徒が自殺した問題について、大津市の越直美市長は、自殺といじめの関連性などを調べる外部の有識者による調査委員会を設置するため、文部科学省から職員を派遣してもらい (M)、助言を受けることを明らかにしました (N)。①男子生徒の自殺を受けて行われたアンケートを通じて、大津市の市長は「教育委員会の調査は不十分で信用できない」として、外部の有識者による調査委員会を立ち上げ、いじめと自殺の関連性などを調べる考えを明らかにしています。②この調査委員会について、越市長はNHKの取材に対し、真相を解明する上で重要な委員の人選や調査の進め方などについて、文部科学省の職員の助言を受けられるよう要請したことを明らかにしました (n1)。③要請を受けて、文部科学省は、職員を派遣を了承したということです (m1)。④越市長は、「文部科学省の支援を受けて早急に調査委員会を設置し、真実の解明を望む遺族の意向にこたえるような徹底した調査をしたい」と話しています。

68 ①平野復興大臣は、閣議のあとの記者会見で、東日本大震災を受けた、いわゆる「二重ローン」対策について、政府が設立した機構が、個人商店などの債権を金融機関から買い取るための審査期間を半分に短縮できるよう後押しする考えを示しました(N)。①政府は、震災を受けた個人商店などの「二重ローン」対策として「東日本大震災事業者再生支援機構」を設立し、金融機関から債権を買い取る支援を行っていますが、野田総理大臣は、先週14日に岩手県を視察した際、機構の審査期間について、現在のおよそ半年から半分の3か月に短縮するよう関係省庁に指示する考えを示しました。②これを受けて、平野復興大臣は、記者会見で、審査期間を短縮するために、政府として金融機関に対し、機構が債権の買い取りを申し出た場合には迅速に金額を提示するよう要請することや、機構の人員の増加を後押しする考えを示しました(n1)。③平野復興大臣は、「市街地の復旧・復興が本格的に動き出し、事業を再開する業者が増える、二重ローンの問題がさらに表面化すると思われるので、その前に準備を進めたい」と述べました。

69 ①集合住宅などでの夜間の熱中症の危険性が指摘されていますが、節電や冷房への苦手意識から、夜間に冷房を使わない人も少なくありません(N)。①慶應義塾大学の伊香賀教授が調査を行った千葉県松戸市の集合住宅です。②10棟の建物におよそ900世帯が暮らしています。③このうち、11階建ての7階に住む87歳の男性は、このころ夜になっても部屋の中は暑く、夜中に目を覚ますなど眠れない日が続いています。④寝室にエアコンがないため、扇風機をつけたまま寝ていますが、薄着なので、熱中症の心配はないと考えています。⑤別の棟の3階に住む1人暮らしの70歳の女性は、寝室にエアコンも扇風機もありますが、一切、使わないということです。⑥扇風機には袋がかけられたままです。⑦女性は「氷枕を置いて、うちわであおいで寝ています。暑くて熱中症になるかと思ったこともありますが、電気代が値上げされるといわれているし、冷房が嫌いなので自分は大丈夫だろうと考えて、冷房などは全く使いません」と話しています。

70 ①オリンピックの開幕を目前に控えるロンドンでは、選手や大会関係者が乗った車が、渋滞に巻き込まれず、スムーズに移動できるようにするための専用レーンの運用が始まりました(N)。①通称「オリンピックレーン」と呼ばれる専用レーンは、競技会場が集中するロンドン東部や市の中心部などに長さ48キロにわたって設けられているもので、現地時間の25日午前6時から運用が始まりました(n1)。②専用レーンには、道路脇や路面上に、専用レーンであることを示すオリンピックのマークが記され、事前に許可を得て、専用のステッカーを貼り付けた車だけが通行することができます。③一般の車の走行は、午前6時から深夜0時までの間、禁止され、違反すると130ポンド・日本円でおよそ1万6000円の罰金が科せられます。④この措置については、市内のタクシー運転手たちが、業務に支障が出るとして、見直しを求めるデモを行っているほか、慢性的な渋滞がさらに悪化するとして、一般市民からも不満の声があがっています。⑤運用開始を受けてタクシー運転手の1人は「45年間、この仕事を続けてきましたが一番最悪の事態です。仕事に差し障りが出た本当に困ります」と話していました。⑥専用レーンは閉会式の翌々日の来月14日まで実施される予定です。

71 ①去年の台風の豪雨で奈良県天川村では、土砂崩れによって中心部を流れる川に大量の土砂が流れ込んで川底が高くなったため、少ない雨で川の水があふれる被害が出たことがわかりました(N)。①2村では、雨の際にこれまでより早い段階で住民に避難を呼びかけることにしています(Z)。①去年9月の台風の豪雨で、奈良県天川村では、大規模な土砂崩れが起き、中心部を流れる「天ノ川」に大量の土砂が流れ込みました。②川沿いの坪内地区では、先月の台風で川の水があふれ、キャンプ場の小屋が床上まで水につかりましたが、村が調べたところ、このときの川の水の量は、1時間あたり300トンから400トンと、以前、川があふれたときのおよそ半分だったことがわかりました(n1)。③村では去年の台風で流れ込んだ大量の土砂によって川底が高くなり、少ない雨で川の水があふれたと判断して、雨の際に、これまでより早い段階で住民に避難を呼びかけることにしています(z1)。④天川村総務課の中尾裕耶さんは「1年近くがたったいまも、流れ込んだ土砂が大きな影響を及ぼしている。避難情報を的確に出せるように検討したい」と話しています。

72 ①再び、再審を認める決定が出たことについて、弁護団の神山啓史弁護士らが見し、「適正、公正な判断で、無罪であることを一層明らかにするものだ。検察の主張がいかに実態のないものかを明確に示している」と述べました(N)。①そのうえで「検察が特別抗告しないことを願っている。一刻も早く再審を開始して無罪を確定させ、マイナリさんを安心させたいという思いでいっぱい」と話しました。

73 ①首都圏を中心に裁判員を経験した人たちが、交流を深めようと団体を作り(M)、今後、自分たちの経験を地域で伝える活動にも取り組むことになりました(N)。①発定した(m1)のは「裁判員」を意味する英語から名付けられた「Lay Judge Community Club(レイジャーズコミュニティークラブ)」という団体で、東京や千葉など首都圏の裁判員経験者を中心に10人ほどが参加しています。②メンバーはこれまで裁判員制度の改革案を提言するなどの活動を行ってきましたが、各地の裁判員経験者から交流を希望する意見があったため、窓口となる団体を作りました(m2)。③今後は、全国の裁判員経験者に参加を呼びかけ、各地で交流会を開くだけでなく、裁判員を務めた自分たちの経験を地域で伝える活動にも取り組むことにしています(n1)。④裁判員制度はスタートから3年が経過し、これまでにおよそ3万人が裁判員や補充裁判員となりましたが、経験者だけで活動する団体は全国で初めてだということです。⑤会見したメンバーの田口真義さん(36)は「団体が窓口となることで各地から1人でも多くの裁判員経験者が声を上げて交流を広げていきたい」と話しています。

74 ①国の出先機関改革をめぐり、全国のおよそ500人の市町村長で作る組織がきょう、会合を開き(M)、政府が検討している国の出先機関の改革案では地域主権が進んだことにはならないなどとして、反対する決議を採択しました(N)。①政府は、国土交通省の地方整備局・経済産業省の経済産業局・環境省の地方環境事務所の3つの国の出先機関の業務を複数の都道府県で作る「特定広域連合」などに移管するとした出先機関改革の法案を、今の国会に提出することを目指しています。②これに対し、改革に批判的な立場を示している全国のおよそ500人の市町村長で作る「地方を守る会」はきょう、東京都内のホテルで臨時の総会を開き(m1)、改革に反対する決議を採択しました(n1)。③決議では、「地域主権の担い手は住民に接する市町村であり、都道府県の集合体に国の出先機関の業務を移管しても地域主権が進んだことにはならない」として、政府の姿勢を批判しています(n2)。④その上で、国土交通省の地方整備局が災害時の対応にあたっている現状を踏まえ、「東南海・南海地震が懸念される中、慎重な議論が必要だ」として、国の出先機関改革は、十分な議論と効果を検証したうえで行うべきだと主張しています。⑤「地方を守る会」は、採択した決議を政府や民主党に申し入れることにしています。

75 ①NASA=アメリカ航空宇宙局の火星探査機「キュリオシティ」が火星に無事に着陸したことについて、NASAのホールデン長官は、「我々は今夜、偉業を達成した。科学者たちが英知を結集させた結果だ」と述べました(N)。①その上で、「今回の着陸は、アメリカが火星に人を送りこむという目標への大きな一歩となった」と述べ、着陸成功の意義を強調しました。

76 ①ことし10月に東京で開催されるIMF=国際通貨基金と世界銀行の年次総会に各国から多くの閣僚などが来日するに合わせ、政府は、東日本大震災の経験を通じて防災について幅広く議論する大規模な国際会議を、仙台市で開くことになりました(N)。①IMFと世界銀行の年次総会は、ことし10月、48年ぶりに日本で開催される予定で、188の加盟国の財務相や中央銀行総裁らが東京に集まり、世界経済の現状や見通しなどについて話し合います。②政府は、これに合わせ、震災から復興する日本の姿を世界の国々に広く知ってもらおうと、防災に関する国際会議をIMFなどの総会前の10月9日と10日の2日間、仙台市で開くことにした(n1)。③会議では、地震や津波などに備える防災への投資が、費用がかかるとして、特に発展途上国で軽視されがちな現状を踏まえ、防災と経済成長の両立をテーマにした討論会を開くことなどが検討されています。④また、総会に合わせて来日する各国の閣僚らによる会議や、被災地の視察も予定され、政府は、一連の会議を通じて震災の経験を各国に伝え、世界的な防災議論を高めることにも貢献したい考えです。

77 ①夏の全国高校野球、9日目の第1試合は、埼玉の浦和学院が、福島の大聖学院に11対4で勝ち(M)、3回戦に進みました(N)。①試合は序盤から動き、大聖学院が1回、スリランホームランで先制したのに対し、浦和学院は2回、4本のヒットを集め4対3と逆転しました。②このあと、浦和学院は5番・笹川晃平選手のホームランなどで得点を重ねていきました。③試合は浦和学院が大聖学院に11対4で勝ち(m1)、3回戦に進みました(n1)。④浦和学院が夏の大会で3回戦に進むのは、初出場で準決勝に進出した昭和61年以来、26年ぶりです。⑤大聖学院は、1回に先制しましたが、逆転されたあとの反撃は7回のホームランによる1点にとどまり、3回戦進出はなりませんでした。

78 ①自民党や国民の生活が第一・きつなど、衆議院の野党6会派は、韓国のイ・ミョンバク大統領による島根県の竹島への上陸などを受けて、政府の外交姿勢をただす必要があるなどとして、衆議院予算委員会の中井委員長に集中審議を行うよう申し入れました(N)。①申し入れた(n1)のは、自民党国民の生活が第一・きつなど公明党共産党社民党みんなどの党の衆議院の野党6会派です。②衆議院予算委員会で野党側の筆頭理事を務める自民党の石破・前政務調査会長は、6会派を代表して、きょう夕方、中井予算委員長と会談し、韓国のイ・ミョンバク大統領による島根県の竹島への上陸や香港の活動家による沖縄県の尖閣諸島への上陸などを受けて、政府の外交姿勢をただす必要があるなどとして、早急に予算委員会を開いて集中審議を行うよう求めました(n2)。③これに対し、中井委員長は、「集中審議の必要性は認識している。大至急、与党側の理事とも相談し、あすにも与野党間で協議ができる環境を整えたい」と述べました。④一方、参議院でも、自民党や公明党、国民の生活が第一など野党8会派が、柳田予算委員長に委員会の開催を申し入れたのに対し、柳田委員長は、「日程などについては与野党の筆頭理事の間で協議してほしい」と述べました。

79 ①長年、山本さんとともに世界各地の紛争地を取材してきた佐藤和孝さんは、山本さんの遺体に付き添ってイスタンブールに向かう途中のガジアンテプの空港で、NHKの取材に応じました(N)。①このなかで、佐藤さんは「これでやっと日本に帰ってあげられるので、今はほっとした気持ちです」と述べました(n1)。②その上で、「今まで一緒に取材に出て一緒に帰ってきたので、ものすごく悔しいし、彼女はもっと悔しい。今は彼女に『帰るまでが帰る。もう少しだから』と声をかけたいです」と話しました(n2)。③山本さんとの取材活動を振り返って佐藤さんは「15年くらい前はよちよち歩いてるが、俺のあとをついてくる、そんな感じでしたけど、そのうちに僕が頼りにする相棒になりました」と述べたうえで、「彼女には『うちに帰るまで仕事でだぞ。まだ仕事は終わってないぞ』と言いたいです」と話していました(n3)。

80 ①東京電力福島第一原子力発電所で、最も多くの核燃料が保管されている4号機の燃料プールから先月(7月)、試験的に取り出した使用前の燃料について、損傷がないかを確認する調査がきょうから始まりました(N)。①福島第一原発では、原発を解体する廃炉の作業に向けて、最も多くの核燃料が保管されている4号機の燃料プールで、燃料を取り出す作業が来年12月から予定されていて、使用前の燃料2体が先月(7月)中旬、試験的に取り出されました。②東京電力は、燃料2体について、きょう(27日)から外観を確認する調査を始め(n1)、初日のきょうは、燃料を保管している共用プールと呼ばれる施設からクレーンで燃料を吊り上げ、金属製の筒を取り外してから燃料を洗う作業を行い、横から見た結果、目立った損傷や変形はなかったということです。③東京電力は、あさってまでに燃料の上部についている取っ手の部分や、燃料自体を目で見て確認するとともに、2体目の燃料についても確認することです。④4号機のプールには、燃料1533体が保管されていますが、水素爆発で激しく壊れた原子炉建屋のある燃料プールが、今後の余震で壊れるおそれも指摘されていて、燃料の取り出しを安全かつ着実に進めることが課題となっています。

81 ①オリンピックとパラリンピックの招致を目指す東京都の代表が、きょう(28日)、パラリンピックの開幕を直前に控えたロンドンの街を視察しました(N)。①ロンドンを訪れた(n1)のは、東京都の秋山俊行副知事や、都体育協会の角田真司競技力向上部長など東京都の代表です。②2020年の夏のオリンピックやパラリンピックの招致に向けて参考にしようと、マラソンの競技会場があるロンドン中心部を見て回りました(n2)。③このうち、トラファルガー広場では、多くの人に競技を観戦してもらうために設置された巨大なモニターなどを視察しました(n3)。④東京都は、トルコのイスタンブールやスペインのマドリッドと招致を競って、選手村を中心に半径8キロ以内の競技会場を配置する計画を掲げ、コンパウンド交通の利便性の高いことをアピールしています。⑤秋山副知事は、「東京にオリンピックとパラリンピックを招致できれば、きっと日本は元気になる。ロンドンでの視察を参考に、より一層、検討を重ねて招致に向けてがんばっていきたい」と話していました。

82 ①スマートフォンなどの特許をめぐるアメリカのアップルが韓国のサムスン電子を訴えていた裁判で、東京地裁裁判所は、サムスンによる特許権の侵害を認めず(M)、アップルの訴えを退ける判決を言い渡しました(N)。①スマートフォンとタブレット端末の特許をめぐる、アップルとサムスンは世界10か国で裁判を起こしていて、日本では、パソコンと接続し音楽データなどを一致させて共有する「同期」と呼ばれる技術で、アップルがサムスンの日本法人を訴えていました。②判決で、東京地裁裁判所の東海林保裁判長は、「『同期』を行う際に必要なデータを比較する仕組みは、両社で異なっていて、同じ技術とは言えない」と判断し、サムスンによる特許権の侵害を認めず(m1)、アップルの訴えを退けました(n1)。③また、アップルが申し立てていたサムスンの「キャラクソン」シリーズ8機種に対する販売差し止めの仮処分も認めない決定をしました。④各地の裁判のうち、アメリカの裁判所では、今月24日、サムスンによる特許権の侵害が認められ、アップルが全面勝訴しましたが、今回の「同期」の技術は、日本の裁判所だけで争われ、アメリカなどでは争点になっていませんでした。⑤東京地裁ではほかにも4件の裁判が起きていて、今後、画面の操作性に関する技術など、ほかの特許権についても判断が示されることになっています。

83 ①昭和58年の大韓航空機撃墜事件から29年となるきょう、事件で長男夫婦を亡くした宮崎県国富町の女性が、遺影の前に手を合わせ(M)、事件の風化を防ぐ思いを新たにしました(N)。①昭和58年9月1日、大韓航空の旅客機がサハリン沖で旧ソビエトの戦闘機に撃墜され、日本人28人を含む269人全員が死亡しました。②国富町の陶芸家、岡井仁子さん(76)は、この事件で当時22歳だった長男の真直さんを亡くしました。③岡井さんは、けさ、国富町の自宅で、真直さんが作曲し、ギターを演奏している音楽をかけ、写真に向かって静かに手を合わせました(m1)。④真直さんは、ボストンの音楽大学を卒業し、現地で結婚した妻の葉子さんと3年ぶりに日本に帰国するところで事件に巻き込まれました。⑤岡井さんはこれまで、陶芸を通じて息子の真直さんたちの死を悼む活動を行ってきました。⑥ことしも、先月(8月)、ロシアのサハリン州を訪れ、墜落現場に近い海岸で、日本人やロシア人の作品150点あまりの陶器を焼き上げ、犠牲者への「野焼き」を行いました。⑦岡井さんは、「毎年、9月1日は新たな気持ちで息子たちに語りかけて1日を過ごします。陶芸を通じて多くの人と交流し事件のことを伝えていきたい。それが平和につながれば、犠牲者たちも喜ぶと思います」と話し、事件の風化を防ぐ思いを新たにしました(n1)。

84 ①小宮山厚生労働大臣は、閣議のあとの記者会見で、今年度予算の財源を確保するための赤字国債発行法案の成立の見通しが立たないことから、予算の執行を抑制するため、年金や雇用保険の国庫負担分について、一般会計から特別会計への繰り入れを延期することなどを検討する考えを示しました(N)。①この中で、小宮山厚生労働大臣は、「厚生労働省も、予算の執行を抑制する対応策を検討しているが、国民生活に直接関わるところについては影響が出ないようにしたい。医療や介護、生活保護などの地方自治体への負担金などは対象から除外したい」と述べました。②その上で、小宮山大臣は、具体的な対策として、▷年金や雇用保険の国庫負担分については一般会計から特別会計への繰り入れを▷中小企業の社員などが加入する「協会けんぽ」への国庫負担分については、交付時期の延期を検討することを明らかにしました(n1)。③厚生労働省はこうした対策を取るかわりに、▷年金や雇用保険については、積立金の運用剰余金を▷「協会けんぽ」については保険料収入の準備金を活用して対応することとしています。

85 ①インターネットの普及を目指している国際的な民間団体が、各国のネットの利用環境や影響力などを調査した結果、対象となった61か国のうち上位10か国を欧米などの先進国が占め(M)、日本は、ネットの政治への影響力が弱いとして20位にとどまりました(N)。①この調査は、スイスに本部があるインターネットの普及を目指す国際団体「ワールド・ワイド・ウェブ基金」が初めて、行いました。②世界の61か国を対象に、▷通信インフラの充実度や▷政府による規制の状況、さらに、▷政治や経済への影響力など7項目を調査した結果、1位はスウェーデンで、2位はアメリカ、3位はイギリスと続き、上位10位までを欧米やオーストラリアなど先進国が占めました(m1)。③一方、日本は20位で(n1)、アジアでは、11位のシンガポールと13位の韓国を下回りました。④日本が20位にとどまった理由について、「ワールド・ワイド・ウェブ基金」は、日本ではネットの経済分野での活用が進んでいる一方、政治への影響力が弱いとしています。⑤一方、最下位は中東のイメン、60位はアフリカのジブチで、ネットの利用者が世界最大となっている中国は、当局によって、ウェブサイトへのアクセスが厳しく規制されているとして29位でした。

86 ①北海道の釧路沖でミンククジラの生態や漁業に与える影響を調べる調査捕鯨がきょうから始まり(M)、早くも1頭目のクジラが捕獲されました(N)。①この調査は捕鯨業者で作る社団法人「地域捕鯨推進協会」が毎年、この時期に釧路沖で行っています。②初日(m)のきょうは、釧路港を出発した4隻のうち1隻が釧路港の南西3キロあまり沖合でミンククジラ1頭を捕獲し(n1)、午後2時すぎに釧路港に戻りました。③調査団が調べた結果、このミンククジラは高齢のオスで、▷体長7.4メートル▷体重6.2トンで▷胃の中にはマイワシなどが54キロ入っていたということです。④調査のとおりまとめ役を務める東京海洋大学の加藤秀弘教授は「初日から最大級の大サイズのクジラが捕獲できた(n2)。クジラの餌の内容から釧路沖の漁場の豊富さが示され、今後の調査が楽しみです」と話していました。⑤釧路沖での調査捕鯨はミンククジラ60頭を上限に11月4日まで行われます。

87 ①震災から1年半のきょう、宮城県石巻市の漁港では、サバやスルメイカなどが取り引きされ、徐々に活気を取り戻しつつありますが、水揚げ量は震災前の4割程度にとどまっています(M)、市場の関係者からは、いち早い復旧を求める声が上がっていました(N)。①石巻市の石巻漁港では、昨夜、水揚げされたサバやスルメイカなどが市場に並べられました。②午前6時半からは、セリや入札が始まり、威勢の良い声が響いていました。③石巻漁港は、全国有数の水揚げ量を誇っていましたが、津波でほとんどの施設が大きな被害を受けて使えなくなりました。④去年7月に水揚げが再開し、施設は徐々に復旧しています。⑤ただ、地震で地盤が沈下したことなどから復旧工事には時間がかかっている、漁港の機能が本格的に復旧するのは3年後になる見通しです。⑥水産加工場の復旧もまだ進んでいないことから、震災から1年半たったきょうも取引量は震災前の4割程度にとどまっているということです(m1)。⑦買い入れの1人は「震災に加え、風評被害で値段が下がった。何とか元どおりにしてほしい」と話していました(n1)。⑧また、石巻魚市場の須能邦雄社長は「一刻も早い港の復旧のためにがんばりたい」と話していました(n2)。

88 ①自民党の石破・前政務調査会長は、みずからを支持する茨城県選出の衆議院議員の求めで茨城県議会を訪れ(M)、党所属の県議会議員40余人りに総裁選挙の支援を要請しました(N)。①この中で、石破氏は、「自民党が野に下ってもバラバラにならず、ここまで来ることができたのは、地方組織があるからであり、自民党、国会議員だけのものではない。わたしが総裁になれば、自民党本部の1つのフロアに皆さんが自由に使える場所を作りたい」と述べ、総裁選挙の支援を要請しました(n1)。②これに対し、自民党県議団の海野透議員は、「茨城県議会の自民党県議団が丸となって支援することをお約束する。日本再生のための将来ビジョンを国民に示し、総裁選挙を勝ち抜いてほしい」と述べ、石破氏は地方を重視するリーダーだとして、県議団としての推薦状を手渡しました。③このあと、石破氏は、記者団に対し、林芳正政務調査会長代理が総裁選挙への立候補を正式に表明したことについて、「見識も高く、人柄もおうようで、飲み込みも早く、国家に対する思いも強い、大事な友人だ。立候補を表明した5人で、政策のアクセントのつけ方や党運営の方針について、かったつに議論できるのはいいことだ」と述べました。

89 ①民主党の代表選挙で、候補者の鹿野・前農林水産大臣は、東京都内で、高齢者や障害者の複合福祉施設を視察し(L)、入居する人々を激励したほか(M)、職員から要望を聞ききました(N)。①この中で、施設で働く人々から、介護職の人材不足が深刻で、1人1人の職員の負担が重くなっているからという意見が出されました(n1)。②このあと、鹿野氏は、記者団に対し、「介護の現場を直接見て、いろいろと話を聞くと、介護の充実の重要性を改めて認識した」と述べました。③そのうえで、鹿野氏は、「民主党は、介護職員の処遇改善をマニフェストにも掲げて取り組んできたが、きちんと対処していかなければならないと思っている」と述べ、介護施設などの職員の処遇改善に取り組みたいという考えを示しました。

90 ①インターネット検索大手「ヤフー」が導入を検討してきたメールの内容を解析して広告を表示する新たな機能について、川端総務大臣は、通信の秘密の侵害にならないよう利用者の同意を得る仕組みをヤフーが設けたことを受け、容認する考えを示しました(N)。①この新たな機能は「ヤフー」がメールの内容を機械的に解析することで、利用者が興味を持ちそうな広告をメールサービスの画面上に表示するもので、たとえばメールの文面に「旅行」に関する言葉があれば、旅行会社などの広告が表示されます。②ヤフーは当初、この機能を先月(8月)から導入する方針でしたが、総務省が、「通信の秘密の侵害にあたるおそれがある」と指摘し、延期されていました。③これについて川端総務大臣は閣議のあとの会見で、「専門家に検討してもらい、総合的に考慮した結果、許容範囲にあると考えられるという結論に至った」と述べ、導入を容認したことを明らかにしました(n1)。④具体的にはヤフーは、メール本文の解析について、利用者にわかりやすい形で知らせ、同意を得ることや望まない場合、いつでも解析を中止できるように対応することになったということです。⑤これを受けて、ヤフーは、きょう中に新たな広告表示を導入することにしています。⑥一方、同じような広告表示は、海外に拠点を置くグーグルのメールでも行われていますが、川端大臣は、「海外の事業者でも日本の利用者に提供する場合は同様の対応を自主的に取ることが望まれる」という考えを示しました。

91 ①サラリーマンの男性の1回の昼食代は、こし、510円と、およそ30年前の水準まで下がり(M)、昼食の時間は平均で19分余りと、3分の2程度まで短くなったという調査結果がまとまりました(N)。①新生銀行は、昭和54年以降、数百人から1000人余りを対象に行ってきたサラリーマンの男性の小遣いに関する調査について、金額や昼食の状況、それに節約する項目などの変遷を取りまとめた(n1)。②それによりますと、1回の昼食代は、20年前(平成4年)の746円をピークに徐々に下がって(m1)平成17年以降は500円台となりおとし(平成22年)は507円で過去最低とこしは510円と、調査を始めた33年前(昭和54年)の565円とほぼ同じ水準になっています(m2)。③また、昼食にかける時間は、調査を行った29年前の昭和58年は33分、19年前の平成5年は27.6分と30分前後でしたがこしは19.6分と、およそ30年前の3分の2程度まで短くなりました(n2)。④この中には、「食べない」、「5分以下」と答えた人もあわせて4.4%いました。⑤およそ20年前の昼食は、「外食」が中心でしたが、こしの調査では少なくなり、「弁当」が増えているということです。⑥外食をする店を選ぶ場合も、「味のよさやきれいかどうか」より「安く近く」を好む傾向が強くなり、新生銀行では、「30年前より忙しくなり、サラリーマンは昼食の時間を惜しんで働いているのではないか」と話しています。

92 ①アメリカで制作された映像がイスラム教を侮蔑しているとしてイスラム諸国で反発が広がるなか、26日、国連安全保障理事会は、中東情勢について議論する外相級級の会合を開き(M)、異なる文化の間の理解を深めるため、各国が連携していくことを確認しました(N)。①26日、ニューヨークの国連本部で開かれた(m1)安保理の外相級会合には、理事国の外相やアラブ連盟の代表などが出席しました。②このなかで、アメリカで制作された映像がイスラム教の預言者を侮蔑しているとしてイスラム諸国で反発が広がった問題について、アラブ連盟のアラブ事務局長は、「宗教を冒す行為は世界の平和と安全を脅かす」と非難しました。③一方で、アメリカの在外公館に対する襲撃事件については、「正当化されない」といった意見が相次ぎました。④また、アメリカのクリントン國務長官は、「反米デモに過激派がつけ込んでいる」と述べ、いわゆる「アラブの春」による民主化の動きはまだ脆弱だと指摘し、国際社会の支援が必要だと強調しました。⑤このあと採択された議長声明では、「宗教や文化の多様さを尊重する重要性を強調するとともに、国連とアラブ連盟がともに相互理解を促進していく」として中東の安定化のために各国が連携を強化していくことを確認しました(n1)。

93 ①爆発した兵庫県姫路市の工場の近くにある木材加工会社の役員によりますと、爆発音は、午後2時半から3時ごろにかけて、少なくとも2回、聞こえたということです(N)。①この役員は、「午後2時半すぎに爆発音とともに(n1)社屋が揺れ、外を見たところ、大きな炎が数十メートルも上がっていて、空が赤くなってた。続いて午後3時ごろには、乾いたバーンという音がして、黒煙の中に小さな炎が見えた」と話していました(n2)。

94 ①心と体の性不一致な「性同一性障害」と診断された人に対して、厚生労働省が国民健康保険証に戸籍上の性別を記載する場所を通常の表の面ではなく、裏面にすることを認めたのを受けて、戸籍上、男性となっている島根県松江市の54歳のAさん(54)は、性同一性障害と診断され、「医療機関で保険証を提示するのが苦痛だ」として、国民健康保険証に記載されている性別を女性に変更するよう求めていました。②これについて、厚生労働省は、性別特有の病気があることなどから、要望は認めないものの、一定の配慮が必要として、国民健康保険証に戸籍上の性別を記載する場所を通常の表の面ではなく、裏面にすることを認め、全国の自治体に通知しました。③これを受け、Aさんはきょう、松江市役所の担当者から新しい保険証を受け取りました(n1)。④この保険証の表の性別欄には「裏面参照」、裏面には「戸籍上の性別は男。ただし、性同一性障がいのため」とそれぞれ記載されています。⑤Aさんは「99%満足していますが、希望する性別が記載されていない以上、これをゴールとは言えない。これをきっかけに、人権教育という面で性同一性障害の啓発を進めていきたい」と話していました。

95 ①アメリカ軍の新型輸送機、オスプレイは、きのうに続き、きょう新たに3機が、沖縄の普天間基地に配備されました(N)。①山口県の岩国基地を飛び立ったオスプレイ3機は、きょう午後0時7分、最初の1機が沖縄の普天間基地に着陸し(n1)、その1分後に2機目が、4分後に3機目が相次いで着陸しました(n2)。②最初に到着した機体の尾翼には、「隊長機」を示すとみられる赤い塗装がされています。③基地に近づくとプロペラを上向きにしてヘリコプターのように着陸していました。④一方、きのう普天間基地に初めて配備されたオスプレイ6機は、きょう1日、駐機したままで、プロペラをたたんで傾きを変えなど、今後の訓練に向けた点検とみられる作業が行われました。⑤岩国基地に残る機体のうち、2機は整備の都合などですぐには飛行できないとみられますが、アメリカ軍は沖縄に配備された機体のうち準備が整ったものから順次、訓練を始める計画で、今月中にも本格的な運用を始めたいとしています。⑥オスプレイの運用について、日米両政府は基地の周辺では可能な限り人口密集地の上空を避けて飛行することなどで合意していますが、沖縄では仲井真知事が「県民の不安は払拭されておらず、街中にある基地でオスプレイを使うのは無理がある」と述べるなど反発がますます強まっています。

①田中法務大臣は、閣議のあとの記者会見で、自らが代表を務める民主党の支部が、政治資金規正法で禁止されている外国人が経営する企業から献金を受けていた問題で、きのう明らかにした42万円以外にも献金を受けていないかどうかを調査しているとして、すみやかに**公表する考えを示しました(N)**。
①この中で、田中法務大臣は、自らが代表を務める民主党の支部が、政治資金規正法で禁止されている外国人が経営する企業から献金を受けたことについて、「閣僚や国民の皆さんに迷惑をかけており、きょうの閣議のあとの関係懇談会で、「迷惑をかけている。詳細を調査した上で報告する」と説明した」と述べました。②その上で、田中大臣は、台湾出身の男性が経営する会社から受けた献金が、きのう明らかにした42万円以外にも一部で報道されたことについて、「そのことも含めて詳細に調査し、できるだけ早く**報告したい(n1)**。事実関係を調査中なので、自らの進退を述べることは差し控えたい」と述べました(n2)。

①山中伸弥さんは**50歳、大阪市出身で(M)**、昭和62年に神戸大学医学部を卒業したあと、整形外科医として大阪の病院に勤務しました(N)。
①その後、平成元年に大阪市立大学大学院の薬理学教室に進学、研究生生活をスタートさせました。②平成5年にアメリカ・サンフランシスコにある「グラッドストーン研究所」に留学し、当時、急速に発展しつつあった遺伝子の組み換えや解析の技術を利用して遺伝子の役割を調べる研究を始めます。③そして、平成11年、37歳の時に、奈良先端科学技術大学院大学の助教授となり、「細胞の初期化」をテーマに研究を進めます。④京都大学再生医学研究所に教授として迎えられて2年後、平成18年にマウスの皮膚の細胞から体のあらゆる部分になる万能細胞を作り出し、「iPS細胞」と名付けました。⑤いったん組織や臓器になった細胞は受精卵のような状態には戻らないとされた生命科学の常識を覆す成果で、ヒトでもiPS細胞を実現できるか世界的に激しい競争となりました。⑥そして翌年、ヒトのiPS細胞を作ることに初めて成功しました。⑦こうした業績で、3年前(2009年)にアメリカでもっとも権威のある医学賞とされる「ラスカー賞」を受賞しました。⑧現在、山中さんが開発したiPS細胞を医療に応用しようという研究が世界じゅうで進められています。

①夏の全国高校野球の岩手大会で球速160キロを記録し、大リーグ挑戦か、日本のプロ野球入りか、注目が集まっている花巻東高校の大谷翔平投手は、きょうまでに要望のあった大リーグのすべての球団との面談を**終えました(N)**。①大谷翔平投手は今夜、大リーグ・レッドソックスの幹部と花巻東高校で面談しました。②これで、ドジャースとレンジャースとあわせてこれまでに要望があった大リーグの3つの球団との面談すべてを**終えました(n1)**。③今夜の面談のあと、大谷投手はプロ野球志望届を提出後、初めて取材に応じ大リーグの各球団との面談を振り返って「アメリカでの生活や言葉の面で不安があったが親切に受け答えして頂いて、不安は解消されました。マイナーリーグからじっくり選手を育てていく大リーグのシステムに自分も監督も賛成している」と述べ、大リーグ挑戦について明言はしなかったものの、改めて意欲を見せました。④その上で、大谷投手は、「自分の気持ちだけで決めていいことはないが、なるべく早く決断したい」と述べ、今月25日のドラフト会議まで記者会見を開き、大リーグ挑戦か日本のプロ野球入りかについて表明する考えを示しました。

①日本維新の会を率いる大阪市の橋下市長と、東京都の石原知事が、きょう、東京都内で**会談し(M)**、次の衆議院選挙に向けた連携などをめぐって、意見を**交わしたものとみられます(N)**。①日本維新の会が、先月、正式に発足したことを受けて、橋下市長は、あさって、幹事長を務める大阪府の松井知事とともに、民主党や自民党をはじめ、与野党の各党にあいさつを行うことになっています。②これに先だって、上京した橋下市長は、きょう午後、都内のホテルで、東京都の石原知事と**会談しました(m1)**。③会談の詳細な内容は明らかになっていませんが、橋下市長は、新党の発足を報告したうえで、日本維新の会と石原知事との次の衆議院選挙に向けた連携などをめぐって、意見を**交わしたものとみられます(n1)**。④また、会談で、橋下市長は、衆議院選挙に向けて、きょうから、第1次公募の書類審査を通過したおよそ450人の面接による絞り込みをスタートさせたことを説明したものとみられます。⑤会談を終えた石原知事は、記者団に対し、「いろいろな話をした」と述べました。⑥橋下市長が、民主党や自民党に対抗する第3極の勢力の結集を目指す一方、石原知事は、保守勢力を結集する新党の結成に改めて意欲をのぞかせているだけに、2人の接触は政界の関心をひくことになりそうです。

①フランスの公共放送は、日本とフランスの代表が対戦したサッカーの試合で好セーブを連発したゴールキーパーの川島永嗣選手について、腕が4本ある合成写真を紹介するとともに、司会者が「**原発事故の影響ではないか**」と**発言し(M)**、不適切だと**批判の声が上がっています(N)**。①今月12日に日本とフランスの代表が対戦したサッカーの試合では、日本が1対0でフランスに初めて勝利し、好セーブを連発した川島選手の活躍などが、日本の勝利に貢献しました。②フランスの公共放送、フランス2(トゥー)は、この試合を13日の情報番組でとりあげ、司会者が「日本のゴールキーパーは非常にすばらしかったが、疑わしい点がある」と指摘しました。③その上で、川島選手に腕が4本ある合成写真を紹介するとともに、「**原発事故の影響があったとしても、わたしは驚かない**」と**発言しました(m1)**。④これについて、フランスの日本大使館は、フランス2に早急に抗議するとしています。⑤また、川島選手が現在、プレーしているベルギーの新聞は「不適切で後味の悪い発言だ」とか、「冗談にしては行き過ぎではないか」と**批判するなど、ヨーロッパのメディアの間でも問題視する報道が出ています(n1)**。

①民主党の輿石幹事長は、会談のあと、記者団に対し、「野田総理大臣も、これまでの経緯はわかっている訳で、それを踏まえて、党首会談をやるということであれば、「近いうちに信を問う」という発言について、「真摯に受け止める」「重く受け止める」と言うだけでは、なかなか党の合意は得られないということは**理解しているはずだ**と述べました(N)。①また、輿石氏は、臨時国会の日程について、「党首会談をやるということになり、次の段階になれば、「いつ召集しましょう」ということになる。もちろん政府・与党としての考えはもっている」と述べました。

①環境に優しい次世代エネルギーとして注目されている水素を使った燃料電池で動くバスの試乗会が、福岡県大野城市で**行われました(N)**。①燃料電池バスは、燃料の水素を酸素と化学反応させることで電気を作ってモーターを動かす仕組みで、二酸化炭素を出さないことから、環境に優しい乗り物として注目されています。②この燃料電池バスは、大手自動車メーカーのトヨタ自動車と日野自動車が、平成28年ごろの一般販売に向けて、共同開発をすすめています。③きょうは、大野城市の自動車教習所でバス会社などを対象とした試乗会が**行われました(n1)**。試乗会では、バス会社の運転手が運転し、燃料電池車特有の加速の良さや、音の静かさなどを確かめていました。④燃料電池バスを初めて運転した運転手は、「一般のバスと比べて運転操作もほぼ同じで、大きな振動がなく静かで加速も良かった」と話していました。⑤トヨタ自動車の大村英巳担当部長は「環境には良いが、価格はまだまだ高いので価格を低くできるよう努力し、普及させていきたい」と話していました。

①霧島連山の新燃岳の活動について、火山噴火予知連絡会は、「火口直下の火山性地震が少ないながらも続いていることから突発的に噴火する可能性は**否定できない**」という**検討結果をまとめました(N)**。①専門家など作る火山噴火予知連絡会は、きょう気象庁で定例会合を開き、全国の火山の活動状況を検討しました。②このうち新燃岳では、去年9月に降噴火は発生しておらず、地殻変動の観測データからマグマがたまっているところとみられる場所の膨張が、去年12月に降収まったということです。③しかしマグマの量はすでに相当量、蓄積されていることに加え、こと5月頃から減少していた火口直下の火山性地震がこと8月末から、やや増えたということです。④このため火山噴火予知連絡会は、「火口直下の火山性地震が少ないながらも続いていることから、突発的に噴火する可能性は**否定できない**」という**検討結果をまとめました(n1)**。⑤引き続き火口から2キロ以内は噴石などに注意が必要です。

①大地震の際に救命活動や緊急物資の輸送の拠点となる全国の主な空港のうち、羽田空港をはじめとする12の空港の滑走路や管制塔など50の施設で、耐震化や液状化現象を防ぐ対策などが**実施されていないことがわかりました(N)**。①(ウ)会計検査院は、早急に対策を取るよう**求める方針です(Z)**。①国土交通省は、大地震の際に救命活動や緊急物資の輸送を行う拠点としての機能を保てるよう、主要な13の空港について、耐震性を確保する方針を平成19年に決めました。②ところが、会計検査院が調べたところ、羽田空港や大阪空港など7つの空港の滑走路や誘導路など20の施設で、耐震化や液状化を防ぐ対策が**実施されていないことがわかりました(n1)**。③このうち、羽田空港では、1本の滑走路など3つの施設で液状化対策を行って**いなかったほか(n2)**、誘導路など8つの施設では、液状化のおそれがあるかどうか**調査していませんでした(n3)**。④また、成田空港と関西空港は、それぞれ管制塔と空港事務所の耐震化を**終えていないほか(n4)**、羽田など7つの空港では、管制塔や消防の庁舎など20の施設で、耐震診断を行って**いませんでした(n5)**。⑤こうした施設は、羽田を中心に12の空港の50に上り、会計検査院は、首都直下地震などの発生が懸念される中、早急に対策を取るよう国土交通省に**求める方針です(z1)**。

105 ①去年、東京・立川市の警備会社から現金およそ6億円が奪われた事件で、実行役に指示したとされ、強盗傷害などの罪に問われている男に対し、東京地方裁判所立川支部は、「具体的な犯行方法を指示するなど事件に深く関与した」と指摘して (M)、懲役17年の判決を言い渡しました (N)。②今年5月、東京の警備会社「日月警備保障」の立川市の営業所で、宿直の警備員が襲われ、現金およそ6億円が奪われた事件で、埼玉県吉川市の会社役員、A被告(47)は実行役の男に犯行を指示したとして、強盗傷害などの罪に問われています。③この事件は裁判員裁判で審理され、これまでの裁判で、弁護側は、「連絡役を務めただけだ」と主張していました。④判決で、東京地方裁判所立川支部の池本壽美子裁判長は「被告は、実行役に具体的な犯行方法を指示するなど事件に深く関与した (m1)」。多額の現金を奪い、警備員に重傷を負わせた結果は重大だ」と指摘して (m2)、懲役20年の求刑に対し懲役17年を言い渡しました (n1)。

106 ①人気漫画「黒子のバスケ」の作者を中傷する文書が、作者の出身大学や、都内のラジオ局など、あわせて20か所以上に送りつけられ (M)、新たに漫画のアニメを放送している大阪の毎日放送にも届いていたことがわかりました (N)。②警視庁が威力業務妨害の疑いで捜査しています (Z)。③警視庁によると、人気漫画「黒子のバスケ」の作者、藤巻忠俊さんの中傷する文書は、先月12日以降、藤巻さんの出身校の上智大学や、新宿区の戸山高校、それに、都内の文化放送など、20か所以上に届いています (m1)。④文書には、「作者が憎い、全てを奪われた」などと書かれていて、このうち上智大学の体育館には、文書とともに液体が入った容器が置かれ、致死量を大幅に超える硫化水素が発生していたとみられていますが、ふたを開けた女子大学生にけがはなかったということです。⑤また、きのう新たに、「黒子のバスケ」のアニメを放送している大阪の毎日放送にも文書が届いていることがわかり (n1)、文書には「アニメを今後流すのであれば覚悟しておけ。火・刃物・銃、どんな手でも使ってやる」などと書かれ、封筒の中には透明の液体が入ったプラスチック製の容器も入っていたということです。⑥これまでに届いた文書の消印は、東京と大阪の郵便局になっているということで、警視庁が威力業務妨害の疑いで捜査しています (z1)。

107 ①瑞宝重光章を受章する東京農工大学特別栄誉教授の遠藤章さんは、秋田県出身の78歳 (L)、東北大学農学部を卒業したあと、製薬会社で新薬の開発に取り組み (M)、実験を繰り返した6400株近いカビとキノコの中から、昭和48年、「スタチン」という物質を発見しました (N)。①「スタチン」は血液に含まれるコレステロールの合成を抑える物質で、その後、アメリカで動脈硬化の治療薬として発売され、今では世界で、毎日、推計3000万人が使ったと知られています。②受章について、遠藤さんは「科学者になって人の役に立つのが念願だったので、それを叶え、国も認めてくれたことに、これ以上の喜びはないと感じています。初めてスタチンを投与した患者のコレステロールの値が下がり、症状が回復するのを見た時は、人の命を救えると実感した瞬間で、生涯で最大の思い出です。これからは自分の体験を話しながら、1人でも多くの子どもたちに科学のおもしろさと重要性を伝える活動を続けていきたいです」と話しています。

108 ①田中文化科学大臣が愛知県岡崎市の岡崎女子大学の認可を見送ったことについて、開学を目指している学校法人の理事長が愛知県の大臣知事を訪ね (L)、「大臣の判断で一瞬にして認可がくつがえされ、ゆゆしき事態だ」と述べ (M)、撤回に向けて協力を求めました (N)。①「岡崎女子大学」は、愛知県岡崎市の学校法人「清光学園」が、岡崎女子短期大学に加えて、4年制の大学として来年4月の開学を目指していますが、今月2日、田中文化科学大臣が認可を見送ったことを明らかにしました。②これを受けて、「清光学園」の長柄孝彦理事長が、きょう午前、愛知県の大臣知事を訪ねました (n1)。③長柄理事長は、「短期大学の実績を積み重ね、2～3年をかけて準備を進めてきた。審議会の答申までいただいた話が大臣の判断で一瞬にしてくつがえされてしまうのは、あってはならないゆゆしき事態だ」と述べ (m1)、撤回に向けて協力を求めました (n1)。④大臣知事は、「言語道断の話で、撤回撤回を求めていくとともに、田中大臣には関係者に謝罪してもらいたい」と述べ、全面的に協力する考えを伝えました。⑤長柄理事長らは、同じ認可が見送られた秋田市と、札幌市の大学の関係者とともに、あす、文部科学省を訪れて、撤回を求める方針を伝え、大臣知事も同席する考えを示しました。

109 ①インターネット上で動画などを共有するファイル交換ソフトを使ってわざわざ動画を流出させていたとして、警視庁と4つの府県の警察本部が一斉に摘発を行い (M)、あわせて8人を逮捕しました (N)。①このうち警視庁に逮捕されたのは (n1)、群馬県藤岡市の会社員、A容疑者(47)らあわせて3人の男です。②警視庁の調べによりますと、3人はことし5月から8月にかけて、自宅のパソコンから「パーフェクトダーク」と呼ばれるファイル交換ソフトを使ってわざわざ動画を流出させ、ソフトを使えばインターネット上で誰でも閲覧できる状態にした疑いが持たれています。③ファイル交換ソフトはインターネット上で動画や音楽などを共有化する機能があり、警視庁によりますと、事件で使われた「パーフェクトダーク」はパソコンに流出の痕跡が残らないとされています。④3人は「自分には捜査が及ばないと思っていた」などといずれも容疑をみとめているということです。⑤このほか4つの府県の警察本部も、30代から50代の男5人を同じ容疑で逮捕しました (n2)。⑥「パーフェクトダーク」を使ったわざわざ動画をの一言摘発 (m1) は初めてだということです。

110 ①東日本大震災での教訓をもとに、山形市は、市内を27のブロックに分け、ブロックごとに避難所を運営する際の指針を新たに作成する方針を明らかにしました (N)。①山形市では、去年の大震災の際、停電や余震に対する不安から自宅を過ごせなくなった人たちのために避難所を開設しましたが、避難所を運営する指針がなかったために、職員の配置や物資の提供が滞るケースもあったということです。②このため山形市は、市内を27のブロックに分けた「防災支部」を新たに設け、ブロックごとに避難所を運営する指針を作成することにしました (n1)、きょうは、山形市役所で職員向けの説明会が開かれました。③山形市では、防災支部ごとに市職員の責任者を任命した上で、地区の自主防災組織と協議を進め指針を作成することになっています。④指針には、避難してくる地域の住民の名簿作りや避難所の部屋割りなどが盛り込まれ、山形市は今年度中にも完成させる方針です (n2)。⑤山形市の市川昭男市長は、「担当職員とのマニュアル作りを通して、市民に一度、災害に対する意識を高めてもらいたい」と話していました。

111 ①介護保険の利用者や介護の現場で働く人などからの相談を電話で受け付ける「介護保険ホットライン」がきょうから始まり (M)、「保険料が上がって負担が重い」などの相談が寄せられています (N)。①この電話相談は、東京のNPO法人や市民団体が毎年、行っているもので、きょう午前中から、ケアマネージャーなどが対応しています (m1)。②このうち、92歳の母親を自宅で介護しているという68歳の男性からは、「都内で引っ越ししたら、介護保険料が大きくなり、年金暮らしなので苦しい。転居先の自治体担当者は親身になってくれず、絶望的な気持ちになる」という相談が寄せられました (n1)。③介護保険は、ことし4月に制度が見直しされ、多くの市区町村で保険料が引き上げられたり訪問介護サービスのうち、家事などの「生活援助」の時間が短縮されました。④電話相談を行った市民団体の代表の小竹雅子さんは、「制度が変わるたびに複雑で分りにくくなっているので、利用者の声を聞いて、実態や問題点を把握したい」と話していました。⑤「介護保険ホットライン」の電話番号は、03-3235-2100で、あさって(16日)までの3日間、午前10時から午後4時まで相談を受け付けています。

112 ①政府は、赤字国債発行法案が成立したことから、財源確保のために続けていた今年度予算の執行抑制を解除し (M)、このうち、交付を延期していた地方交付税およそ4兆円を今月(11月)19日に交付することになりました (N)。①赤字国債発行法案の成立の遅れで、政府は、今年度予算について「財源が枯渇する恐れがある」として、ことし9月以降、一部の補助金の減額や、地方自治体の財源を賄うための地方交付税の交付の延期など、予算執行を抑制してきました。②しかし、赤字国債発行法がきょうの参議院本会議で成立したことから、執行抑制を解除しました (m1)。③城島財務大臣は、閣議のあとの記者会見で、執行の抑制によって交付を延期していた地方交付税、およそ4兆円分については、週明けの今月19日に交付することを明らかにしました (n1)。④さらに城島大臣は、交付の遅れによって道府県が一時的に民間から資金を借り入れて発生した金利については、国が肩代わりして負担することを検討する考えを示しました。

113 ①サッカーのイタリア1部リーグ・インテルの長友佑都選手は、18日、ホームでのキャリア戦にフル出場しました (N)。①長友選手は、左のミッドフィールダーとしてリーグ戦に5試合連続で先発出場し (n1)、前半から積極的に攻撃をしかけました。②1対1の同点で迎えた後半9分には左サイドから絶好のクロスボールをゴール前に入れたが、味方選手が決められませんでした。③長友選手はフル出場しました (n2) が得点には絡まず、インテルは2対2で引き分けました。

- ①政府の郵政民営化委員会が「かんば生命保険」による新しい学資保険の販売を認める意見をまとめたことについて、榊原総務大臣は今月（11月）中に正式に認可したいという考えを示しました（N）。①かんば生命が申請している新しい学資保険の販売について、郵政民営化委員会がきょう、認める意見をまとめたことから、今後は総務省と金融庁が正式に認可すべきかどうか判断することになっています。②これに関して、榊原総務大臣は今夜、記者団に対して、「今月中に認可を行うべく事務方に調整を指示した」と述べ（n1）、総務省としては今月中に正式に認可したいという考えを示しました（n2）。③一方、かんば生命保険で推計100億円程度の保険金支払い漏れが明らかになったことを受けて、金融庁が認可に慎重な姿勢を示していることについては、「金融庁としての考えもあろうが、それも踏まえて調整するよう事務方に指示している」と述べました。④その上で、榊原大臣は、保険金支払い漏れについて「来年3月末までに追加支払いなどの対応を終えるよう求めたい」と述べ、業務運営態勢を引き続き監督していく考えを示しました。
- ①きょう未明、岐阜県中津川市の住宅から火が出て（L）、焼け跡から2人が遺体で見つかったほか（M）、3人が軽いけがをしました（N）。①（2）警察は、亡くなったのは、この家に住む80歳と77歳の夫婦とみて（Y）確認を急いでいます（Z）。①きょう午前0時半ごろ、岐阜県中津川市神坂の会社員、Aさん（49）の住宅から火が出ていますと、消防に通報がありました（I1）。②火はおよそ3時間後に消し止められましたが、この火事で、軽量鉄骨の2階建ての建物およそ100平方メートルが全焼し、焼け跡から2人が遺体で見つかりました（m1）。③また、Aさんと、消火活動にあたった近所の女性2人のあわせて3人が、煙を吸い込むなど軽いけがをしました（n1）。④Aさんは80歳の父親と77歳の母親と住んでいますが、火事のおと2人とも連絡が取れなくなっているということで、警察は遺体で見つかったのはこの夫婦とみて（y1）、確認を急いでいます（z1）。⑥現場は長野県との県境に近い住宅が点在する地域で、警察と消防が火事の原因を調べています。
- ①沖縄県の尖閣諸島の周辺海域を対象にした日本と台湾の漁業交渉をめぐって、3年半以上、中断している交渉の再開に向けた予備会合があさって（30日）、東京で開催されることが決まりました（N）。①尖閣諸島の周辺海域を対象にした日本と台湾の漁業交渉は、1996年8月に始まりましたが、操業水域などをめぐり、双方の主張の隔たりが埋まらなかったため、2009年2月以降、3年半以上、中断したままになっています。②台湾の漁業者は、この海域が、マグロなどの好漁場だとして操業を望んでおり、ことし9月には、日本政府による国有化に抗議する漁船団が台湾当局の巡視船とともに魚釣島沖の日本の領海に侵入しました。③関係者によりますと、日本政府と台湾当局は、漁業交渉を進展させることが対立を解くカギになるとして、双方の窓口機関を通して協議を続けた結果、正式な交渉再開に向けた予備会合をあさって東京で開催することを決めました（n1）。④予備会合では、尖閣諸島の領有権をめぐる主張の違いには踏み込みず、日本の排他的経済水域と台湾が定める漁業水域が重なる海域での双方の漁船の操業ルールをどのように定めるかを中心に、意見が交わされる見通しです。⑤尖閣諸島をめぐっては、中国が台湾に対して連携して日本に対抗するよう呼びかけていることもあって、日本が台湾の漁業交渉を再開すれば中国へのけん制になるという見方もあり、予備会合を通じて交渉再開への道筋を早期につけられるかどうか、注目されます。
- ①反捕鯨団体「シー・シェパード」は、南極海での日本の調査捕鯨の妨害を目的とした2隻目の船をけさ、オーストラリアの港から出発させました（N）。①この船の名前は「ボブ・バーカー」で、けさ、オーストラリアのシドニーの港を出発しました（n1）。②反捕鯨団体「シー・シェパード」は、先月5日にも別の船「スティーブ・アーウィン」を出航させていて、これら2隻の船は、今後、合流して、南極海での日本の調査捕鯨を妨害すると見られています。③シー・シェパードは、さらに2隻の妨害船の出航を準備しているほか、ドイツで拘束されて保釈中に逃亡し、ICPO＝国際刑事警察機構から国際手配されている代表のポール・ワトソン容疑者も、妨害活動に参加するとしています。④シー・シェパードによる日本の調査捕鯨の妨害は激しさを増している、水産庁によりますと、昨シーズンは妨害活動があわせて12回にのぼり、南極海で悪天候が続いたこともあって、捕獲できたクジラは267頭と、およそ900頭の捕獲枠を大幅に下回りました。
- ①アメリカのメディア大手、ニュース・コーポレーションは、経営体制を見直すべきだという株主の要求に応じ（M）、来年6月までに、テレビや映画など娯楽部門の「フォックス・グループ」と、新聞など出版部門の「ニュース・コーポレーション」の2つの会社に分割することを決めました（N）。①ニュース・コーポレーションは、アメリカの「フォックステレビ」や映画の「20世紀フォックス」、それに「ウォール・ストリート・ジャーナル」や、イギリスの「タイムズ」などの有力紙を抱える巨大メディアグループです。②しかし、去年、イギリスで発覚した盗聴事件をきっかけに、株主の間でルパート・マードック会長が推進した拡大路線への批判が高まり経営体制を見直すべきだという声が高まっていました。③これについて、ニュース・コーポレーションは3日、グループの再編計画を公表し、来年6月までにテレビや映画など娯楽部門の「フォックス・グループ」と、新聞など出版部門の「ニュース・コーポレーション」の2つの会社に分割すると発表しました（n1）。④新しい「ニュース・コーポレーション」のCEO＝最高経営責任者にはマードック氏の腹心とされる「ウォール・ストリート・ジャーナル」のロバート・トムソン編集長が就任するとしています。マードック氏自身も「フォックス・グループ」のCEOと分割した2つの会社の会長を兼務するとしていて、引き続き両社の経営に強い影響力を持つことになりそうです。
- ①ことし10月、埼玉県美里町で76歳の女性が自宅の押し入れの中で遺体で見つかった事件で、遺体を放置した疑いで逮捕された男が、女性を殺害し、財布を奪ったとして、強盗殺人の疑いで再逮捕されました（N）。①（2）男は容疑を否認しているということです（Z）。①再逮捕されたのは（n1）、住居不定・無職のA容疑者（53）です。②ことし10月、美里町阿那志の住宅で、この家に1人で暮らすBさん（76）が押し入れの中で首を絞められて殺害されているのが見つかりました。③警察は先月（11月）、Bさんの知り合いで事件の4日前に金を借りに来ていたA容疑者をBさんの遺体を放置したとして、死体遺棄の疑いで逮捕しました。④警察のその後の調べで、遺体の指からA容疑者と同じDNAの型が検出されたほか、Bさんの自宅からは現金数万円が入った財布がなくなっていたことが分かったということです。⑤また、Bさんの自宅の窓が割られていたということで、警察はA容疑者が窓から侵入してBさんを殺害し、財布を奪った疑いが強まったとして、強盗殺人の疑いで再逮捕しました（n2）。⑥警察の調べに対し、A容疑者は「知らない」などと容疑を否認しているということです（z1）。
- ①兵庫県宝塚市の選挙管理委員会は、衆議院選挙の期日前投票が行われていた市内の投票所で、きのう、小選挙区の投票の際、27人の有権者に誤って比例代表の投票用紙を手渡すミスがあったことを明らかにしました（N）。①兵庫県宝塚市の選挙管理委員会によりますと、市内の投票所1か所で、きのう午前9時から20分までの間、投票所の担当者が小選挙区の投票の際、27人の有権者に誤って比例代表の投票用紙を手渡していたということです（n1）。②まもなく誤りに気づきましたが、すでに全員が投票を済ませたあとだったということです。③宝塚市選挙管理委員会の米谷宗久委員長は、「確認が不十分だった。重大なミスを起こし、深くおわびします」と陳謝しました。④兵庫県選挙管理委員会によりますと、誤って投票された票は、通常、無効になるということです。
- ①被害者の母親は、「とても受け入れられない内容で悔しくて納得できません。検察には最高裁に上告してもらい、真実が明らかになることを祈り続けます」というコメントを出しました（N）。①また、代理人の細川治弁護士は、記者会見し、「母親は立ち上がるのも難しいくらい判決にショックを受け、絶望している様子でした。このままでは娘に報告できないと、検察官に上告するよう強くお願いしていました」と話していました。

①日本の製造業の進出が続く中、技術力の向上が課題となっているベトナムでは、日本の支援を受けて金属加工の技術力をはかる初めての国家試験が行われ (M)、日本企業の関係者の間からは、技術力の底上げにつながるとして期待が高まっています (N)。①ベトナム政府が実施した (m1) この国家試験は、金属加工の機械を扱う技術力をはかるもので、首都、ハノイの大学で、きのうときょうの2日間、行われました (m2)。②試験には10人が参加し、「マシニングセンタ」と呼ばれる金属加工で使われる工作機械の操作の実技試験が行われました (m3)。③試験会場では、受験者が、制限時間内にプログラムを入力して、金属を決められたサイズに加工し、2人の試験官がその正確さを採点しました (m4)。④今回の試験が実施された背景には、製造業を中心に、日本からベトナムへの進出が加速する中、現地で部品などを調達するには、地元メーカーの技術力の向上が課題だという声が、日本企業の間で広がっていることがあり、JICA (ジャイカ) =国際協力機構が試験の採点基準の作成などを支援しました。⑤受験した若い男性は、「試験のために、新しい知識を学びました。よい機会になったと思います」と話しており、ベトナムに進出している日本企業の間からは、国家試験の合格者が増えれば、ベトナムの技術力の底上げにつながるとして期待が高まっています (n1)。⑥試験の結果は、あす、発表される予定です。

①福井県にある高速増殖炉「もんじゅ」で、9600件あまりにのぼる機器の点検漏れが見つかったことをめぐり、事業者の日本原子力研究開発機構のトップが、「ミスが出るのはやむをえない」と発言していたことがわかり (M)、原子力規制委員会は、「モラルの低下につながるゆゆしき問題だ」として、監督する文部科学省に事情を聞くことを決めました (N)。①「もんじゅ」の点検もれは、ことし9月の国の保安検査で安全上重要なものを含む9679件の機器で見つかり、規制委員会が今月13日、原子力機構の鈴木篤之理事長を呼んで、原因究明と再発防止を命じる文書を手渡しました。②その際のやりとりが、きょうの委員会に報告され、当日、対応した原子力規制庁の池田長官が、「鈴木理事長は『形式的なミスが出るのはやむをえない』と発言した (m1)。トップの発言としては不適切で、現場のモラル低下につながるゆゆしき問題だ」と批判しました。③報告を聞いた委員からも厳しい発言が相次ぎ、田中委員長は、「トップの意識がそうだと、安全を守る意識が組織全体に広がらない」などと述べて、原子力機構を監督する文部科学省から事情を聞くことを決めました (n1)。④鈴木理事長は、平成13年から9年間、原子力安全委員を務め、最後の2年間は委員長に就任し、日本の原子力安全の中核を担ってきました。

①インターネットの掲示板「2ちゃんねる」で違法薬物の密売に関する書き込みを放置したとして、きのう、元の管理人が書類送検されたことを受けて、管理者側の責任を定めた新たなルール作りを求める声が上がっている一方で (M)、責任の追及は慎重に行われるべきだとする意見も出ています (N)。①国内最大規模のインターネットの掲示板「2ちゃんねる」で、違法薬物の密売に関する書き込みを削除せずに放置して、結果的に覚醒剤の密売事件を助長した疑いがあるとして、警視庁は、掲示板を開示したA元管理人 (36) をきのう、麻薬特例法違反のほう助の疑いで書類送検しました。②問題の覚醒剤の密売事件では、去年5月、密売をもちかける書き込みをした55歳の男が逮捕されていますが、警視庁によりますと、男は「2ちゃんねるは違法薬物に関する書き込みが多く、消されることがないので、取り引きがしやすいと思った。毎月100件くらいの密売をしていた」などと供述していたということです。③2ちゃんねるでは、去年、警察庁の委託する団体が削除を依頼したにもかかわらず、5000件余りの違法な書き込みが放置されていましたが、捜索が行われた後のことし6月までの半年間にはおよそ170件まで減少し、自主的な削除が進んでいます。④違法な情報が書き込まれるケースは、複数の交流サイトや、ほかの掲示板でも相次いでいて、実際に薬物の取り引きに使われたケースも確認されていることから、管理者側の責任を定めた新たなルール作りを求める声も上がっています (m1)。⑤元検事で、薬物犯罪の捜査に詳しい若狹勝弁護士は、「掲示板の運営者と書き込みをした人を見知らぬ者どうしであれば、違法な書き込みを放置した行為を罪に問うのは困難なものではないか。きちんと手立てする必要がある」と話しています。⑥一方で、インターネットに関する法律問題に詳しい森亮二弁護士は「管理者がすべての書き込みをチェックすることは難しい。匿名の掲示板だから違法な情報が投稿されるという意見もあるが、匿名性を制限すれば、内部告発や権力者への批判が難しくなることも考えられる」と管理者への責任追及は慎重に行われるべきだという考えを示しています (n1)。

①いじめの問題に詳しい國學院大学の澤登俊雄名誉教授は「いじめが起きた時に、まずは教師が中心となって学校の責任で事実関係の把握や対策をすく取るべきだが、犯罪行為が認められる場合には、警察に連絡や報告をきちんとすることが必要だ (M)。これまでは、いじめについて表に出したくないという意識が教師や教育委員会に強かったが、そうした意識は変えなければならない」と話しています (N)。①一方で、「警察が調べる部分はあくまで犯罪に関わる部分だけであって、犯罪にはならないいじめもあるし、周りの友達も含めた人間関係や教師の対応のしかたなど、いろいろな複雑な状況でいじめは起きるので、警察がすべてを解明できるわけではない。警察が介入することによる教育現場への影響も大きい」として、警察の捜査だけではいじめの真相の解明には限界があると指摘しています。②そして「まずは教師や学校側が当事者としての責任をもっと強く認識することが重要で、そのうえで必要に応じて、警察も含めた対応がとれるように関係する機関が体制作りをさらに進めていくことが重要だ」と話しています。